

6.1.4. 生物環境

(1) 植物

ア 植物相及び注目すべき種の状況

植物相

a) 文献調査

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）によれば、仙台市の丘陵地帯は暖地帯と冷温帯の間に位置する中間温帯と呼ばれる領域でモミーイヌブナ林の発達が見られ、しかもその領域が広い面積を占めることが特徴である。この領域では暖地系の植物、寒地系の植物の両方が見られるなど、植物相は非常に多様である。

また、「大和町環境基礎調査業務委託報告書」（平成 15 年 3 月 大和町）によれば、大和町ではミズナラ、オオカメノキ、エゾユズリハ、ヒメアオキ、チシマザサ等が生育する。

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書において、調査地域（対象事業計画地及びその周辺約 200m の範囲）で植物相調査を実施している。植物相調査実施日は表 6.1-98、植物相確認種数一覧表は表 6.1-99 に示すとおりである。

確認された植物種は調査地域全体で 122 科 720 種（亜種，変種，品種も 1 種とする）であり，その大部分は宮城県内の低地や丘陵地に主に生育する種で構成される。

表 6.1-98 植物相調査実施日（平成 12 年 3 月評価書）

調査項目	調査年	調査月日
植物相	平成 9 年	8 月 26 日，27 日，28 日 10 月 7 日，8 日
	平成 10 年	4 月 19 日 5 月 1 日，16 日，17 日，29 日，30 日
植物群落	平成 9 年	8 月 26 日，27 日，28 日

出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

表 6.1-99 植物相確認種数一覧表（維管束植物）（平成 12 年 3 月評価書）

分類群		対象事業 計画地内		対象事業 計画地周辺		全体				
		科数	種数	科数	種数	科数	種数			
シダ植物		10	36	10	28	11	40			
種子植物	裸子植物	5	6	4	5	5	6			
	被子植物	単子葉植物		15	147	15	135	15	192	
		双子葉 植物	離弁花類		58	248	60	248	64	306
			合弁花類		24	136	24	131	27	176
合計		112	573	113	547	122	720			

出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

注目すべき植物種

a) 文献調査

注目すべき植物種は「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）に掲載されている学術上重要種，減少種，環境指標種及びふれあい保全種の該当種に加え，環境省レッドリスト・宮城県レッドリスト・文化財保護法及び種の保存法の該当種とした（表 6.1-100 及び表 6.1-101 参照）。

調査範囲における注目すべき植物種は，表 6.1-102～表 6.1-105 に示すとおりである。この注目すべき植物種のうち「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）に記載のある植物種は 81 種であり，分布地は根白石，朴沢小山，水の森公園等である。また，「大和町環境基礎調査業務委託報告書」（平成 15 年 3 月 大和町）に記載のある植物種のうち調査範囲に生育する注目すべき植物種は 37 種であり，分布地は大和町宮床地区である。

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書において確認された注目すべき植物種は表 6.1-102～表 6.1-105 に示す 104 種であり，その確認位置は図 6.1-32 に示すとおりである。

以上 3 つの文献に記載の調査範囲における注目すべき種は，全部で 130 種である。

表 6.1-100 注目すべき種の選定基準

選定基準		番号	説明	
仙台市における保全上重要な種の区分	学術上重要種	1	仙台市において、もともと稀産あるいは希少である種。あるいは分布が限定されている種。	
		2	仙台市周辺地域が分布の北限、南限となっている種。あるいは隔離分布となっている種。	
		3	仙台市が模式産地（タイプロカリティー）となっている種	
		4	その他、学術上重要な種	
	注目種	減少種	EX	絶滅。過去に仙台市に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、仙台市では既に絶滅したと考えられる種。
			EW	野生絶滅。過去に仙台市に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられる種。
			A	現在ほとんど見るができない。
			B	減少が著しい。
			C	減少している。
			*	普通に見られる。
			/	生息・生育しない可能性が非常に大きい。
	環境指標種	○	本市の各環境分類において良好な環境を指標する種。（ビオトープやミティゲーションにおける計画・評価のための指標）	
	ふれあい保全種	○	市民に親しまれている（よく知られている）種のうち、保全上重要な種。（身近にある種の保全に対して啓蒙をはかるための種。）	
レッドデータ等	国 RDB（「環境省第4次レッドリスト」（平成24・25年 環境省報道発表資料）掲載種）	EX	絶滅	
		EW	野生絶滅	
		CR	絶滅危惧ⅠA類	
		EN	絶滅危惧ⅠB類	
		VU	絶滅危惧Ⅱ類	
		NT	準絶滅危惧	
		DD	情報不足	
	LP	絶滅のおそれのある地域個体群		
	宮城 RL（「宮城県の希少な野生動植物－宮城県レッドリスト2013版－」（平成25年 宮城県）掲載種）	EX	絶滅	
		EW	野生絶滅	
		CR+EN	絶滅危惧類	
		VU	絶滅危惧Ⅱ類	
		NT	準絶滅危惧	
		DD	情報不足	
		要	要注目種	
	天記、種保存法	特天	『文化財保護法』（昭和25年法律第214号）における特別天然記念物	
		天	『文化財保護法』（昭和25年法律第214号）における天然記念物	
		国内	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）』（平成4年法律第75号）における国内希少野生動植物	
		国際	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）』（平成4年法律第75号）における国際希少野生動植物	

出典：「平成22年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成23年3月 仙台市）

表 6.1-101 減少種の地域区分

番号	地域区分
1	山地地域
2	西部丘陵地・田園地域
3	市街地地域
4	東部田園地域
5	海浜地域（後背の樹林帯も含む）



※：対象事業計画地は、「2 西部丘陵地・田園地域」に該当する。

出典：「平成22年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務報告書」（平成23年3月 仙台市）
「杜の都環境プラン 仙台市環境基本計画 2011-2020」（平成23年3月 仙台市）

表 6.1-102 注目すべき植物種(1/4)

No.	科名	種名	文献			仙台市重要種区分							国 RDB	県 RL	天記・種保存法	分布地	
			①	②	③	学術上重要種	注目種										
							減少種				ふれあい保全種						
							山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園		海浜					採掘指標種
1	ミズニラ	ミズニラ	○		○	1		B		A				NT	NT	根白石	
2	トクサ	イヌスギナ		○				B		B						大和町宮床地区	
3	コケシノブ	ヒメハイホラゴケ	○			1										朴沢小山	
4	オシダ	リョウメンシダ	○	○	○			B				○	○			水の森公園, 大和町宮床地区	
5		オシダ			○			B				○					
6		イワシロイノデ	○		○			B									水の森公園, 根白石
7		サカゲイノデ	○					B									北中山
8		ジュウモンジシダ	○		○			B				○	○			水の森公園	
9	メシダ	シケチシダ			○	1,2									要		
10		イヌガンソク			○			C					○				
11		クサソテツ			○			B		C			○				
12	マツ	モミ	○	○	○	2		C				○	○			長命館公園, 大和町宮床地区	
13	イチイ	カヤ			○	2		B					○				
14	クルミ	オニグルミ			○			B	B	B		○	○				
15	ヤナギ	ネコヤナギ			○	4		C	C			○	○				
16		キツネヤナギ	○		○			C				○	○			水の森	
17	カバノキ	ハンノキ			○	1,4		C		B	C	○	○				
18		ミズメ			○			C	C				○				
19		サワシバ	○	○	○			C	B			○					朴沢, 大和町宮床地区
20		アカシデ	○	○	○			C	B			/	○	○			黒森山, 長命館公園, 朴沢, 大和町宮床地区
21		イヌシデ	○	○	○	4		C	B			C	○			長命館公園, 朴沢, 大和町宮床地区	
22	ブナ	ブナ		○	○	4		C	B				○			屏風岳, 大和町宮床地区	
23		イヌブナ	○	○	○	1,4		B				○	○			屏風岳, 大和町宮床地区	
24		アカガシ			○	2		C	C	C	C	○					
25		ミズナラ	○		○			C	B				○				黒森山, 朴沢
26		アラカシ			○											要	
27			シラカシ	○		○	2		C	C	C	/	○	○			芋沢大國神社, 長命館公園
28	ニレ	エノキ	○		○	4		B	B	B			○			寺岡	
29		ケヤキ		○	○			C	C	B	B		○	○			大和町宮床地区
30	タデ	ヤナギヌスカボ	○			1				C				VU	要	福岡	
31		イヌタデ		○	○							○					大和町宮床地区
32		ミソソバ	○	○	○			C	B	C		○	○				水の森, 大和町宮床地区
33	ザクロソウ	ザクロソウ			○	1											
34	ナデシコ	カワラナデシコ	○		○			C				C	○			朴沢	
35	モクレン	タムシバ			○							○					
36	クスノキ	オオバクロモジ	○	○	○							○	○			水の森公園, 朴沢, 大和町宮床地区	
37		シロダモ	○			2		*		*	*	○	○				長命館公園, 鷺倉
38	キンボウゲ	ニリンソウ			○			B		B		○	○				
39		リュウキンカ	○		○							○					白石銅谷, 朴沢堂所
40		カザグルマ			○	1		B		B			NT	VU			
41			トウゴクサバノオ	○			1		B								鷺倉
42		バイカモ	○			1		B								朴沢上の原	

※1: 表中の文献は以下のとおりである。

- ①「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ②「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ③「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

※4: 減少種の地域区分については, 表 6.1-101 を参照

表 6.1-103 注目すべき植物種(2/4)

No.	科名	種名	文献			仙台市重要種区分							国 RDB	県 RL	天記・種保存法	分布地	
			①	②	③	学術上重要種	注目種										
							減少種				環境指標種	ふれあい保全種					
							山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園							海浜
43	ボタン	ヤマシャクヤク	○			1	B	B						NT	CR+EN	朴沢	
44	ツバキ	ヤブツバキ		○	○			B	B	B	B	○	○			大和町宮床地区	
45	モウセンゴケ	モウセンゴケ	○					C			C					寺岡	
46	ケシ	ヤマブキノソ	○			1		B								鷺倉, 堂所	
47	アブラナ	ナズナ	○	○	○			B	B	B		○	○			水の森公園, 北中山, 朴沢, 大和町宮床地区	
48	ペンケイソウ	ペンケイソウ			○										VU		
49		キリンソウ	○									○				上谷丸田沢	
50	ユキノシタ	トリアシショウマ	○	○	○		C	B		B			○			長命館公園, 大和町宮床地区	
51		コチャルメルソウ	○													朴沢洞門	
52	バラ	クサボケ			○										CR+EN		
53		ヤマブキ	○					C								朴沢	
54		カスミザクラ	○	○	○			C								黒森山, 大和町宮床地区	
55		ナガボノワレモコウ			○										VU		
56	マメ	ツクシハギ	○		○			B				○	○			水の森公園, 朴沢	
57	ユズリハ	ユズリハ	○			1,2		C		C	C					水の森公園	
58	カエデ	ハウチワカエデ	○	○	○			C					○			水の森, 鷺倉, 大和町宮床地区	
59		メグスリノキ	○	○	○	1		B					○			長命館公園, 朴沢, 大和町宮床地区	
60		ヤマモミジ	○		○			B					○	○		水の森公園, 朴沢	
61		イタヤカエデ (広義)	○	○	○			C								長命館公園, 朴沢, 大和町宮床地区	
62		ウリハダカエデ	○	○	○			C								長命館公園, 黒森山, 水の森公園, 朴沢, 大和町宮床地区	
63	トチノキ	トチノキ	○		○		C	C					○			朴沢	
64	モチノキ	イヌツゲ	○	○	○			C				C		○		長命館公園, 黒森山, 水の森公園, 大和町宮床地区	
65		ソヨゴ	○			1,2		C							NT	黒森山, 塩野沢	
66	スマレ	ナガハシスマレ	○	○	○	1		B		B						長命館公園, 黒森山, 水の森公園, 朴沢, 鷺倉, 芋沢, 大和町宮床地区	
67	ヒシ	ヒシ	○		○			B		B			○	○		芋沢, 朴沢, 福岡, 根白石	
68	アカバナ	カラフトアカバナ			○										NT		
69	ミズキ	アオキ	○	○	○			C	C	C	C	○	○			水の森公園, 長命館公園, 鷺倉, 大和町宮床地区	
70	ウコギ	コシアブラ	○		○		C	C						○		水の森公園, 長命館公園, 鷺倉	
71	イチヤクソウ	ウメガサソウ	○						C		C	○	○			朴沢	
72	ツツジ	ヤマツツジ	○	○	○			C	C		C	○	○			黒森山, 水の森公園, 長命館公園, 朴沢, 鷺倉, 大和町宮床地区	
73		トウゴクミツバツツジ	○			2		B								長命館公園	
74		ナツハゼ	○		○			C						○		長命館公園, 根白石	
75	ヤブコウジ	ヤブコウジ			○								○				
76	サクラソウ	サクラソウ	○		○	1		A						NT	CR+EN	芋沢, 朴沢	
77	エゴノキ	オオバアサガラ			○	1		A									
78	モクセイ	イボタノキ	○		○			B								根白石, 長命館公園, 朴沢	
79	リンドウ	ホソバツルリンドウ	○			1		C						VU	VU	実沢	
80		イヌセンブリ	○			1								VU	VU	福岡	
81	ガガイモ	スズサイコ	○			1		A						NT	VU	朴沢	
82		コカモメツル			○	1									VU		
83	ムラサキ	ルリソウ			○			C							NT		
84	シソ	ヒカゲヒメジソ			○										要		

※1: 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ② 「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ③ 「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

※4: 減少種の地域区分については, 表 6.1-101 を参照

表 6.1-104 注目すべき植物種(3/4)

No.	科名	種名	文献			仙台市重要種区分							国 RDB	県 RL	天記・ 種保存法	分布地		
			①	②	③	学術上重要種	注目種											
							減少種				ふれあい保全種							
							山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園		海浜					採掘指標種	
85	ゴマノハグサ	ムラサキサギゴケ		○	○				C								大和町宮床地区	
86	タヌキモ	イヌタヌキモ			○	1			B					NT	VU			
87	オオバコ	オオバコ	○	○	○							○					水の森, 長命館公園, 朴沢, 大和町宮床地区	
88	スイカズラ	オオカメノキ			○							○						
89	オミナエシ	オミナエシ			○				B		B	○	○					
90	キク	オクモミジハグマ	○	○	○				C			○					水の森, 大和町宮床地区	
91		キッコウハグマ	○		○				B			○					水の森公園	
92		オケラ	○		○				B			○	○				水の森公園, 長命館公園	
93		コウヤボウキ			○										CR+EN			
94		アキノキリンソウ	○	○	○					C			○					水の森, 大和町宮床地区
95		エゾタンポポ	○	○	○					C	B	B	C	○	○			黒森山, 鷺倉, 大和町宮床地区
96	オモダカ	アギナシ			○				C		B	○	○	NT	VU			
97	ヒルムシロ	エビモ	○						B		B	○					芋沢	
98		ホンバミズヒキモ			○				C		B	○				VU		
99	ユリ	カタクリ	○	○	○				B	B	B		○				水の森公園, 長命館公園, 鷺倉, 泉, 大和町宮床地区	
100		ショウジョウバカマ			○				B				○	○				
101		ニッコウキスゲ			○				B	B	B		○					
102		ヒメヤブラン	○	○						C			*	○	○			根白石, 朴沢, 大和町宮床地区
103		オオバジャノヒゲ	○	○	○					B			C	○				芋沢, 長命館公園, 大和町宮床地区
104		ナルコユリ			○											DD		
105	ユキザサ	○							C			○					長命館公園	
106	ミズアオイ	コナギ			○						C	○	○					
107	アヤメ	ノハナショウブ	○		○	1			C			○	○				朴沢, 水の森公園	
108		ヒメシャガ	○		○				B	B			○	○	NT	NT	長命館公園, 水の森公園, 福岡, 根白石	
109	イネ	ヤマアワ	○		○				B			B					根白石	
110		メヒシバ			○	○							○				大和町宮床地区	
111		カゼクサ	○	○	○					B	C		○				水の森, 朴沢, 大和町宮床地区	
112		オオウシノケグサ	○			4				B		B	C	○	○			古内
113		エゾノサヤヌカグサ			○	○						C						朴沢, 根白石, 大和町宮床地区
114		オギ			○					C	C	C	C	○	○			
115		ヨシ			○	○				C	C	C	C	○	○			大和町宮床地区
116		ツルヨシ			○					C	C	C		○				
117		オオクマガサ	○		○	3												水の森公園, 芋沢
118		マコモ			○					B		B	○	○				
119	シバ	○		○					B	B	B	○	○				長命館公園, 朴沢	
120	サトイモ	ミズバショウ	○						B			○	○				丸田沢	
121		ヒメザゼンソウ			○					B	C							
122	ミクリ	ナガエミクリ	○		○	1			A		A			NT	NT		根白石	
123	ガマ	ヒメガマ			○				C	C	C		○					
124	カヤツリグサ	タチスゲ	○		○	1									CR+EN		塩野沢	
125		カンガレイ	○		○				B		B						丸田沢	
126		サンカクイ			○					B		B						

※1: 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ② 「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ③ 「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

※4: 減少種の地域区分については, 表 6.1-101 を参照

表 6.1-105 注目すべき植物種(4/4)

No.	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										国 RDB	県 RL	天記・種保存法	分布地	
			①	②	③	学術上重要種	注目種													
							減少種													
							山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜	環境指標種	ふれあい保全種							
127	ラン	ジュンラン	○		○			C		C			○					水の森公園		
128		ホクリクムヨウラン	○			1		B										芋沢		
129		クモギリソウ	○		○	1, 4		B			B							芋沢, 朴沢		
130		ネジバナ	○	○	○			B		B		○	○					水の森公園, 長命館公園, 朴沢, 大和町宮床地区		
	63 科	130 種	81 種	37 種	104 種	40 種	11 種	100 種	23 種	44 種	22 種	65 種	59 種	12 種	26 種	0 種				

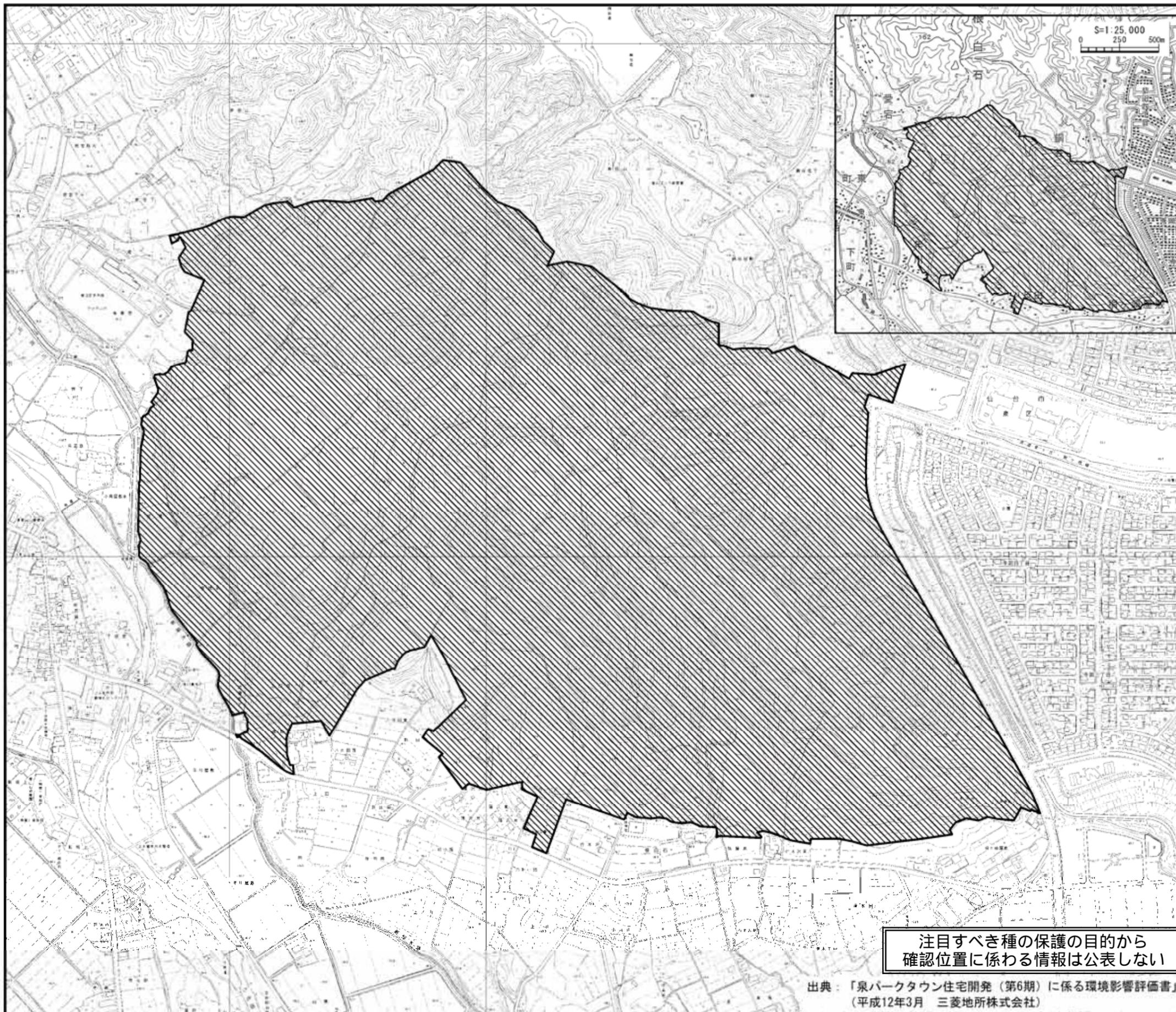
※1：表中の文献は以下のとおりである。

- ①「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）（報告書に記載されている種のうち，その種の分布地が，調査範囲に含まれている種）
- ②「大和町環境基礎調査業務委託報告書」（平成 15 年 3 月 大和町）（報告書に記載されている種のうち，その種の分布地が，調査範囲に含まれている種）
- ③「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

※2：表中の分布地は，文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3：表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

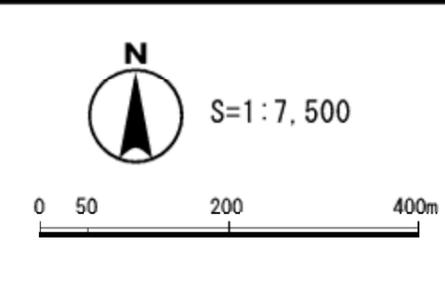
※4：減少種の地域区分については，表 6.1-101 を参照



凡	例
●	ミズニラ
■	シケチシダ
▲	アラカシ
★	ザクロソウ
●	カザグルマ
／	サクラソウ
●	オオバアサガラ
■	コカモメヅル
▲	アギナシ
★	ホソバミズヒキモ
●	ヒメザゼンソウ
■	ナガエミクリ
▲	タチスゲ
★	シュンラン
▨	対象事業計画地

ヒメジャガ

出典で位置が確認できた注目すべき種のみを記載した。
 ※右上の1/25,000の図は対象事業計画地外の確認地点を表したものである。
 一般的に、植物相調査では確認種全て位置情報を記録しているわけではなく、注目すべき種のみ位置情報を記録している。国及び宮城県のレッドリスト改訂により、平成12年当時では注目すべき種に該当しない種でも、現在では注目すべき種として選定される種があるため、上記凡例に記載の無い種は、位置情報が不明である。



注目すべき種の保護の目的から
 確認位置に係わる情報は公表しない

出典：「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」（平成12年3月 三菱地所株式会社）

図 6.1-32
 注目すべき植物種の確認位置図
 （平成12年3月評価書）

イ 植生及び保全上重要な植物の生育地の状況
植生

a) 文献調査

調査範囲の現存植生は、図 6.1-33 に示すとおりである。

対象事業計画地の東側及び南側の東北自動車道以南は、市街地となっている。七北田川周辺は、水田雑草群落が発達範囲を占める。対象事業計画地の北側及び七北田川を挟んで西側、大和町内はクリーコナラ群集やアカマツ群集が分布している。また、七北田川沿いにはヤナギ低木群落、ヨシクラスなどの自然植生や自然植生に近い植生自然度の高い植生がみられる（表 6.1-106 参照）。なお、「平成 21 年度 自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 22 年 3 月 仙台市）では、環境省の植生自然度 9, 10（自然植生）に該当する植生を「自然性の高い植生」と位置づけている。

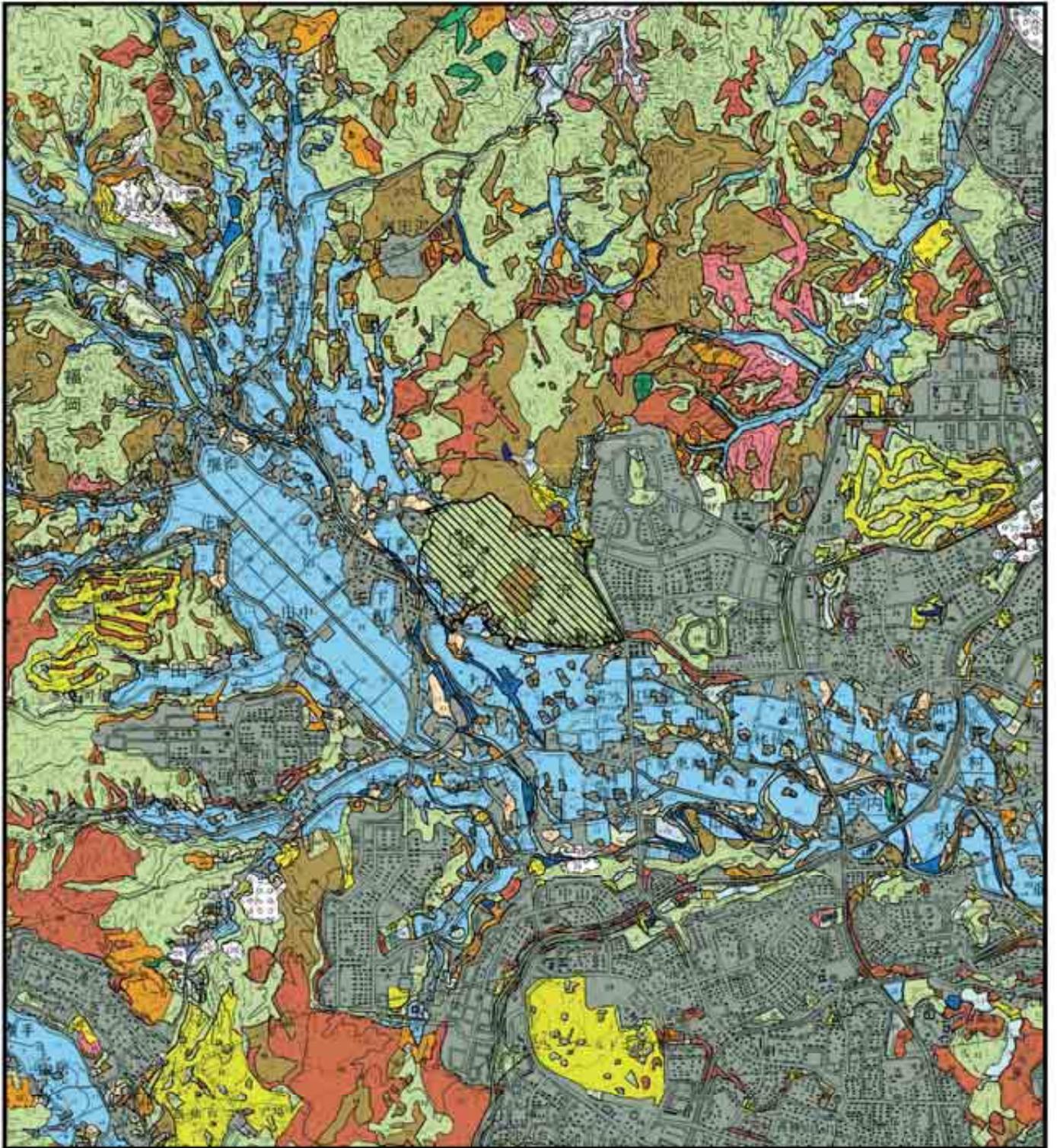
対象事業計画地の植生は中央部から東側がクリーコナラ群集、西側が畑地雑草群落、南側がスギ植林や水田雑草群落が分布している。

表 6.1-106 植生自然度区分基準

植生自然度	区分基準
10	高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区
9	エゾマツトドマツ群集、ブナ群集等、自然植生のうち多層の植物社会を形成する地区
8	ブナ・ミズナラ再生林、シイ・カシ萌芽林等、代償植生であっても、特に自然植生に近い地区
7	クリーミズナラ群落、クヌギーコナラ群落等、一般には二次林と呼ばれる代償植生地区
6	常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地
5	ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原
4	シバ群落等の背丈の低い草原
3	果樹園、桑園、茶畑、苗圃等の樹園地
2	畑地、水田等の耕作地、緑の多い住宅地
1	市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区

出典：自然環境保全基礎調査[環境省・生物多様性センター]

http://www.biodic.go.jp/kiso/vg/vg_kiso.html



凡例

▨ : 対象事業計画地 - - - : 市区町境界線

01 ミヤマハンノキ群落(8)	09 落葉広葉樹木群落(7)	17 竹林(7)	25 緑の多い住宅地(2)
02 モミ-イヌブナ群落(9)	10 ススキ群落(V)(5)	18 ゴルフ場・芝地(2)	26 残存・植栽樹群をもちた公園・墓地等(2)
03 イヌシデ-アカシダ群落(9)	11 伏拝跡地群落(V)(4)	19 露徳-空地雑草群落(4)	27 工場地帯(1)
04 ケヤキ群落(V)(9)	12 クリーコナラ群落(7)	20 果樹園(3)	28 造成地(1)
05 ハンノキ群落(V)(8)	13 クズ群落(4)	21 雑草群落(2)	29 開放水域(-)
06 ヤナギ低木群落(V)(8)	14 ヨシクサ(10)	22 水田雑草群落(2)	30 自然裸地(-)
07 ヤマハンノキ群落(7)	15 ヒルムシロクサス(10)	23 放棄水田雑草群落(4)	
08 アカマツ群落(V)(7)	16 スギ-ヒノキ-サツタ群落(5)	24 市街地(1)	

※ 凡例の括弧内は植生自然度(表 6.1-106 参照)を示す。

出典: 「1:50,000 仙台市植生図 東日本大震災後における自然環境基礎調査業務委託報告書」(平成 25 年 仙台市)

「第 6 回・7 回 自然環境保全基礎調査 植生調査 根白石」(2002 年 環境省)



S=1:50,000

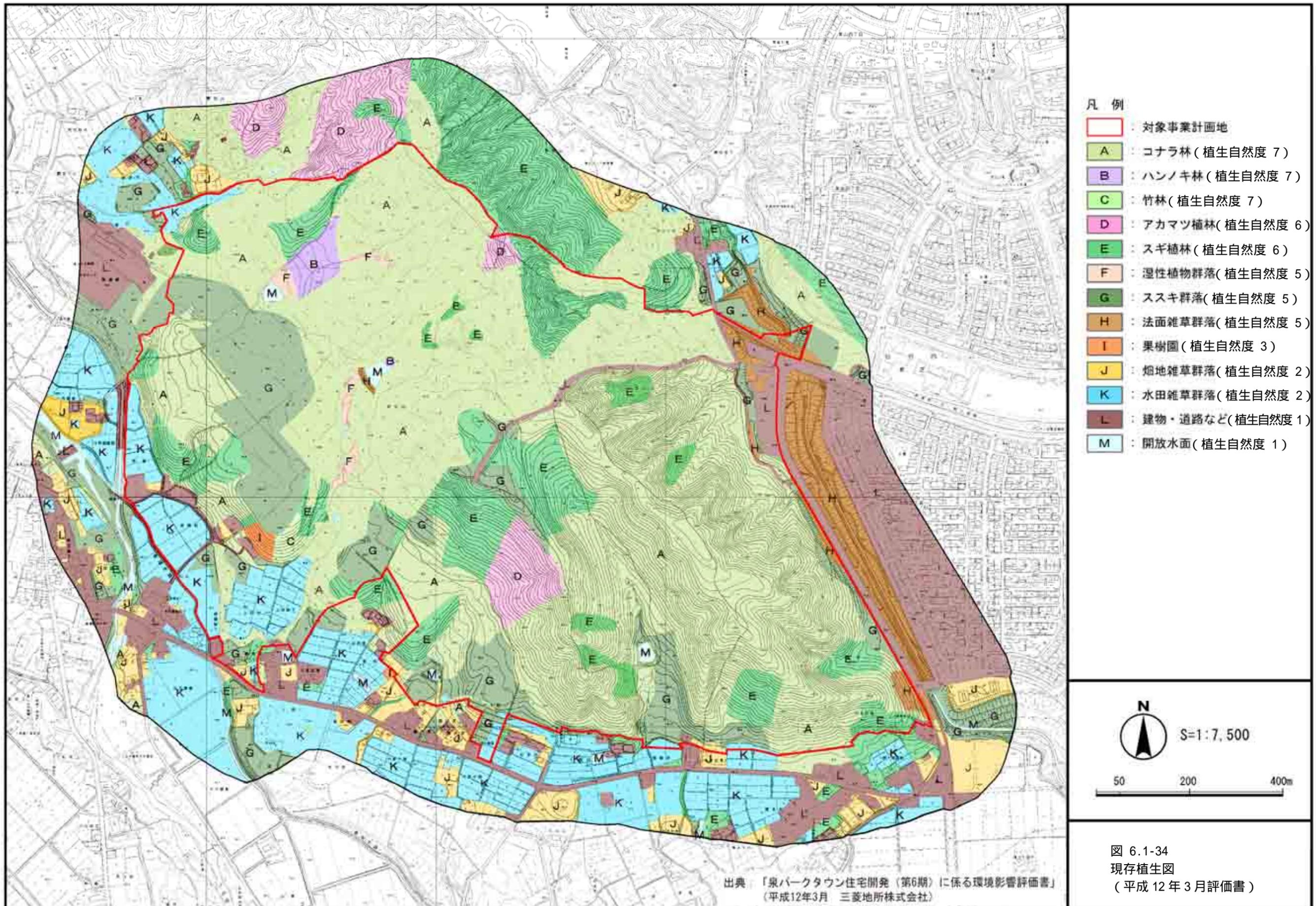
0 500 1000 2000m

図 6.1-33
現存植生図
(文献調査)

b) 平成 12 年 3 月評価書

対象事業計画地の現存植生は、図 6.1-34 に示すとおりである。

対象事業計画地内の植生はコナラ林，ハンノキ林，竹林，アカマツ植林等が占め，植生自然度は 5～7 の植生が多く対象事業計画地全体の 9 割程度を占める。対象事業計画地には自然植生あるいはそれに近い植生（植生自然度 10～8）は全く分布しておらず，全て代償植生となっている。植生自然度の観点からは対象事業計画地は人為的干渉を比較的多く受けてきた土地といえる。



※本図は、仙台市都市計画基本図(1:2500) (平成19年修正版)を下図として使用している。

保全上重要な植物の生育地

a) 文献調査

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）では、表 6.1-107 に示す選定基準により保全上重要な植物の生育地を選定している。調査範囲では、表 6.1-108 及び図 6.1-35 に示す保全上重要な植物の生育地が存在している。なお、対象事業計画地は、「根白石（朴沢・実沢・福岡）地域の里地・里山植生」の地域内に位置している。

宮城県レッドリストにおける植物群落のカテゴリー区分は、表 6.1-109 に示すとおりである。調査範囲の宮城県レッドリストに該当する植物群落は、表 6.1-110 及び図 6.1-36 に示すとおりである。

表 6.1-107 保全上重要な動植物の生息地・生育地選定のための基準

No.	判断理由	
保全上重要な地域	1	・保全上重要な動植物種が高密度で分布する地域
	2	・多様な生物相が保存されている地域
	3	・自然性の高い植生，その他学術上重要な植生が保存されている地域
	4	・湿地，湧水，岸壁地，地滑り等の動植物の生息・生育地として特異な環境を有する地域
	5	・自然とのふれあいの場としてふさわしい地域
	6	・環境教育の場としてふさわしい地域
	7	・郷土の特色が保存されている地域（里地・里山・居久根等）
	8	・緑の回廊としてあるいは動物の移動のネットワークとして重要な地域（山地から市街地への連続した緑地，市街地や田園地域に点在する緑地等）
	9	・海辺や水辺，植生帯境界等のエコトーンとして重要な地域

出典：「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）

表 6.1-108 保全上重要な植物の生育地

No.	件名	備考	判断理由
①	黒森山国有林のソヨゴ林と周辺の植生	・ 権現森緑地環境保全地域。 ・ ソヨゴは本市が北限で，かつ，1978 年に発見されるまでの北限地から 250km も離れた隔離分布である。	3, 6, 7
②	七北田川中～下流域の河畔植生	・ 市と丘陵の緑地の連続性を確保するうえで重要なコリドー。 ・ 河畔植生として保護が必要。	8, 9
③	朴沢のモミ林	・ 朴沢地区の国道 457 号沿いにはモミ林が残されている。	3, 7
④	根白石（朴沢・実沢・福岡）地域の里地・里山植生	・ 里地・里山植生が良好な状態で残されている。	7, 8
⑤	大倉・芋沢丘陵地の植生（緑の回廊）	・ 生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。	7, 8
⑥	丸田沢緑地（水の森公園）	・ 丸田沢緑地環境保全地域。 ・ 市街地に残された池沼を含む緑地・公園である。植物生育地，環境学習のフィールドとして重要である。	5, 6, 7
⑦	西田中の里地・里山植生	・ 里地・里山植生が良好な状態で残されている。	7, 8

出典：「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）

注：表中の NO. は図 6.1-35 の番号に対応する。

判断理由は表 6.1-107 に対応する。

表 6.1-109 宮城県レッドリストにおける植物群落のカテゴリー区分

カテゴリー	区分	基本概念
D	壊滅	—
4	壊滅状態	群落は全体的に壊滅状態にあり，緊急に対策を講じなければ壊滅する。
3	壊滅危惧	群落は対策を講じなければ徐々に悪化して壊滅する。
2	破壊危惧	群落は当面保護されているが，将来破壊されるおそれがある。
1	要注意	群落は，現在保護・管理状態が良く，当面破壊されるおそれが少ない。しかし，監視は必要である。

出典：「宮城県の希少な野生動植物－宮城県レッドリスト2013年版（震災前アーカイブ）－」（平成25年3月 宮城県）

表 6.1-110 宮城県レッドリストに該当する植物群落

単一群落

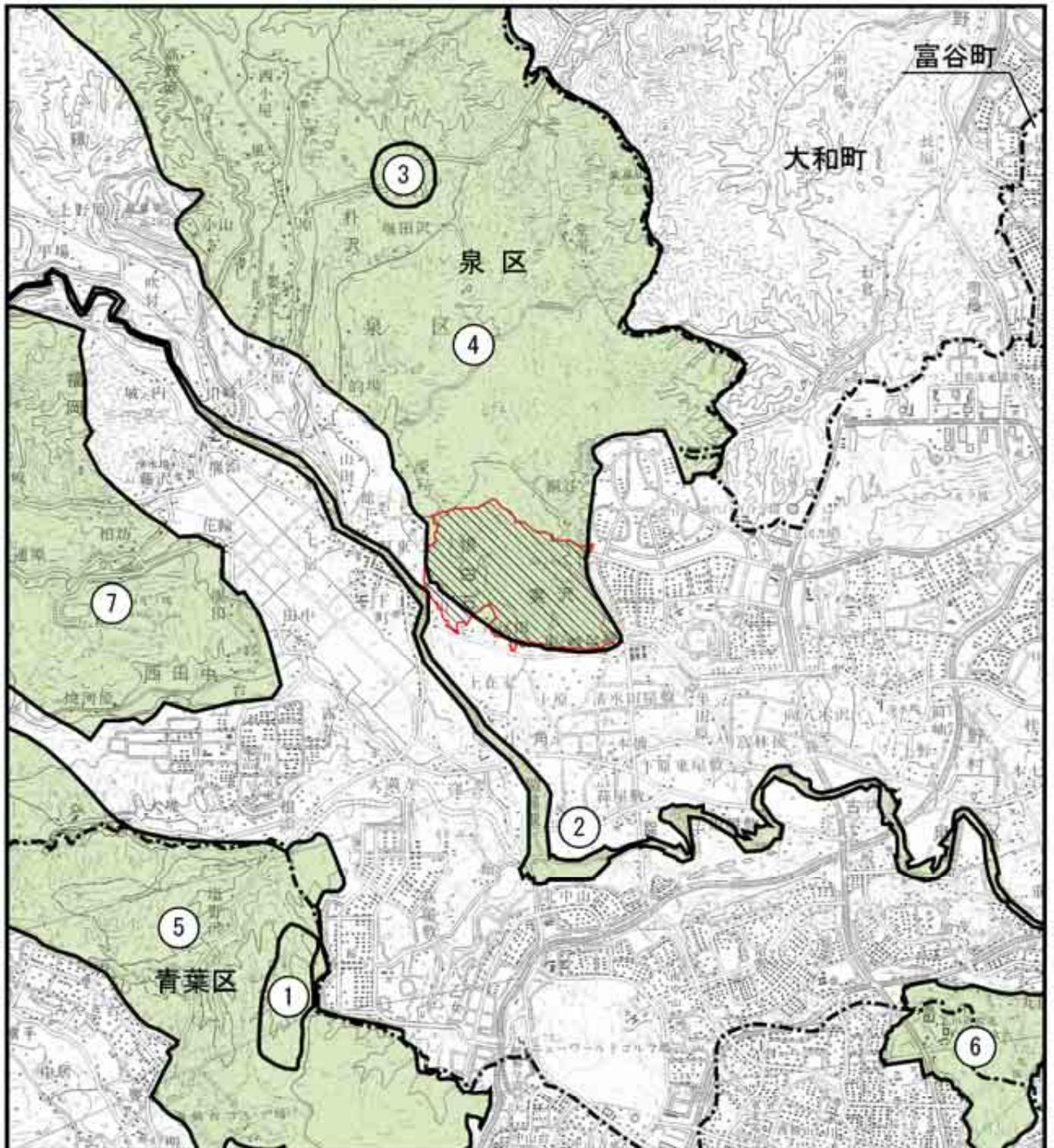
No.	植生	群系名	群落名	調査群落名	カテゴリー
1	丘陵地帯	二次林	ソヨゴ群落	黒森山のソヨゴ群落	3

群落複合

No.	区分	調査群落名	カテゴリー
2	中間温帯森林植生	(仮称) 丸田沢の植物群落	3

出典：「宮城県の希少な野生動植物－宮城県レッドリスト2013年版（震災前アーカイブ）－」（平成25年3月 宮城県）

注：カテゴリーは表 6.1-109 に対応する。

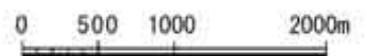


凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 保全上重要な植物の生育地 (①～⑦)
-  : 市区町境界線

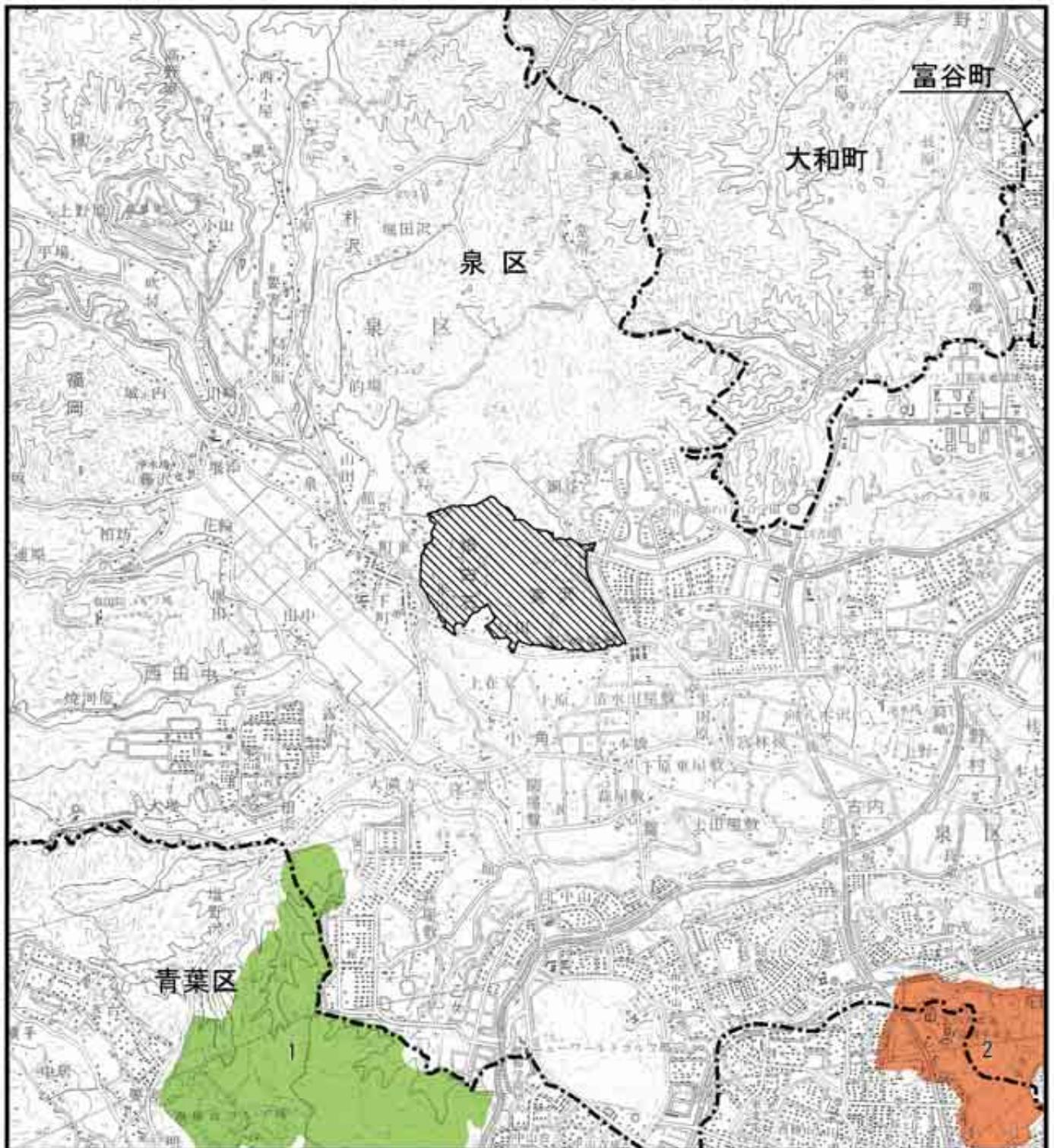


S=1:50,000



出典：「平成22年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」
(平成23年3月 仙台市)

図 6.1-35
保全上重要な植物の生育地
(文献調査)



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線
-  : 黒森山のソゴ群落を含む地域（権現森緑地環境保全地域）
-  : （仮称）丸田沢の植物群落を含む地域
（丸田沢緑地環境保全地域を含む地域）

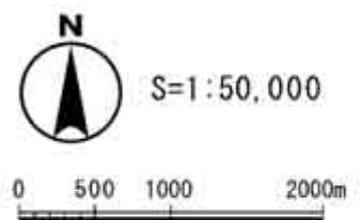


図 6.1-36
宮城県レッドリストに
該当する植物群落

b) 平成 12 年 3 月評価書

対象事業計画地内は保全上重要な植物の生育地に含まれており、ハンノキ林、湿性植物群落等が存在するものの宮城県レッドリストに該当する植物群落はない。

ウ 植物からみた対象事業計画地の位置づけ及び保全上の留意点

対象事業計画地は北側から連続する丘陵地の南端部にあたり、南側は七北田川によって形成された段丘平野が広がっている。丘陵地の植生は、コナラ二次林やスギ・アカマツ植林によって大部分が占められる。また、西側には耕作放棄地が広がり里地・里山的な植生となっている。

対象事業計画地は山地地域と市街地地域のバッファゾーン（緩衝帯）として、本市の生物多様性の連続性を支える重要地域であることから、既往の調査結果で確認された注目すべき種を念頭に現地調査を実施して移植等の保全対策を検討する。

(2) 動物

ア 動物相及び注目すべき種の状況

動物相

a) 文献調査

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)によれば、仙台市の山地から丘陵地に広がる森林域には本州最大の哺乳類であるツキノワグマや特別天然記念物であるカモシカをはじめ、ヤマネ、ニホンザル、キツネ、タヌキ、ニッコウムササビ、ニホンリス等の哺乳類が生息している。近年、二次林の放置などを一因と考えられるツキノワグマ、ニホンカモシカの低地丘陵への分布拡大が確認される。鳥類ではオオルリ、ゴジュウカラ、キビタキ、アカゲラ等の森林性の鳥類が多く分布し、山地帯を中心にクマタカも生息している。爬虫類ではマムシやジムグリのほか、自然度が高い林床を好むタカチホヘビや比較的珍しいシロマダラなども生息している。両生類では山地の溪流にハコネサンショウウオが生息し、トウホクサンショウウオは丘陵地の沢などに広く生息している。また、池沼の縁の樹木の枝に卵塊を産み付けるモリアオガエルや清流の環境を指標するカジカガエルも生息している。魚類では山地の溪流でイワナ、ヤマメが生息する。一方、丘陵地の池沼などでは近年、オオクチバス(ブラックバス)やブルーギル、タイリクバラタナゴといった移入種により、在来の魚類の生息が脅かされている。昆虫類ではオニクワガタ、カミキリムシ類、ミドリシジミ類等の森林性の昆虫類が多数生息し、丘陵地では生きた化石といわれるヒメギフチョウなども生息している。また、泉ヶ岳付近は山地性チョウ類の主要な生息地になっている。丘陵地の湿地ではオゼイトトンボ等のトンボ類も多く生息している。

市街地や田園地域では、人の生活空間の拡大や圃場整備などにより動物の生息環境が減少しているが、市街地に残された公園や田園地域に見られる居久根などの緑地や、河川沿いなどでキツネ、イタチ、カワセミ、アオダイショウ、ミヤマクワガタ等の動物が生息している。市街地に残された緑地ではオオタカの繁殖も確認される。

また、「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)によれば、大和町では、哺乳類はカモシカ、ツキノワグマ、ヤマネ、オコジョ等が生息している。鳥類はコマドリ、イワヒバリ、クマタカ等が生息している。両生類では、モリアオガエル等の生息地が確認されている。

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書において、対象事業計画地周辺を含む調査地域(対象事業計画地及びその周辺 100m~1,000m の範囲)で動物相調査を実施している。動物相調査実施日は表 6.1-111、動物相確認種数一覧表は表 6.1-112、動物相の生息状況は表 6.1-113 に示すとおりである。

確認された動物種は、全部で 635 種となっている。対象事業計画地内の植生はコナラ林、ハンノキ林を主体とし、アカマツ植林やスギ植林のほか、ススキ群落、湿生植物群落、水田雑草群落、開放水面、沢など動物の多様な生息環境がみられ、動物相も多様である。

表 6.1-111 動物相調査実施日（平成 12 年 3 月評価書）

項目	調査内容	夏季調査	秋季調査	冬季調査	春季調査
哺乳類	フィールドサイン調査	平成 9 年 8 月 26 日， 平成 10 年 7 月 10 日	平成 9 年 10 月 1 日， 2 日，7 日， 11 月 21 日	平成 10 年 1 月 30 日， 2 月 12 日	平成 10 年 3 月 30 日， 5 月 11 日，25 日， 26 日
	捕獲調査	—	平成 9 年 10 月 1 日， 2 日	—	平成 10 年 5 月 25 日， 26 日
	写真撮影調査	—	—	—	平成 10 年 5 月 25 日， 26 日
	コウモリ類調査	平成 10 年 7 月 31 日	—	—	—
鳥類	ラインセンサス調査	平成 9 年 8 月 26 日	平成 9 年 10 月 7 日	平成 10 年 1 月 30 日	平成 10 年 5 月 26 日
	定点センサス調査	平成 9 年 8 月 26 日	平成 9 年 10 月 7 日	平成 10 年 1 月 30 日	平成 10 年 5 月 26 日
	夜間調査	平成 10 年 7 月 10 日	—	—	平成 10 年 3 月 13 日
	希少猛禽類調査	平成 9 年 2 月～平成 10 年 7 月			
両生・爬虫類	任意確認調査	平成 9 年 8 月 26 日， 平成 10 年 7 月 10 日	平成 9 年 9 月 16 日， 10 月 7 日	—	平成 10 年 3 月 30 日， 4 月 6 日，5 月 25 日， 26 日
水生動物（魚類，底生動物）	捕獲調査	平成 9 年 8 月 31 日， (9 月 16 日※)	—	—	平成 10 年 5 月 25 日， 26 日
昆虫類	任意確認採取調査	平成 10 年 7 月 10 日， 8 月 1 日，3 日	平成 9 年 10 月 7 日， 8 日	—	平成 10 年 5 月 18 日， 19 日
	ベイトトラップ調査	平成 10 年 8 月 1 日， 3 日	平成 9 年 10 月 7 日， 8 日	—	平成 10 年 5 月 18 日， 19 日
	ライトトラップ調査	平成 10 年 8 月 1 日	平成 9 年 10 月 7 日	—	平成 10 年 5 月 18 日
	夜間調査	平成 10 年 7 月 10 日	—	—	—

※1：水生動物の平成 9 年 9 月 16 日の調査は夏季調査の補足調査

※2：昆虫類は，陸上昆虫類の確認種数を示す。

※3：底生動物は，扁形動物，軟体動物，環形動物，クモ類，甲殻類，水生昆虫類の確認種数を示す

出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

表 6.1-112 動物相確認種数一覧表（平成 12 年 3 月評価書）

分類群	目数	科数	種数
哺乳類	5	9	14
鳥類	13	31	105
両生類	2	6	11
爬虫類	1	3	5
水生動物（魚類）	5	6	16
水生動物（底生動物）	20	59	118
昆虫類	10	100	366

※1：昆虫類は，陸上昆虫類の確認種数を示す。

※2：底生動物は，扁形動物，軟体動物，環形動物，クモ類，甲殻類，水生昆虫類の確認種数を示す

※3：底生動物の種数は，種未同定種（～の一種）も含む

出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

表 6.1-113 動物相の生息状況（平成 12 年 3 月評価書）

項目	動物相の特徴
哺乳類	<p>捕獲調査ではヒミズ・アカネズミ・ヒメネズミの 3 種を捕獲確認した。捕獲地点別についてみるとネズミ類は■■■■で捕獲し、スギ植林地ではヒミズを捕獲した。また、総捕獲個体数は 4 個体と少ない結果であった。</p> <p>冬季のアニマルトラッキング調査ではノウサギ、ニホンリス、タヌキ、キツネの足跡を積雪上で多く確認し、カモシカの足跡も確認した。</p> <p>写真撮影調査及びバットディテクターによるコウモリ類の調査では確認種はなかった。貴重種としてはジネズミ、ツキノワグマ、アナグマ、カモシカの 4 種を確認した。</p>
鳥類	<p>①夏季調査 繁殖期も終わりに近づき、さえざりによる確認が少なくなるが、■■■■ではウグイス、■■■■ではホオジロのさえざりもまだ聞こえた。また、樹林地内ではシジュウカラやエナガの巣だち雛を含んだ群や、■■■■ではハリオアマツバメやツバメの飛翔を確認した。</p> <p>②秋季調査 開発地域の主要部を占めるコナラ、アカマツ等の樹林地では、エナガ、シジュウカラ等がカラ混群をつくり活動しており、カケス、ヒヨドリも多く確認した。</p> <p>③冬季調査 樹林地では、シジュウカラ、エナガ、ヒガラ等がカラ混群をつくり活動しており、カケス、ヒヨドリ、カワラヒワも多く確認した。また、標高の高い所より漂行してきたミソサザイ、ルリビタキ、キクイタダキやヒガラ、コガラ等の確認も多くなっていた。</p> <p>④春季調査 ほとんどの鳥類の繁殖期となっているためさえざりによる確認が多くなり、特に■■■■ではウグイス、シジュウカラ、ヤマガラ等、■■■■ではホオジロ、カワラヒワ等が目立った。■■■■に、フクロウを鳴き声により確認した。また、■■■■ではトビや夏鳥として渡来したツバメの飛翔を多く確認した。</p>
両生類 爬虫類	<p>現地調査における確認種は、両生類 2 目 6 科 11 種、爬虫類は 1 目 3 科 5 種であった。貴重種としてはトウホクサンショウウオ、クロサンショウウオ、タゴガエルの 3 種の両生類を確認した。また、爬虫類についての貴重種は確認できなかった。</p>
水生動物 (魚類 底生動物)	<p>現地調査により確認した魚種は、5 目 6 科 16 種であった。また、魚類の貴重種としてはギバチ 1 種を確認した。</p> <p>現地調査により確認した底生動物は、5 門 8 綱 20 目 59 科 118 種であった。また、底生昆虫の貴重種としてはタガメ 1 種を確認した。</p>
昆虫類	<p>調査地域の環境は、丘陵地帯がクリ・コナラなどの落葉広葉樹林、スギ・ヒノキ植林などの針葉樹林になっており、調査地南西部には水田・畑などの耕作地及び休耕地になっている。また調査地各地に開放水域がある。確認種の構成は、宮城県の平地及び低山地に普通に生息している種が主体であった。</p>

※1：貴重種とは「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）における注目すべき種である。

※2：昆虫類は、陸上昆虫類の確認種数を示す。

※3：底生動物は、扁形動物、軟体動物、環形動物、クモ類、甲殻類、水生昆虫類の確認種数を示す。

出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

注目すべき動物種

a) 文献調査

注目すべき動物種は、「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）の選定基準を採用し、学術上重要種、減少種、環境指標種及びふれあい保全種の該当種、並びに環境省レッドリスト・宮城県レッドリスト・文化財保護法・種の保存法の該当種とした（表 6.1-100 及び表 6.1-101 参照）。

調査範囲における注目すべき動物種数は表 6.1-114、分類群ごとの注目すべき動物種は表 6.1-115～表 6.1-122 に示すとおりである。「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）に記載のある動物種のうち調査範囲に生息する注目すべき動物種は 88 種であり、分布地は朴沢、芋沢、丸田沢、三共堤等である。また、「大和町環境基礎調査業務委託報告書」（平成 15 年 3 月 大和町）に記載のある動物種のうち調査範囲に生息する注目すべき動物種は 16 種であり、分布地は大和町宮床地区である。

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書において、調査地域（対象事業計画地及びその周辺 100m～1,000m の範囲）で動物相調査を実施している。確認された注目すべき動物種は表 6.1-115～表 6.1-122 に示す 82 種であり、確認位置は図 6.1-37 ～図 6.1-43 に示すとおりである。

以上 3 つの文献に記載の調査範囲における注目すべき種は、全部で 120 種である。

表 6.1-114 注目すべき動物種の種数

項目	目数	科数	種数	文献			学術上重要種	仙台市重要種区分							国 RDB	県 RL	天記・種保存法
				文献①	文献②	文献③		注目種									
								減少種					環境指標種	ふれあい保全種			
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜					
哺乳類	4	7	9	7	3	8	3	9	8	5	5	4	5	5	0	1	2
鳥類	13	27	56	46	6	44	17	35	48	50	43	36	36	15	12	18	2
両生類	2	4	8	3	2	8	2	8	8	8	3	2	6	4	4	5	0
爬虫類	1	2	2	2	1	1	1	2	2	2	1	1	2	2	0	0	0
水生動物（魚類）	6	7	9	5	1	5	4	4	7	6	4	3	5	6	7	5	0
水生動物（底生動物）	3	5	5	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	5	3	0
昆虫類	6	23	31	25	3	11	14	2	23	17	10	0	9	6	12	12	0
合計	35 目	75 科	120 種	88 種	16 種	82 種	42 種	60 種	96 種	88 種	66 種	46 種	63 種	38 種	40 種	44 種	4 種

※1：国 RDB：「環境省第 4 次レッドリスト」（平成 24・25 年 環境省報道発表資料）掲載種
 県 RL：「宮城県の希少な野生動植物－宮城県レッドリスト 2013 版－」（平成 25 年 3 月 宮城県）掲載種
 天記：「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号）
 種保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」（平成 4 年法律第 75 号）
 ※2：文献①：「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）（報告書に記載されている種のうち、その種の分布地が、調査範囲に含まれている種）
 ②：「大和町環境基礎調査業務委託報告書」（平成 15 年 3 月 大和町）（報告書に記載されている種のうち、その種の分布地が、調査範囲に含まれている種）
 ③：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）
 ※3：減少種の地域区分については、表 6.1-101 を参照

表 6.1-115 注目すべき動物種【哺乳類】

No.	目名	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										国 RDB	県 RL	天記・種保存法	分布地	
				①	②	③	学術上重要種	注目種													
								減少種													
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜	環境指標種	ふれあい保全種							
1	モグラ(食虫)	モグラ	アズマモグラ			○		*	C	C	C	*		○							
2	ネズミ(齧歯)	リス	ニホンリス	○		○		*	C	B		C		○				芋沢			
3		ネズミ	ハタネズミ	○				C	C	B	C	C	○	○				朴沢			
4			ヒメネズミ	○		○		*	C	C	/		○					朴沢, 芋沢			
5	ネコ(食肉)	クマ	ツキノワグマ	○	○	○	4	C	C									国際	朴沢, 大和町宮床地区		
6		イヌ	タヌキ	○	○	○		*	C		C		○	○				朴沢, 大和町宮床地区			
7			イタチ	イタチ	○		○		C	C	B	C	C	○	○				朴沢, 芋沢		
8				アナグマ	○		○	4	C	C									朴沢		
9	ウシ(偶蹄)	ウシ	カモシカ		○	○	4	*					○			要	特天	大和町宮床地区			
	4目	7科	9種	7種	3種	8種	3種	9種	8種	5種	5種	4種	5種	5種	0種	1種	2種				

※1: 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ② 「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ③ 「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

※4: 減少種の地域区分については, 表 6.1-101 を参照

表 6.1-117 注目すべき動物種【鳥類】(2/2)

No.	目名	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										国 RL	県 RL	天記・ 種保存法	分布地
				①	②	③	学術上重要種	注目種						環境指標種	ふれあい保全種					
								減少種												
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜								
43	スズメ	ヒタキ	トラツグミ	○		○		*	C	B	C	C	○					丸田沢, 朴沢, 芋沢		
44			クロツグミ	○		○		*	C	B	C	C	○					丸田沢, 朴沢, 芋沢		
45			シロハラ	○				*	C	B			○					丸田沢, 朴沢, 芋沢		
46			コルリ	○		○		*	C	B	C	C	○					丸田沢, 芋沢		
47			ルリビタキ	○				*	C	C	C	C						丸田沢, 朴沢, 芋沢		
48			コサメビタキ	○		○					B			○					丸田沢, 朴沢	
49			キビタキ	○		○		*	C	B				○					丸田沢, 朴沢, 芋沢	
50			オオルリ			○		*	C	C	C	C	○							
51			セキレイ	キセキレイ	○		○		*	C	C	C		○	○				丸田沢, 朴沢, 芋沢	
52				セグロセキレイ	○	○	○	4	C	C	C	C							丸田沢, 朴沢, 芋沢, 大和町宮床地区	
53		ホオジロ	ホオジロ	○	○	○		*	*	B	C	C	○					丸田沢, 朴沢, 芋沢, 大和町宮床地区		
54			ホオアカ	○			1	B	C	A	C	B	○					丸田沢, 芋沢		
55			ノゾコ			○	1	C	C	B					NT	要				
56			アオジ	○		○		C	C	C	C	C							丸田沢, 朴沢, 芋沢	
		13 目	27 科	56 種	46 種	6 種	44 種	17 種	35 種	48 種	50 種	43 種	36 種	36 種	15 種	12 種	18 種	2 種		

※1: 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ② 「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ③ 「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

※4: 減少種の地域区分については, 表 6.1-101 を参照

表 6.1-118 注目すべき動物種【両生類】

No.	目名	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										天記・種保存法	分布地		
				①	②	③	学術上重要種	注目種												
								減少種												
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜	環境指標種	ふれあい保全種	国 RDB	県 RL				
1	有尾	サンショウウオ	トウホクサンショウウオ	○		○	1, 4	*	C	B					○		NT	NT		丸田沢
2			クロサンショウウオ			○	4	*	C	A				○	○	NT	LP			
3			アカハライモリ			○		*	C	A				○	○	NT	LP			
4	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル			○		*	C	C	C	C		○						
5			アカガエル	タゴガエル		○	○		*	C	B			○						大和町宮床地区
6				ニホンアカガエル	○	○	○		*	*	B	*	C							根白石, 福岡, 芋沢, 大和町宮床地区
7				トウキョウダルマガエル			○		C	C	B	C		○	○	NT	NT			
8				ツチガエル	○		○		*	C	B			○			NT			芋沢
	2 目	4 科	8 種	3 種	2 種	8 種	2 種	8 種	8 種	8 種	3 種	2 種	6 種	4 種	4 種	5 種	0 種			

※1: 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ② 「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ③ 「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

※4: 減少種の地域区分については, 表 6.1-101 を参照

表 6.1-119 注目すべき動物種【爬虫類】

No.	目名	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										天記・種保存法	分布地		
				①	②	③	学術上重要種	注目種												
								減少種												
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜	環境指標種	ふれあい保全種	国 RDB	県 RL				
1	有鱗	トカゲ	ニホントカゲ	○	○		1	C	C	A				○	○					大和町宮床地区, 芋沢
2			ナミヘビ	○		○		*	*	C	C	C	○	○						上谷刈, 福岡
	1 目	2 科	2 種	2 種	1 種	1 種	1 種	2 種	2 種	2 種	1 種	1 種	2 種	2 種	0 種	0 種	0 種			

※1: 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ② 「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ③ 「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

※4: 減少種の地域区分については, 表 6.1-101 を参照

表 6.1-120 注目すべき動物種【水生動物（魚類）】

No.	目名	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										国 RDB	県 RL	天記・種保存法	分布地	
				①	②	③	学術上重要種	注目種													
								減少種						ふれあい保全種							
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜	環境指標種								
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ南方種	○			1	B	B		A				○	VU	NT		七北田川		
2	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	○			1	A	B	B	B	B	○		EN	NT		七北田川			
3	コイ	コイ	キンブナ			○										VU	NT				
4			ウグイ	○			*	C	B	C	C	○	○						七北田川		
5			ドジョウ	ドジョウ		○	○										DD			大和町富床地区	
6			ホトケドジョウ			○	1		B	B				○	○	EN	NT				
7	ナマズ	ギギ	ギバチ			○	1	*	C					○	VU	NT					
8	サケ	アユ	アユ	○					C	C	C	C	○	○					七北田川		
9	カサゴ	カジカ	カジカ	○		○		C	C	A				○	○	NT			芋沢川, 七北田川		
	6 目	7 科	9 種	5 種	1 種	5 種	4 種	4 種	7 種	6 種	4 種	3 種	5 種	6 種	7 種	5 種	0 種				

※1: 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市) (報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ② 「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町) (報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ③ 「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

※4: 減少種の地域区分については, 表 6.1-101 を参照

表 6.1-121 注目すべき動物種【水生動物（底生動物）】

No.	目名	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										国 RDB	県 RL	天記・種保存法	分布地	
				①	②	③	学術上重要種	注目種													
								減少種						ふれあい保全種							
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜	環境指標種								
1	原始紐舌	タニシ	マルタニシ			○										VU	DD				
2			オオタニシ			○										NT	DD				
3	基眼	モノアラガイ	モノアラガイ			○										NT					
4			ヒラマキガイ	ヒラマキミズマイマイ			○									DD					
5	イシガイ	イシガイ	カラスガイ			○									NT	CR+EN					
	3 目	5 科	5 種	0 種	0 種	5 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	5 種	3 種	0 種				

※1: 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市) (報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ② 「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町) (報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ③ 「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。

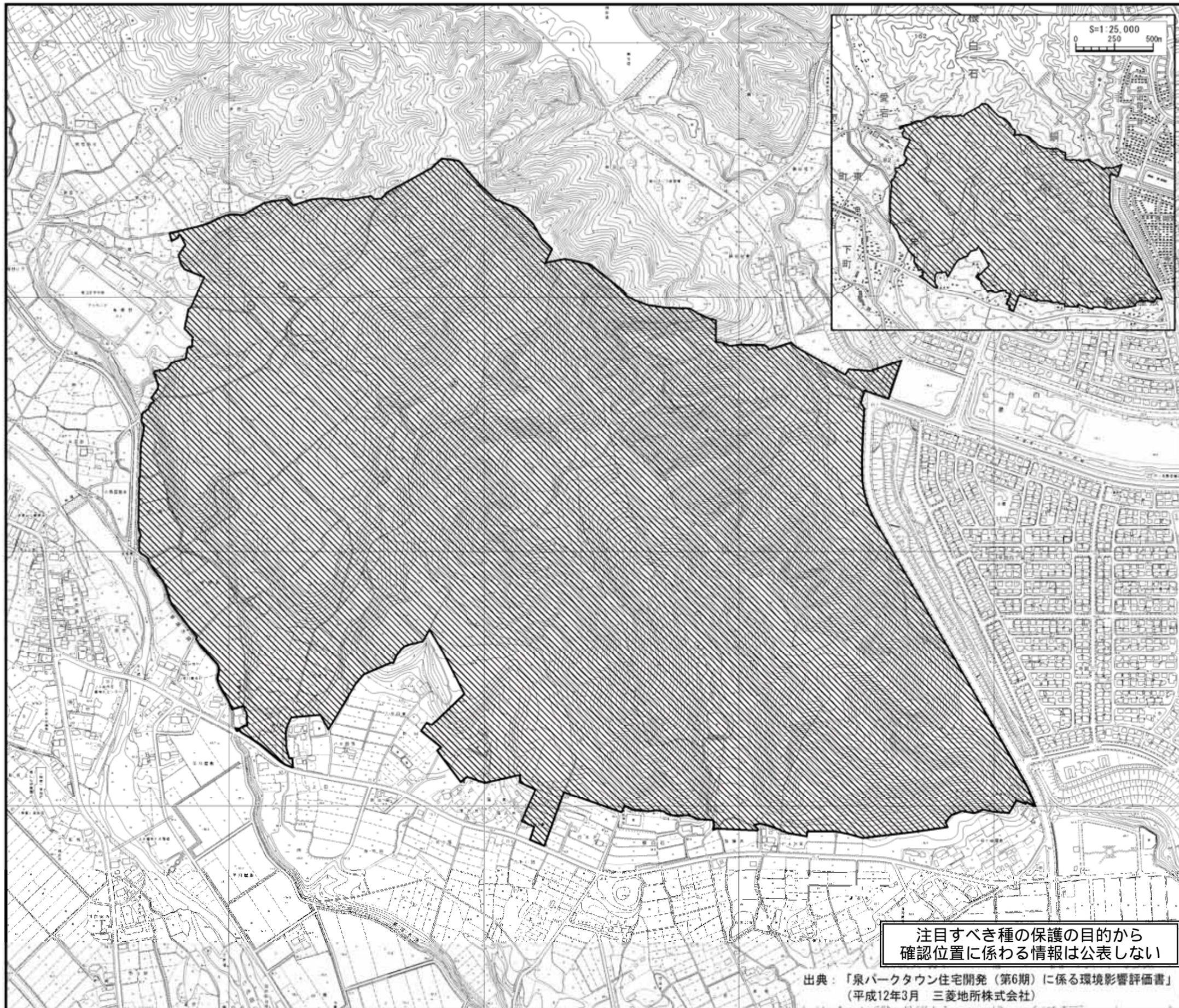
※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

※4: 減少種の地域区分については, 表 6.1-101 を参照

表 6.1-122 注目すべき動物種【昆虫類】

No.	目名	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										国 RDB	県 RL	天記・種保存法	分布地	
				①	②	③	学術上重要種	注目種													
								減少種					環境指標種	ふれあい保全種							
								山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜									
1	トンボ	イトトンボ	モートンイトトンボ	○						B							NT		福岡		
2		カワトンボ	アオハダトンボ	○						C	A					○	NT		七北田川, 花輪川		
3		ヤンマ	ヤブヤンマ	○						B		B						VU	丸田沢緑地, 芋沢, 朴沢		
4		サナエトンボ	モイワサナエ	○						C									芋沢		
5			ナゴヤサナエ	○			1,2				C						VU	CR+EN	七北田川		
6		ムカシヤンマ	ムカシヤンマ	○			1,4			C						○			芋沢, 塩野沢, 丸田沢		
7		オニヤンマ	オニヤンマ	○		○			*	B						○			丸田沢緑地, 芋沢, 朴沢		
8		エゾトンボ	オオトラフトンボ	○			1	C	C									CR+EN	芋沢		
9		トンボ	ハッチョウトンボ	○			1		B	A								CR+EN	福岡, 芋沢		
10			コノシメトンボ	○			1		A									CR+EN	福岡		
11			ヒメアカネ		○			1		B	A							CR+EN	福岡, 芋沢		
12	カマキリ	カマキリ	オオカマキリ	○					*	C	C					○			芋沢, 朴沢, 丸田沢		
13	バッタ	バッタ	トノサマバッタ	○	○	○			*	C	*					○			芋沢, 朴沢, 大和町宮床地区		
14	カメムシ	セミ	エゾゼミ	○					*	B					○	○			水の森, 芋沢, 朴沢, 丸田沢		
15		コオイムシ	コオイムシ	○			1		B	A	A						NT	NT	朴沢		
16			タガメ				○	1		B	A	A					VU	CR+EN			
17			タイコウチ	タイコウチ	○			1		B		A								芋沢	
18	チョウ	アゲハチョウ	ジャコウアゲハ本土亜種	○			1		C	B									館		
19		ジャノメチョウ	ジャノメチョウ	○	○	○			C	C	C					○			塩野沢, 大和町宮床地区		
20	コウチュウ	オサムシ	セアカオサムシ				○										NT	NT			
21			ニッコウオオズナガゴミムシ	○			1	C											芋沢		
22		ハンミョウ	ハンミョウ	○		○			B	B									朴沢		
23		ゲンゴロウ	クロゲンゴロウ	○					C	B	B							NT		芋沢, 朴沢	
24			ゲンゴロウ	○			1			B	B					○	VU	NT	芋沢, 朴沢		
25			マルガタゲンゴロウ					○										VU			
26			ケシゲンゴロウ					○											NT		
27		コガシラミズムシ	マダラコガシラミズムシ				○											VU	DD		
28		ガムシ	ガムシ				○											NT			
29		クワガタムシ	ミヤマクワガタ	○	○				C	B						○	○		芋沢, 朴沢, 大和町宮床地区		
30		タマムシ	ツシマムツボシタマムシ	○			1		C										朴沢		
31		ホタル	ゲンジボタル	○		○	1		C	B	C					○	○	NT	朴沢, 福岡 (消失), 実沢 (消失), 芋沢, 北長坂		
	6 目	23 科	31 種	25 種	3 種	11 種	14 種	2 種	23 種	17 種	10 種	0 種	9 種	6 種	12 種	12 種	0 種				

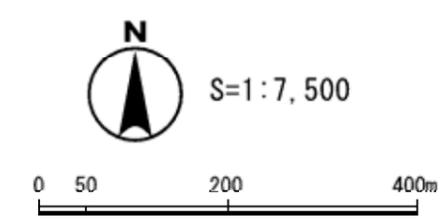
※1: 表中の文献は以下のとおりである。
 ①「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
 ②「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
 ③「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)
 ※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。
 ※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。
 ※4: 減少種の地域区分については, 表 6.1-101 を参照



凡 例	
注目すべき種	
▲	アズマモグラ
★	ニホンリス
●	ヒメネズミ
▲	ツキノワグマ
▲	タヌキ
●	イタチ
■	アナグマ
●	カモシカ
確 認 種	
★	ジネズミ
●	ヒミズ
■	ノウサギ
◆	アカネズミ
■	キツネ
★	テン
▨	対象事業計画地

※右上の1/25,000の図は対象事業計画地
 外の確認地点を表したものである。
 出典で位置が確認できた注目すべき種
 のみを記載した。

一般的に、環境調査では確認種全て位置情報を記
 録しているわけではなく、注目すべき種のみ位置情
 報を記録している。国及び宮城県のレッドリスト改
 訂により、平成12年当時では注目すべき種に該当
 しない種でも、現在では注目すべき種として選定さ
 れる種があるため、上記凡例に記載の無い種は、位置
 情報が不明である。

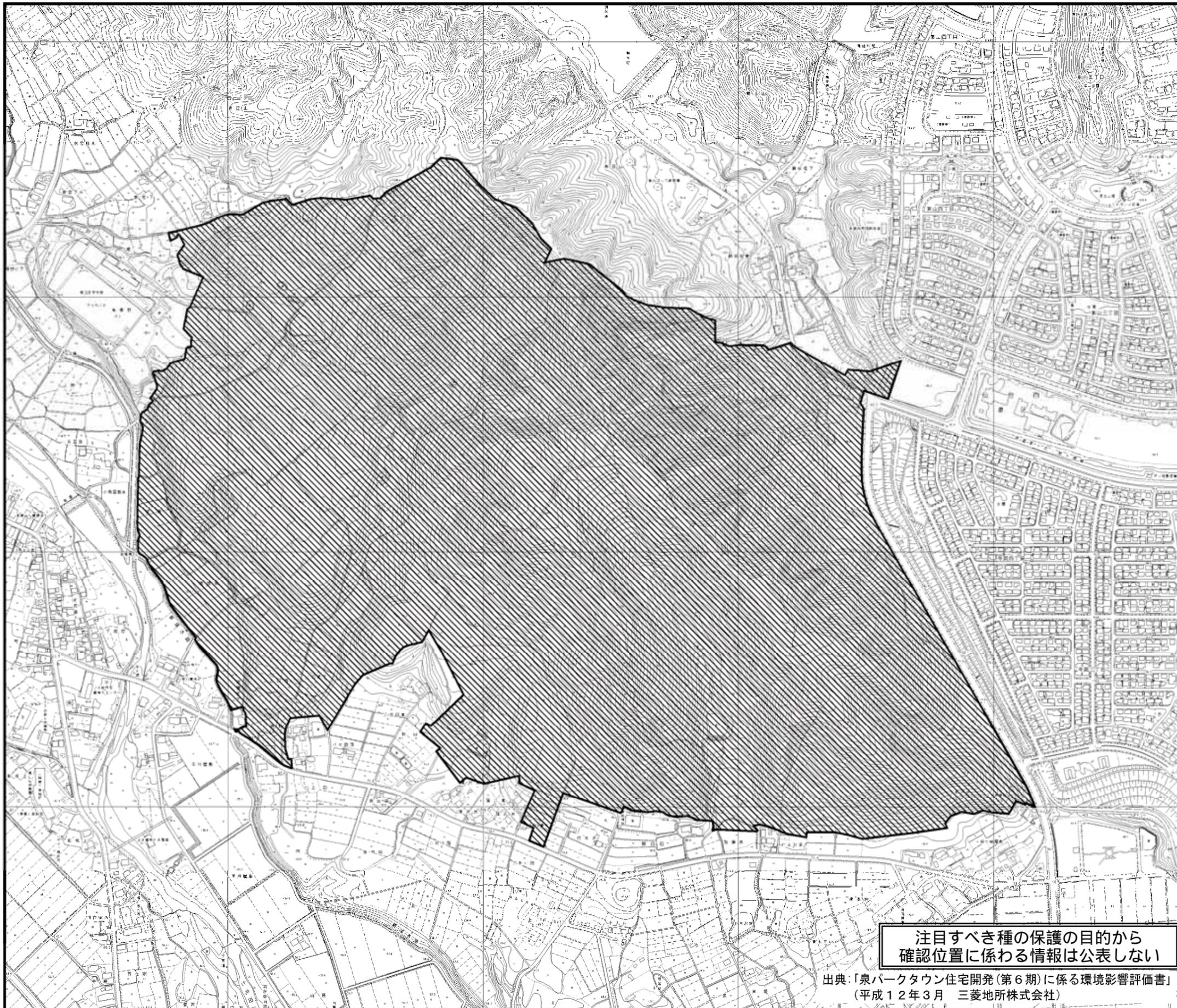


注目すべき種の保護の目的から
 確認位置に係わる情報は公表しない

出典：「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」
 （平成12年3月 三菱地所株式会社）

図 6.1-37
 哺乳類確認位置図
 （平成12年3月評価書）

本図は、仙台市都市計画基本図(1:2500) (平成19年修正版)を下図として使用している。

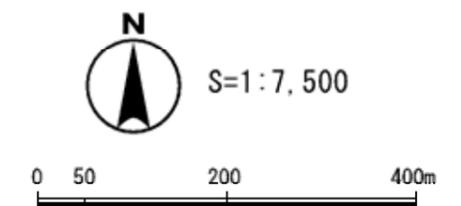


凡 例	
	フクロウ
	ノジコ
	チゴハヤブサ
	対象事業計画地

サシバ、チョウゲンボウ、ハリオアマツバメ、サンショウクイ

出典で位置が確認できた注目すべき種のみを記載した。

一般的に、環境調査では確認種全て位置情報を記録しているわけではなく、注目すべき種のみ位置情報を記録している。国及び宮城県のレッドリスト改訂により、平成12年当時では注目すべき種に該当しない種でも、現在では注目すべき種として選定される種があるため、上記凡例に記載の無い種は、位置情報が不明である。

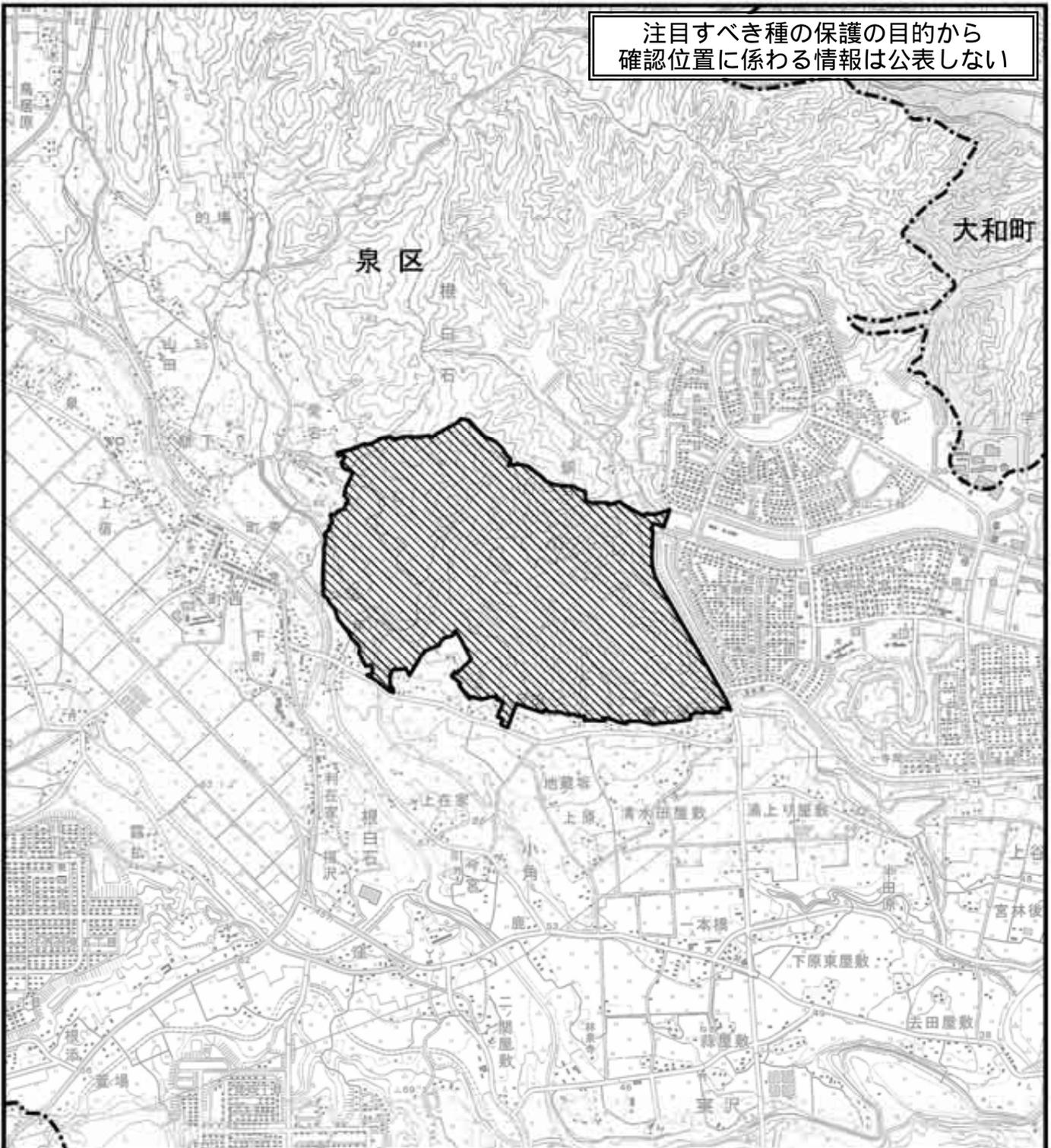


注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

出典:「泉パークタウン住宅開発(第6期)に係る環境影響評価書」
(平成12年3月 三菱地所株式会社)

図 6.1-38
注目すべき鳥類確認位置図
(対象事業計画地内)
(平成12年3月評価書)

注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない



凡例

- | | | |
|---|--|---|
|  対象事業計画地 |  チゴハヤブサ |  カワガラス |
|  市区町境界線 |  ヤマセミ |  オオルリ |
|  チュウサギ |  カワセミ |  サンコウチョウ |

※サシバ、チョウゲンボウ、ハリオアマツバメ、サンショウクイ

出典で位置が確認できた注目すべき種のみを記載した。

一般的に、環境調査では確認種全て位置情報を記録しているわけではなく、注目すべき種のみ位置情報を記録している。国及び宮城県のレッドリスト改訂により、平成12年当時では注目すべき種に該当しない種でも、現在では注目すべき種として選定される種があるため、上記凡例に記載の無い種は、位置情報が不明である。

出典：「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」
（平成12年3月 三菱地所株式会社）



S=1:25,000

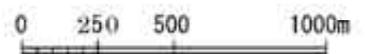
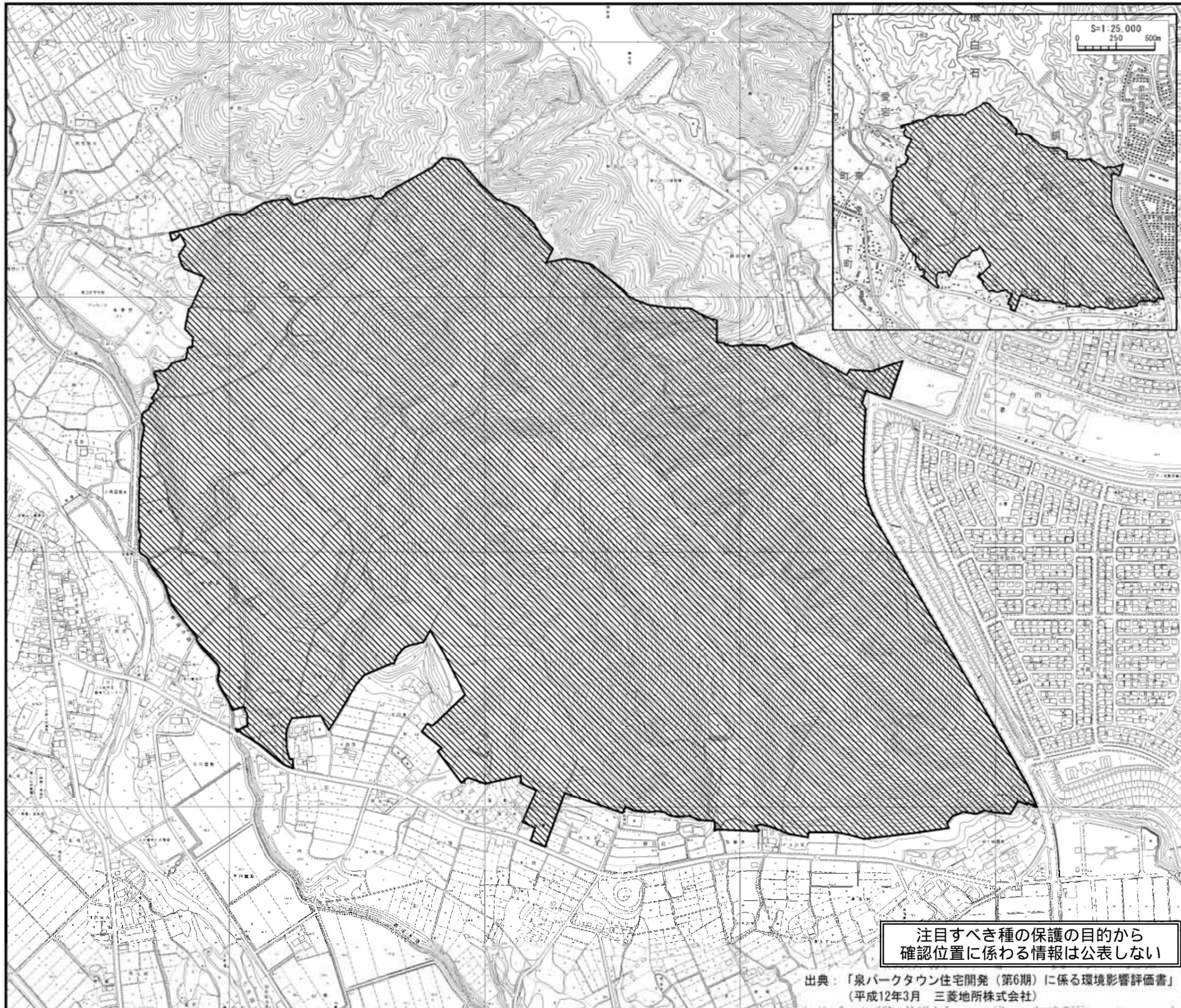


図 6.1-39
注目すべき鳥類確認位置図
（対象事業計画地周辺）
（平成12年3月評価書）



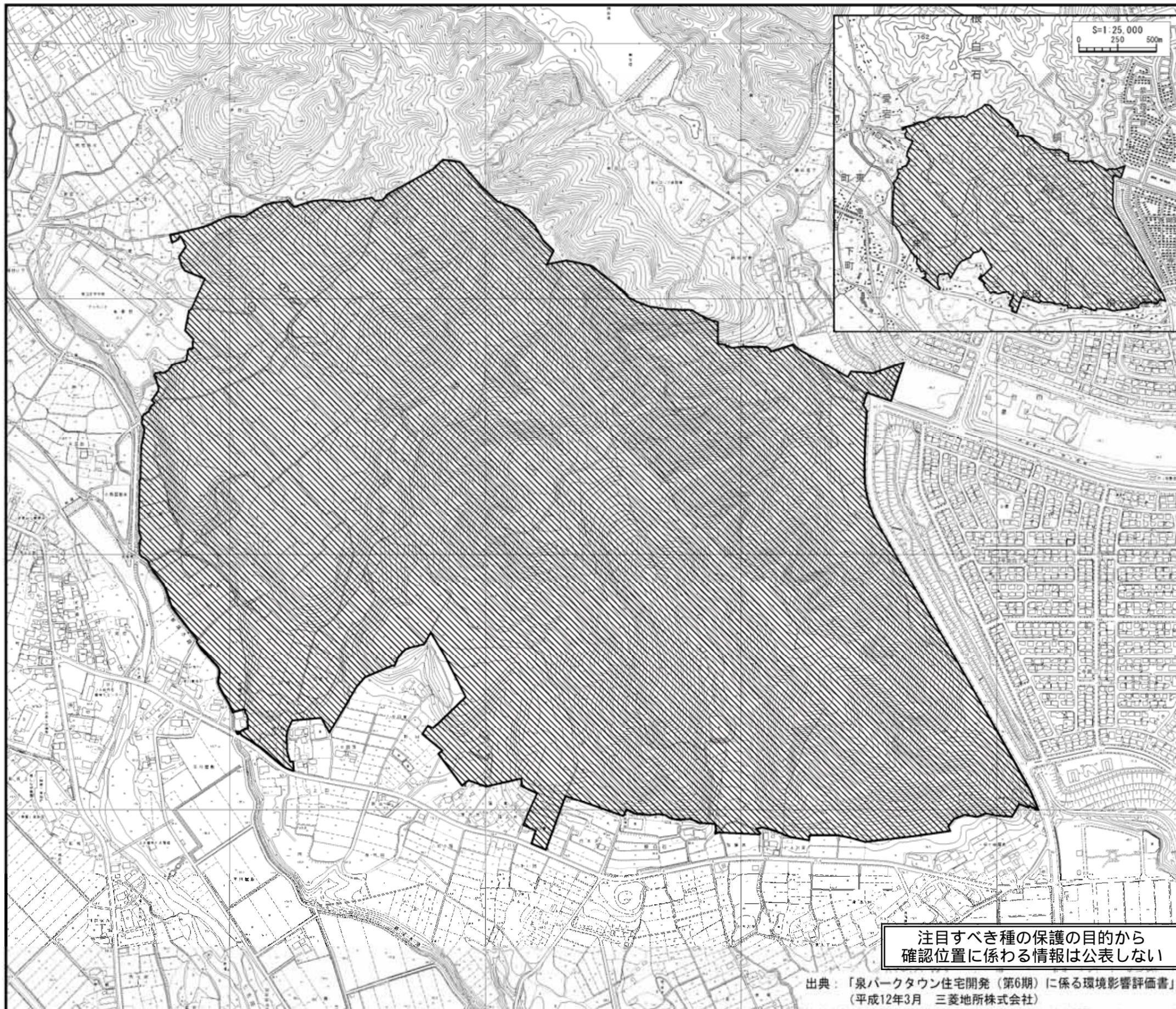
凡 例	
注目すべき種	
◆	アオダイショウ
確認種	
●	カナヘビ
★	マムシ
▲	シマヘビ
■	ヤマカガシ
▨	対象事業計画地

※右上の1/25,000の図は対象事業計画地外の確認地点を表したものである。

注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

出典：「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」
（平成12年3月 三菱地所株式会社）

図 6.1-40
爬虫類確認位置図
（平成 12 年 3 月評価書）



凡例	
注目すべき種	
●	トウホクサンショウウオ
▲	クロサンショウウオ
■	アズマヒキガエル
★	タゴガエル
◆	トウキョウダルマガエル
▼	ツチガエル
●	アカハライモリ
確認種	
■	アマガエル
◆	ウシガエル
▲	シュレーゲルアオガエル
▨	対象事業計画地
ニホンアカガエルは、	

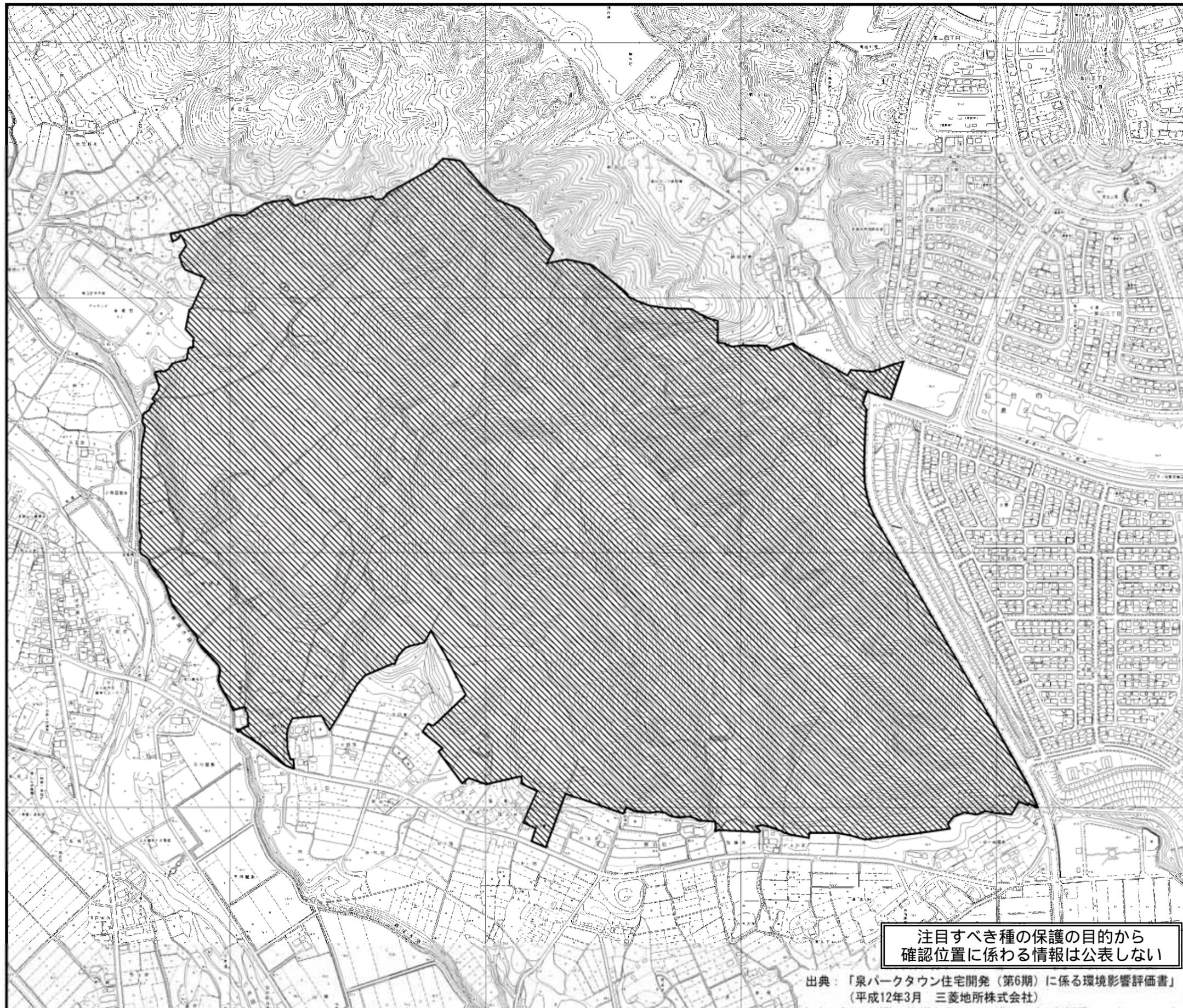
※右上の1/25,000の図は対象事業計画地外の確認地点を表したものである。

注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

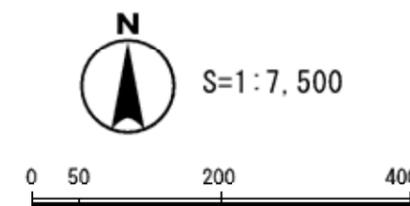
出典：「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」
（平成12年3月 三菱地所株式会社）

図 6.1-41
両生類確認位置図
（平成12年3月評価書）

本図は、仙台市都市計画基本図(1:2500) (平成19年修正版)を下図として使用している。



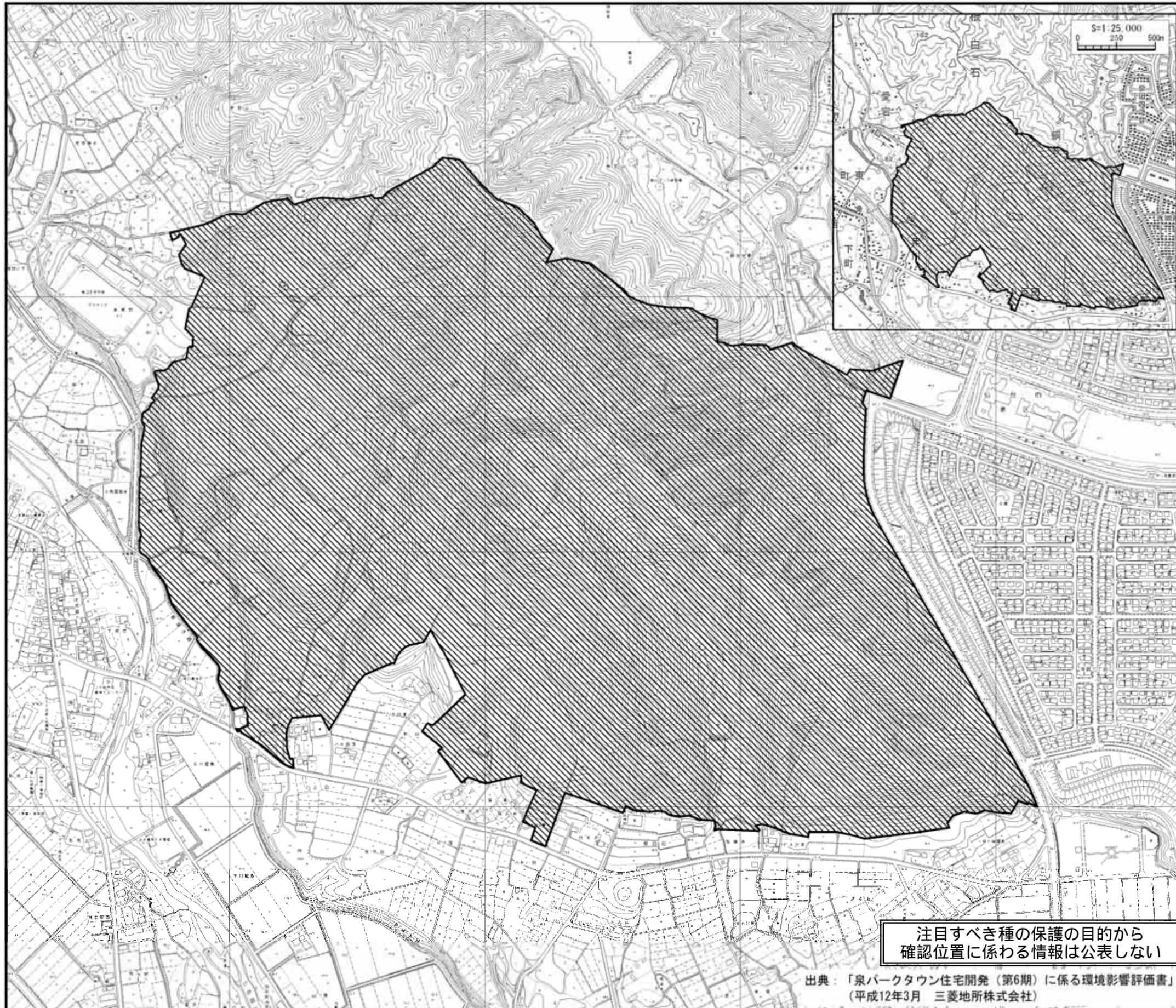
凡例	
種名	注目すべき種
種名	確認種
	対象事業計画地



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

出典：「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」
（平成12年3月 三菱地所株式会社）

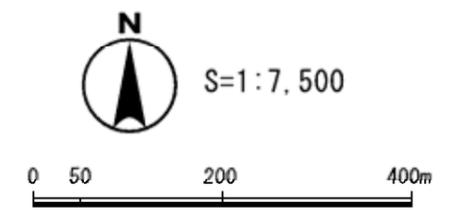
図 6.1-42
水生動物（魚類）確認位置図
（平成12年3月評価書）



凡例	
注目すべき種	
●	ゲンジボタル
★	タガメ
確認種	
●	エゾイトトンボ
●	オゼイトトンボ
●	オオツノトンボ
●	マガタマハンミョウ
●	ヘイケボタル
▨	対象事業計画地

出典で位置が確認できた注目すべき種のみを記載した。
 ※右上の1/25,000の図は対象事業計画地外の確認地点を表したものである。

一般的に、環境調査では確認種全て位置情報を記録しているわけではなく、注目すべき種のみ位置情報を記録している。国及び宮城県のレッドリスト改訂により、平成12年当時では注目すべき種に該当しない種でも、現在では注目すべき種として選定される種があるため、上記凡例に記載の無い種は、位置情報が不明である。



注目すべき種の保護の目的から
 確認位置に係わる情報は公表しない

出典：「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」（平成12年3月 三菱地所株式会社）

図 6.1-43
 注目すべき昆虫類確認位置図
 （平成12年3月評価書）

本図は、仙台市都市計画基本図(1:2500) (平成19年修正版)を下図として使用している。

平成 12 年 3 月評価書において、対象事業計画地周辺を含む調査地域（対象事業計画地及びその周辺約 1000m の範囲）で希少猛禽類調査を実施している。希少猛禽類の確認状況は表 6.1-123、飛翔確認位置図は図 6.1-44～図 6.1-47 に示すとおりである。

平成 9 年 2 月から平成 10 年 7 月の調査で確認された希少猛禽類は、オオタカ、ハイタカ、ハチクマ、ハヤブサ、ミサゴ、チュウヒの 6 種である。なお、チゴハヤブサ、サシバ、チョウゲンボウについては平成 18 年 12 月の環境省鳥類レッドリスト改訂によりランクが上がったため、平成 12 年 3 月評価書では希少猛禽類の選定基準外である。

※希少猛禽類

一般的に猛禽類はタカ科、ハヤブサ科、フクロウ科の鳥類のことを指し、このうち、フクロウ科を除く猛禽類で希少性の高い(レッドリスト該当種)ものを希少猛禽類として、鳥類調査とは個別に現地調査の実施・整理している。

表 6.1-123 希少猛禽類の確認状況（平成 12 年 3 月評価書）

確認種	確認回数	確認状況
オオタカ	135	確認回数が調査期間中 135 回/32 日と最も多く、 においてオオタカの営巣を確認した。 その後の繁殖状況調査で繁殖失敗が確認された。 また翌年の平成 10 年度は、営巣、繁殖は確認されなかった。
ハイタカ	44	冬季に多く確認され、確認位置も散発的であり対象事業計画地及び周辺での繁殖の可能性はほとんどないと考えられる。確認状況から対象事業計画地周辺の林縁部等を採餌場として利用していると考えられる。
ハチクマ	29	夏鳥として対象事業計画地周辺に渡来しており、5～7月にディスプレイ飛翔、つがい雌雄 2 個体での飛翔が確認された。飛翔確認の多い に営巣している可能性が高いと考えられる。
ハヤブサ	4	冬季に 4 回確認された。対象事業計画地は本種の本来の生息環境ではないことから、対象事業計画地に対する依存性はなく、採餌のため水田、屋敷林等を利用していると考えられる。
ミサゴ	3	散発的に 3 回確認された。対象事業計画地及び周辺は本種の本来の生息環境ではないことから、確認個体は移動途中の通過個体であり、対象事業計画地に対する依存性はないと考えられる。
チュウヒ	1	平成 9 年 4 月に 1 回確認された。冬鳥として渡来するが、対象事業計画地及び周辺は本種の本来の生息環境ではないことから、確認個体は移動途中の通過個体と考えられる。
チゴハヤブサ	—	散発的な確認であり、確認個体は移動途中の通過個体と考えられる。
サシバ	—	夏鳥として渡来し数多く確認され、開発地域では夏季を中心に普通にみられる。
チョウゲンボウ	—	事業計画地周辺での水田、屋敷林での確認が多く、開発地域に対する依存性はほとんどないと考えられる。

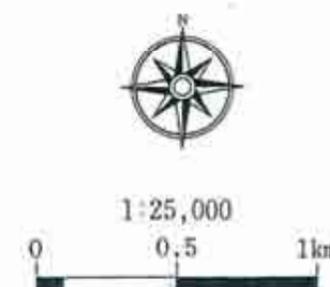
注) ①チゴハヤブサ、サシバ、チョウゲンボウの 3 種は、平成 12 年当時、希少猛禽類ではないが、飛翔を確認した貴重種（「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）における注目すべき種）であるため、表内に示した。

②平成 12 年 3 月評価書において、チゴハヤブサ、サシバ、チョウゲンボウの 3 種の確認回数の記載は無いため「—」と記載した。

注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

凡 例	
	オオタカ飛翔コース
	オオタカ営巣木
	調査地点
	対象事業計画地

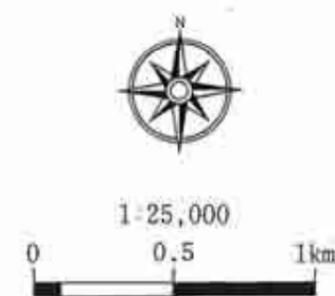
図 6.1-44
オオタカ飛翔確認位置図
(平成12年3月評価書)



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

凡 例	
	ハイタカ飛翔コース
	調査地点
	対象事業計画地

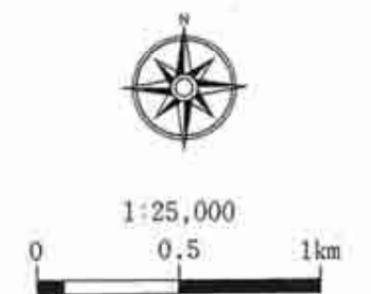
図 6.1-45
ハイタカ飛翔確認位置図
(平成 12 年 3 月評価書)



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

凡 例	
—	ハチクマ飛翔コース
●	調査地点
	対象事業計画地

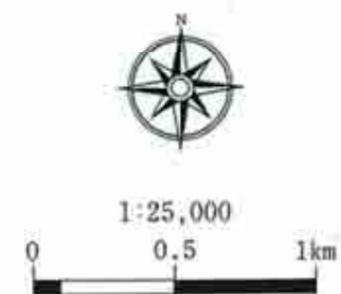
図 6.1-46
ハチクマ飛翔確認位置図
(平成 12 年 3 月評価書)



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

凡 例	
——	ミサゴ飛翔コース
——	チュウヒ飛翔コース
——	ハヤブサ飛翔コース
	対象事業計画地
●	調査地点

図 6.1-47
ミサゴ、チュウヒ、ハヤブサ
飛翔確認位置図
(平成 12 年 3 月評価書)



c) 事業者による希少猛禽類の自主調査

平成 19 年～平成 24 年にかけて、対象事業計画地周辺を含む調査地域（対象事業計画地及びその周辺約 1000m の範囲）で希少猛禽類調査を実施している。調査内容及び調査期間は、定点観察調査を平成 19 年～平成 21 年に実施し、林内踏査を平成 19 年～平成 22 年及び平成 24 年に実施している。

(i) 定点観察調査

平成 19 年～平成 21 年に実施した定点観察調査による希少猛禽類の確認状況は表 6.1-124、定点観察調査の定点位置図は図 6.1-48、飛翔確認位置図は図 6.1-49～図 6.1-55 に示すとおりである。

定点観察調査で確認された種はオオタカ、ハイタカ、ハチクマ、ハヤブサ、サシバ、ミサゴ、チュウヒの 7 種であり、確認種のうちオオタカの繁殖が示唆された。

表 6.1-124 定点観察調査による希少猛禽類の確認状況（平成 19 年～平成 21 年）

確認種	確認回数	確認状況
オオタカ	147	<p>平成 19 年は、対象事業計画地内においてオオタカの活動が確認され、巣立った幼鳥の確認には至らなかったが、対象事業計画地内に執着している様子が示唆された。</p> <p>平成 20 年は、[] に執着する 2 組のつがいが存在することが明らかとなった。[] に執着するつがいの行動圏の中心は、[] にかけてと推定され、[] に執着するつがいの行動圏の中心は、[] にかけてと推定される。なお、[] 辺では狩りがみられたことから、餌狩場として利用されていると考えられる。</p> <p>平成 21 年においても、2 組のつがいとみられる個体が探餌や異種への攻撃といった指標行動を伴う飛翔が確認されており、[] への執着が示唆されている。</p>
ハイタカ	23	<p>平成 20 年は計 6 回散発的に確認されたが、繁殖行動等はなく、確認回数も少ないことから通過個体と考えられる。</p> <p>平成 21 年は [] に計 17 回確認された。4/24 には 6 回確認され、そのうち雌雄が同時出現し、突っかかりの繁殖行動が確認されているが、その後、確認されておらず、散発的であることから対象事業計画地及び周辺での繁殖の可能性はないと考えられる。</p>
ハチクマ	23	<p>夏鳥として対象事業計画地周辺に渡来しており、平成 20 年、平成 21 年とも雌雄複数個体が確認され、対象事業計画地内から羽ばたく個体もみられたが、殆どの場合北側に飛び去り、対象事業計画地内に戻らなかったこと、以降の調査では確認されていないことから、確認個体は通過個体であり、対象事業計画地及び周辺での営巣の可能性はないと考えられる。</p>
ハヤブサ	11	<p>[] で飛翔が確認された。確認回数も少なく繁殖に係る指標行動はみられないことから、対象事業計画地及び周辺での繁殖の可能性はないと考えられる。</p>
サシバ	10	<p>夏鳥として対象事業計画地周辺に渡来しており、[] で確認された。平成 19 年に [] で幼鳥が確認され、周辺で繁殖したと考えられる。平成 20 年は対象事業計画地内での確認はなく、確認回数も少ないことから、対象事業計画地及び周辺で繁殖した可能性はないと考えられる。</p>
ミサゴ	10	<p>[] で確認された。対象事業計画地及び周辺は本種の本来の生息環境ではないことから、確認個体は移動途中の通過個体であり、対象事業計画地に対する依存性はないと考えられる。</p>
チュウヒ	1	<p>平成 20 年 10 月 14 日に 1 回確認された。[] の飛翔であったが、繁殖行動等はみられず、確認回数も 1 回であることから通過個体と考えられる。</p>

(ii) 林内踏査

平成19年～平成22年及び平成24年に実施した林内踏査で確認された巣の一覧及び営巣状況は表 6.1-125, 巣の位置図は図 6.1-56 に示すとおりである。

林内踏査は定点確認調査において繁殖が示唆されたオオタカを対象として実施し, その結果は以下に示すとおりである。

平成9年に確認された[]では, 平成19年4月の調査では[]

平成19年4月, 平成20年4月, 平成21年4月に[]

[]を確認した。このつがいは, 定点観察調査で確認された[]と考えられた。[]を確認した。平成22年には[]

[]と判断した。平成24年には, []が確認された。

また, 平成20年4月に[]

[]を確認した。このつがいは, 定点観察調査で確認された[]と考えられた。6月の繁殖状況調査で[]

[]が確認された。平成21年3月には, []

[]が確認されたが, 4月には[]

[]を確認した。6月下旬に[]

[]が確認されたことから,

[]と考えられ, []が確認された。平成22年は, []

[]した。平成24年には[]と考えられた。

なお, オオタカ以外の猛禽類についても[]しており, 表 6.1-125 に示すとおり[]を確認した。[]については, 平成20年に[]している。

表 6.1-125 林内踏査により確認された巣の一覧及び営巣状況(平成 19 年～平成 22 年及び平成 24 年)

NO.	巣 NO.	利用種 ^{※1}	巣の利用状況 ^{※2}						備考
			～H11	H19	H20	H21	H22	H24	

※1：利用種が確定できないものは、不明と記載している。

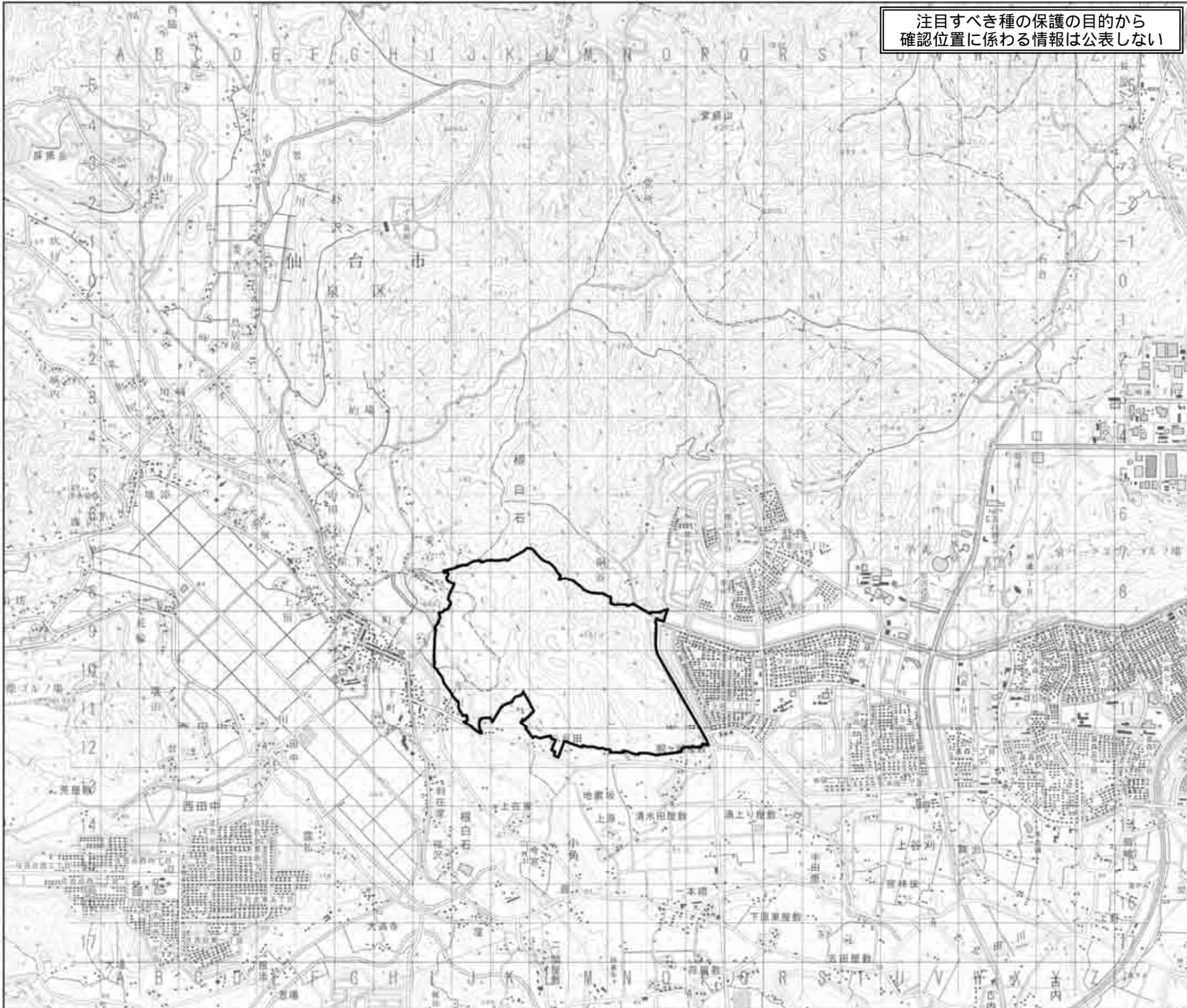
※2：巣の利用状況の凡例は以下に示すとおり。

◎…巣利用，繁殖成功 △…巣利用，繁殖失敗 ×…巣利用なし 不明…巣利用不明 斜線（\）…調査対象外
 消失…営巣木に巣は確認されず，H11～H19 の間に落巣したと考えられるもの。

落巣…営巣木の直下に巣材が確認され，巣が明らかに落下した形跡があるもの。

注) 平成 24 年 12 月時点の情報である。

注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない



凡 例	
●	調査地点
○	対象事業計画地

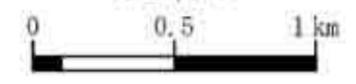
● … 定点調査位置

※巣の名称の付け方は、下記のとおり。
「最初の確認年-確認番号；確認種、(オオタカのみN+通算番号)」
(例：「H19-5；オオタカ、N2」は、平成19年に初めて確認した5番目の猛禽類の巣で、オオタカの巣としては、通算2番目に確認した巣であることを示す。なお、Fは古巣を示す)

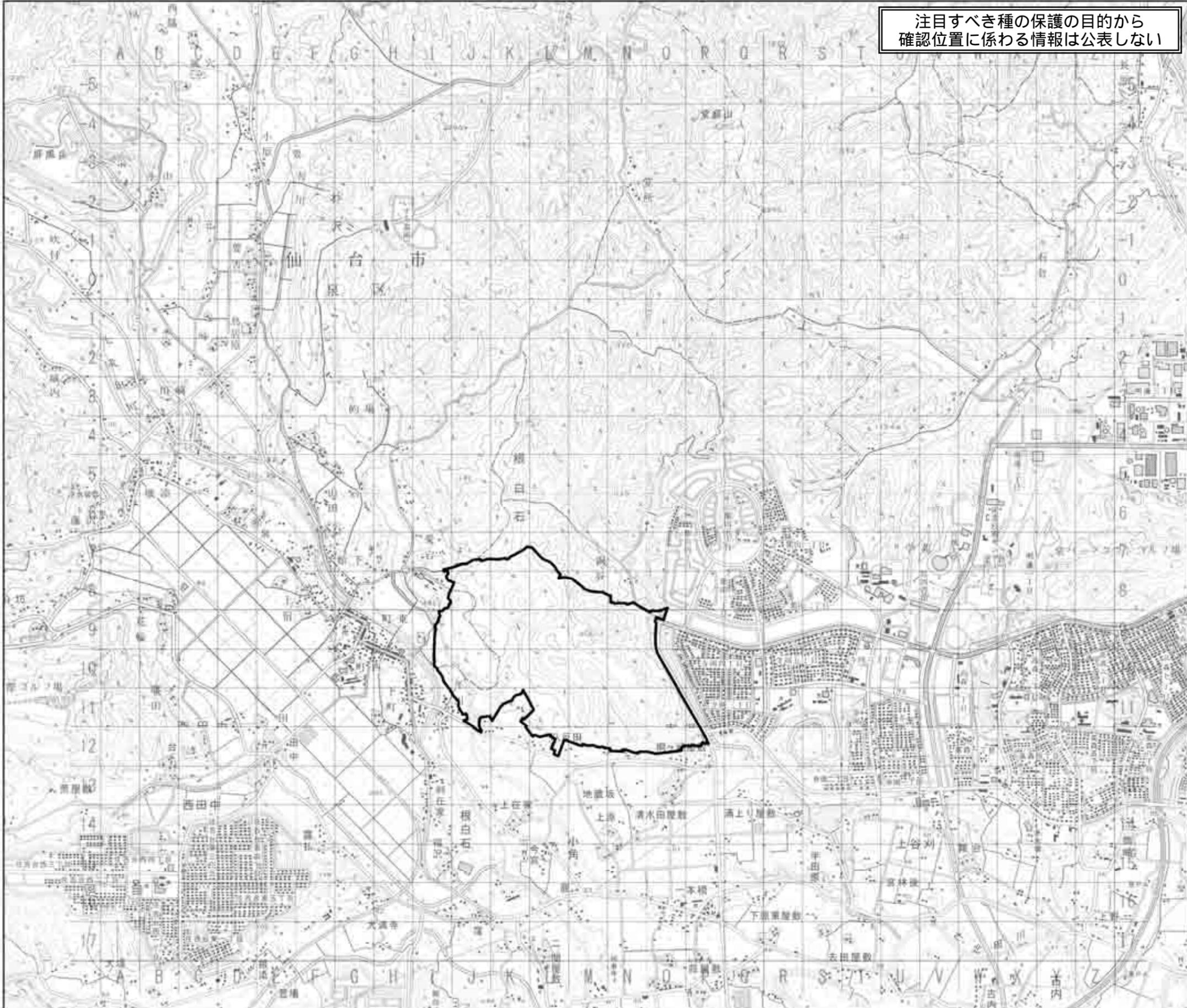
図 6.1-48 定点位置図



1:25,000



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

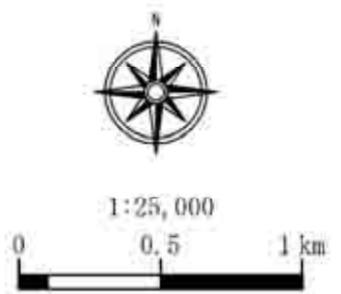


凡 例	
	飛翔
	飛翔からとまりで確認終了
	とまり
	旋回
	旋回上昇
	急降下
	狩り(直接攻撃)
	探餌飛翔
	停空飛翔
	ディスプレイ ¹⁾
	ディスプレイ ²⁾
	攻撃・モビング
	被攻撃・被モビング
	餌運搬
	巣材運搬
	交尾
	鳴き声のみ
	巣(利用確認)
	古巣位置(消失)
	調査地点
	対象事業計画地

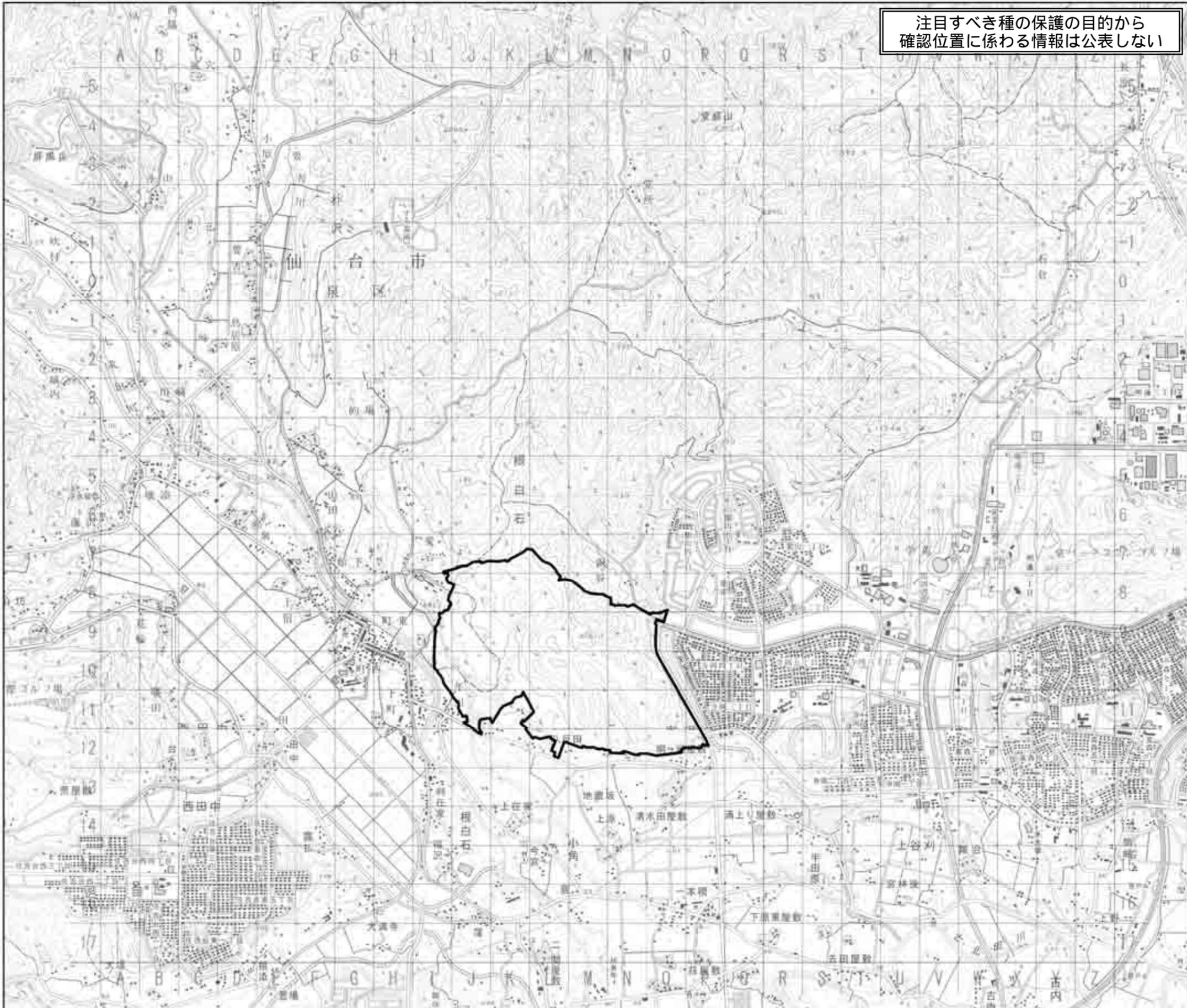
- *1: 波状、突っかかりなど、単発的に行われるディスプレイ。
- *2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に行われるディスプレイ。
- *3: 巣の名称の付け方は下記のとおり。
「最初の確認年-確認番号: 確認種
(オオタカのみN+通算番号)」
(例: 「H19-5: オオタカ, N2」は平成19年に初めて確認した5番めの猛禽類の巣で、オオタカの巣としては通算2番目に確認した巣であることを示す。Fは古巣を示す)

凡 例	
	H20. 3~H21. 7確認の飛翔
	H19. 4~H19. 8確認の飛翔

図 6.1-49 オオタカ飛翔確認位置図



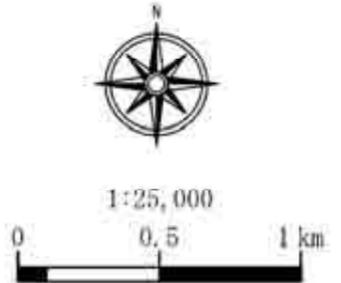
注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない



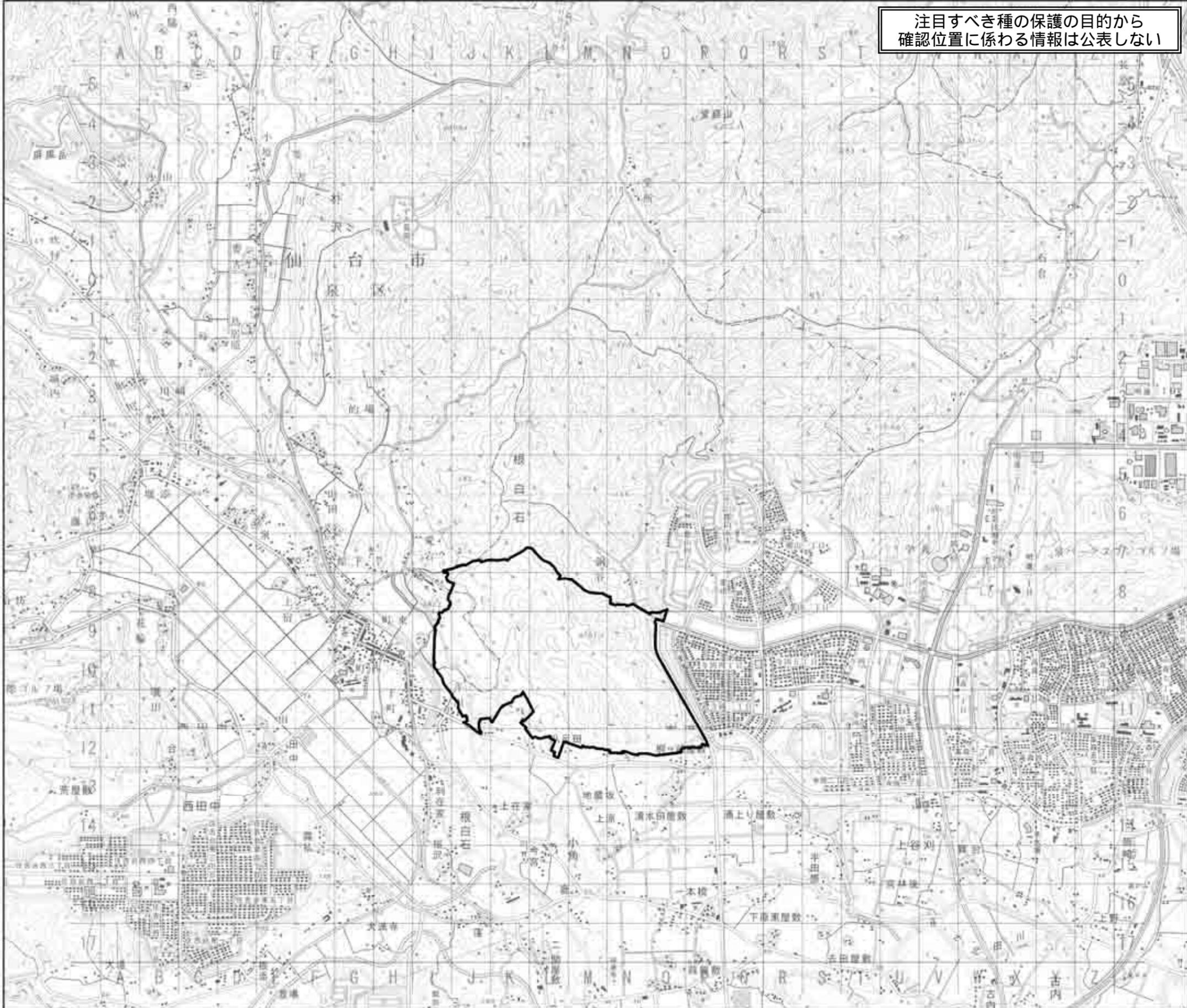
凡 例	
	飛翔
	飛翔からとまりで確認終了
	とまり
	旋回
	旋回上昇
	急降下
	狩り(直接攻撃)
	探餌飛翔
	停空飛翔
	ディスプレイ ¹⁾
	ディスプレイ ²⁾
	攻撃・モビング
	被攻撃・被モビング
	餌運搬
	巣材運搬
	交尾
	鳴き声のみ
	巣(利用中)
	古巣(消失)
	調査地点
	対象事業計画地

- *1: 波状、突っかかり、重なりなど、単発的に行われるディスプレイ。
- *2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に行われるディスプレイ。
- *3: 巣の名称の付け方は下記のとおり。
「最初の確認年-確認番号: 確認種」
(オオタカのみN+通算番号)
(例: 「H19-5: オオタカ, N2」は平成19年に初めて確認した5番めの猛禽類の巣で、オオタカの巣としては通算2番目に確認した巣であることを示す。Fは古巣を示す)

図 6.1-50 ハイタカ飛翔確認位置図



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない



凡 例	
	飛翔
	飛翔からとまりで確認終了
	とまり
	旋回
	旋回上昇
	急降下
	狩り(直接攻撃)
	探餌飛翔
	停空飛翔
	ディスプレイ ¹⁾
	ディスプレイ ²⁾
	攻撃・モビング
	被攻撃・被モビング
	餌運搬
	巣材運搬
	交尾
	鳴き声のみ
	巣(利用確認)
	古巣(消失)
	調査地点
	対象事業計画地

- *1: 波状、突っかかり、重なりなど、単発的に行われるディスプレイ。
- *2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に行われるディスプレイ。
- *3: 巣の名称の付け方は下記のとおり。
「最初の確認年-確認番号-確認種
(オオタカのみN+通算番号)」
(例: 「H19-5_オオタカ_N2」は平成19年に初めて確認した5番めの猛禽類の巣で、オオタカの巣としては通算2番目に確認した巣であることを示す。Fは古巣を示す)

凡 例	
	H20 3~H21. 7確認の飛翔
	H19 4~H19. 8確認の飛翔

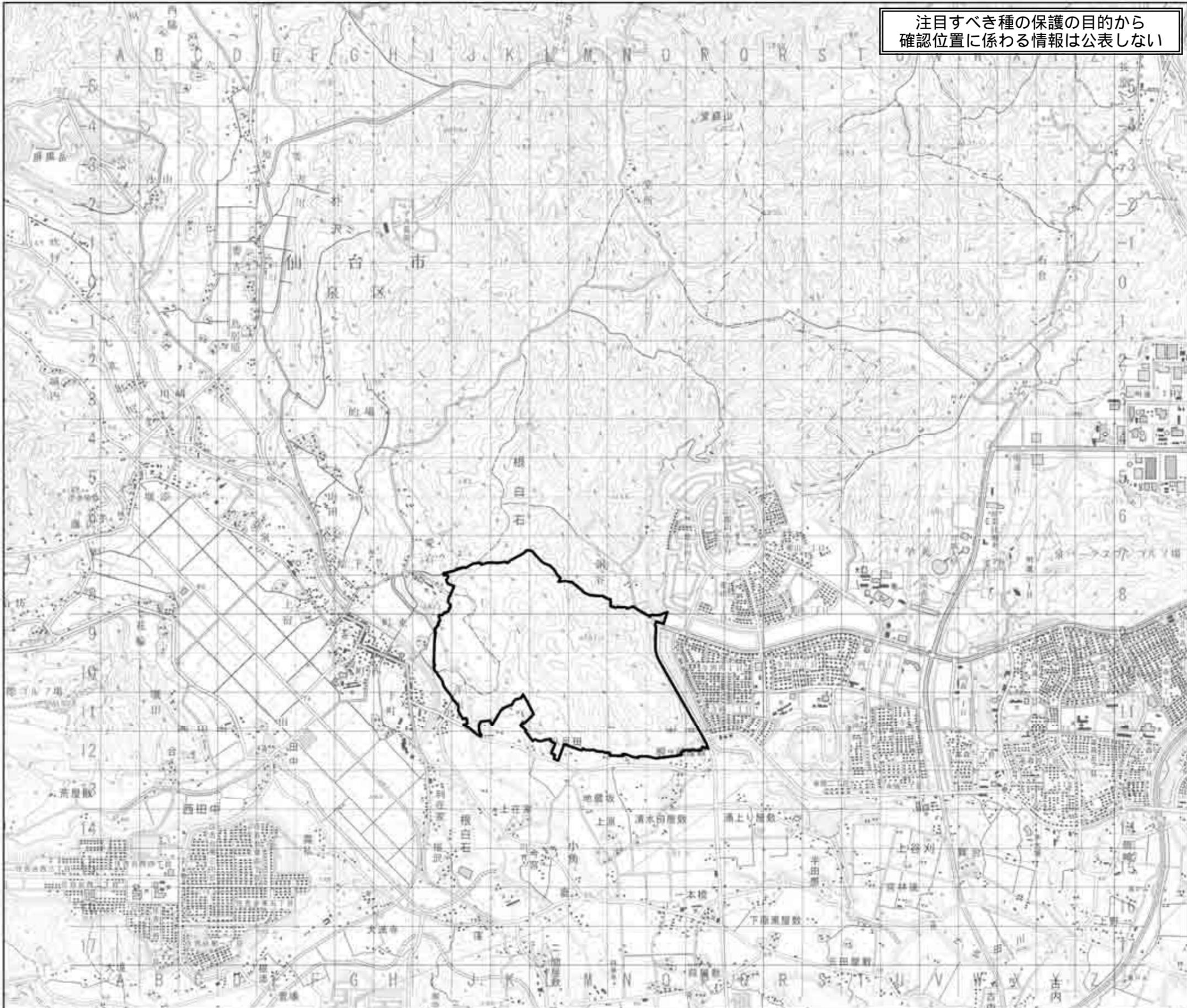


1:25,000



図 6.1-51 ハチクマ飛翔確認位置図

注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない



凡 例	
	飛翔
	飛翔からとまりで確認終了
	とまり
	旋回
	旋回上昇
	急降下
	狩り(直接攻撃)
	探餌飛翔
	停空飛翔
	ディスプレイ ^{※1}
	ディスプレイ ^{※2}
	攻撃・モビング
	被攻撃・被モビング
	餌運搬
	巣材運搬
	交尾
	鳴き声のみ
	巣(利用確認)
	古巣(消失)
	調査地点
	対象事業計画地

- *1: 波状、突っかかり、重なりなど、単発的に行われるディスプレイ。
- *2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に行われるディスプレイ。
- *3: 巣の名称の付け方は下記のとおり。
「最初の確認年-確認番号・確認種
(オオタカのみN+通算番号)」
(例: 「H19-5 オオタカ, N2」は平成19年に初めて確認した5番めの猛禽類の巣で、オオタカの巣としては通算2番目に確認した巣であることを示す。Fは古巣を示す)

凡 例	
	H20. 3~H21. 7確認の飛翔
	H19. 4~H19. 8確認の飛翔
	ハヤブサ

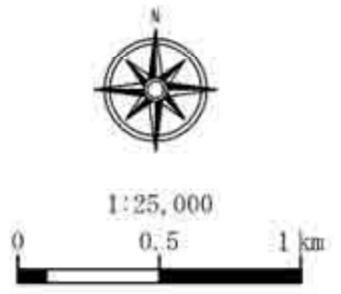
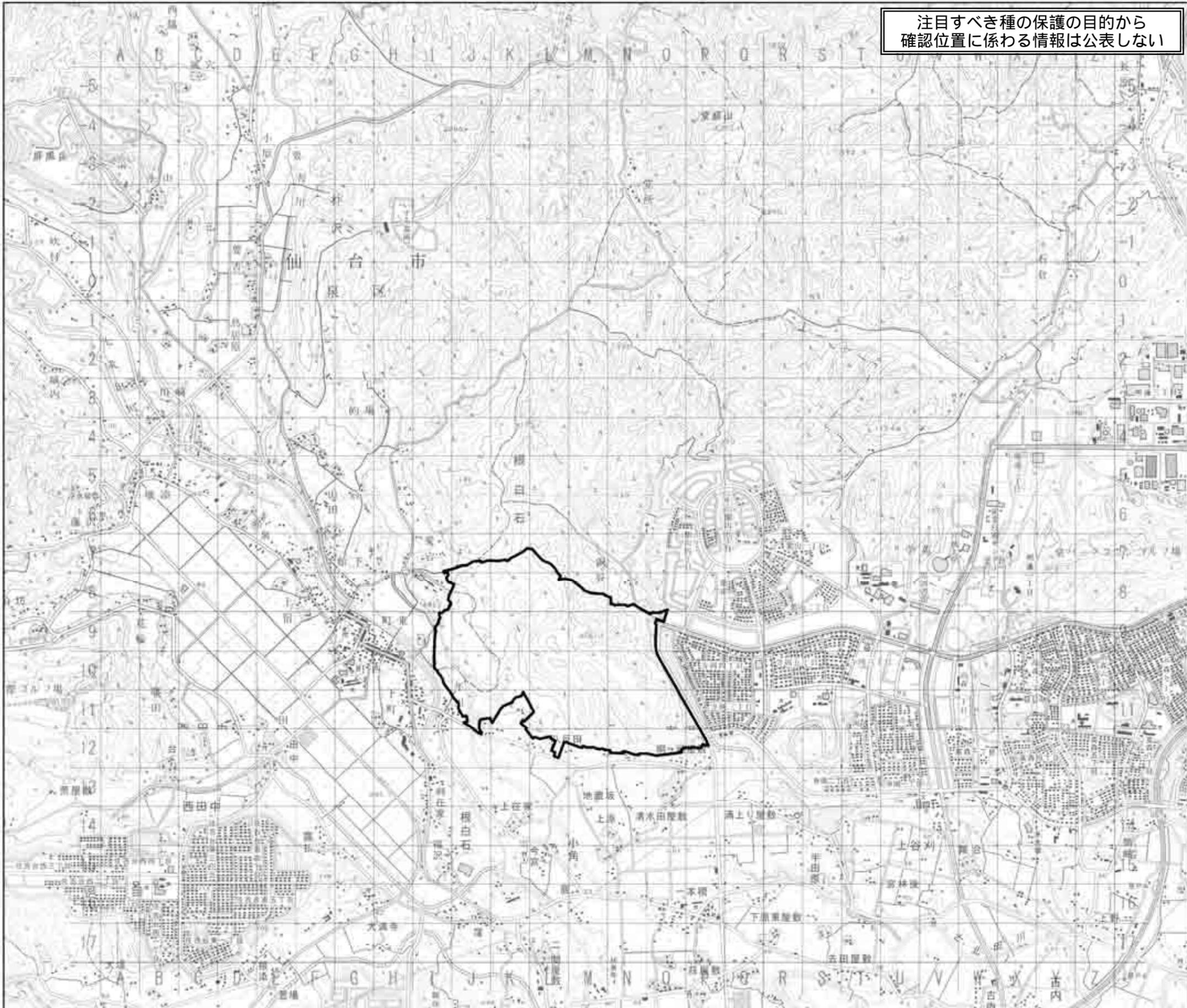


図 6.1-52 ハヤブサ飛翔確認位置図

注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

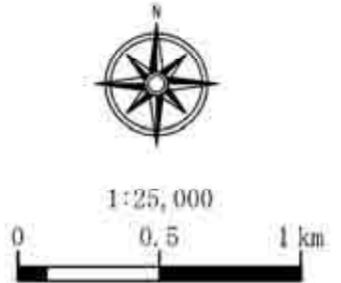


凡 例	
	飛翔
	飛翔からとまりで確認終了
	とまり
	旋回
	旋回上昇
	急降下
	狩り(直接攻撃)
	探餌飛翔
	停空飛翔
	ディスプレイ ¹⁾
	ディスプレイ ²⁾
	攻撃・モビング
	被攻撃・被モビング
	餌運搬
	巣材運搬
	交尾
	鳴き声のみ
	巣(利用確認)
	古巣(消失)
	調査地点
	対象事業計画地

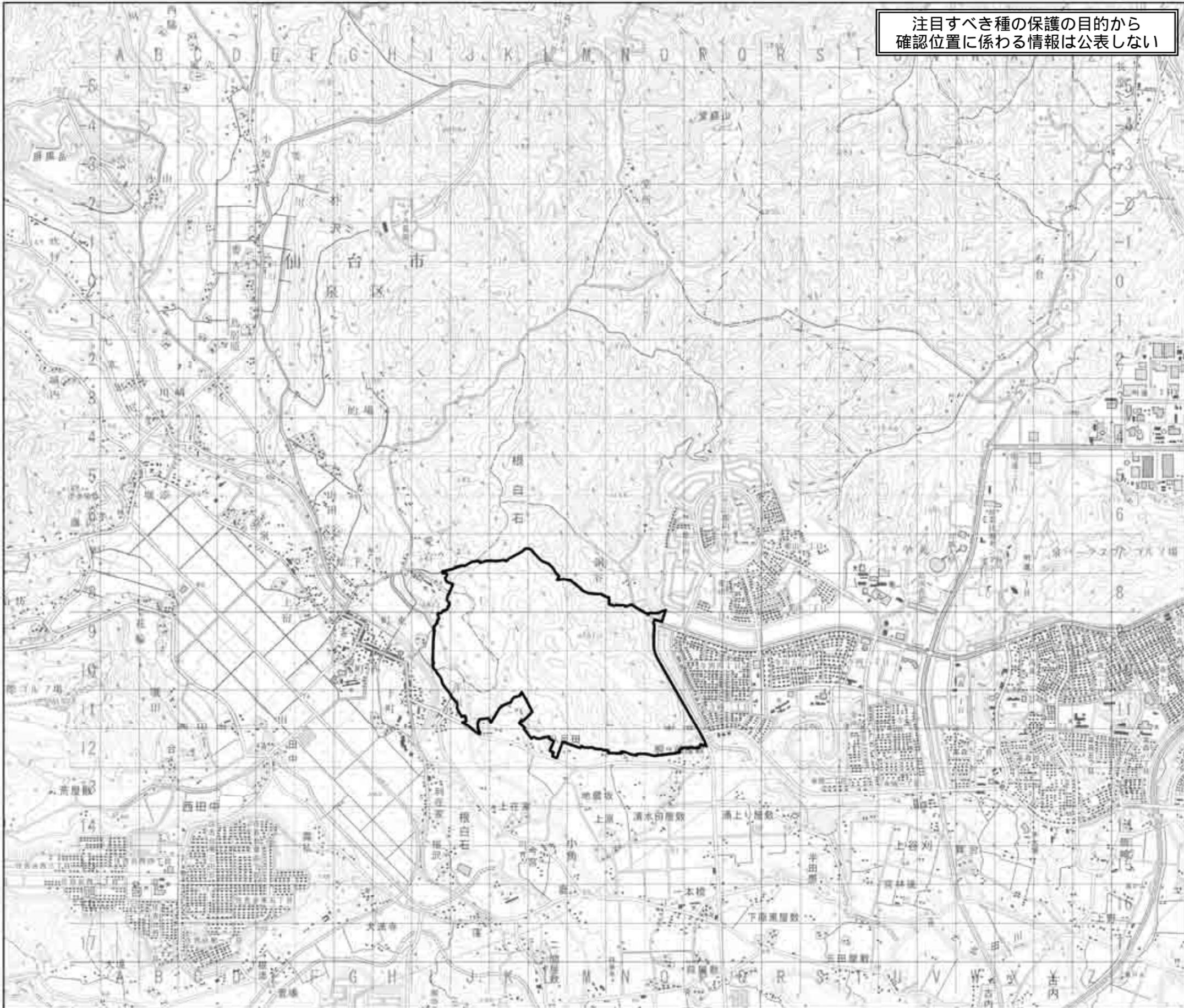
- *1: 波状、突っかかりなど、単発的に
行われるディスプレイ。
- *2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に
行われるディスプレイ。
- *3: 巣の名称の付け方は下記のとおり。
「最初の確認年-確認番号: 確認種
(オオタカのみN+通算番号)」
(例: 「H19-5: オオタカ, N2」は平成
19年に初めて確認した5番めの猛禽類
の巣で、オオタカの巣としては通算2
番目に確認した巣であることを示す。
Fは古巣を示す)

凡 例	
	H20. 3~H21. 7確認の飛翔
	H19. 4~H19. 8確認の飛翔

図 6.1-53 サシバ飛翔確認位置図



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

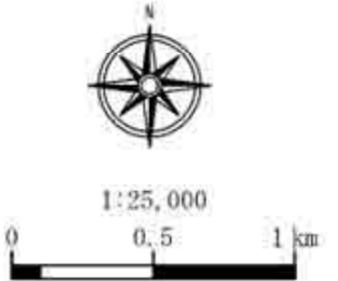


凡 例	
	飛翔
	飛翔からとまりで確認終了
	とまり
	旋回
	旋回上昇
	急降下
	狩り(直接攻撃)
	探餌飛翔
	停空飛翔
	ディスプレイ ^{※1}
	ディスプレイ ^{※2}
	攻撃・モビング
	被攻撃・被モビング
	餌運搬
	巣材運搬
	交尾
	鳴き声のみ
	巣(利用確認)
	古巣位置(消失)
	調査地点
	対象事業計画地

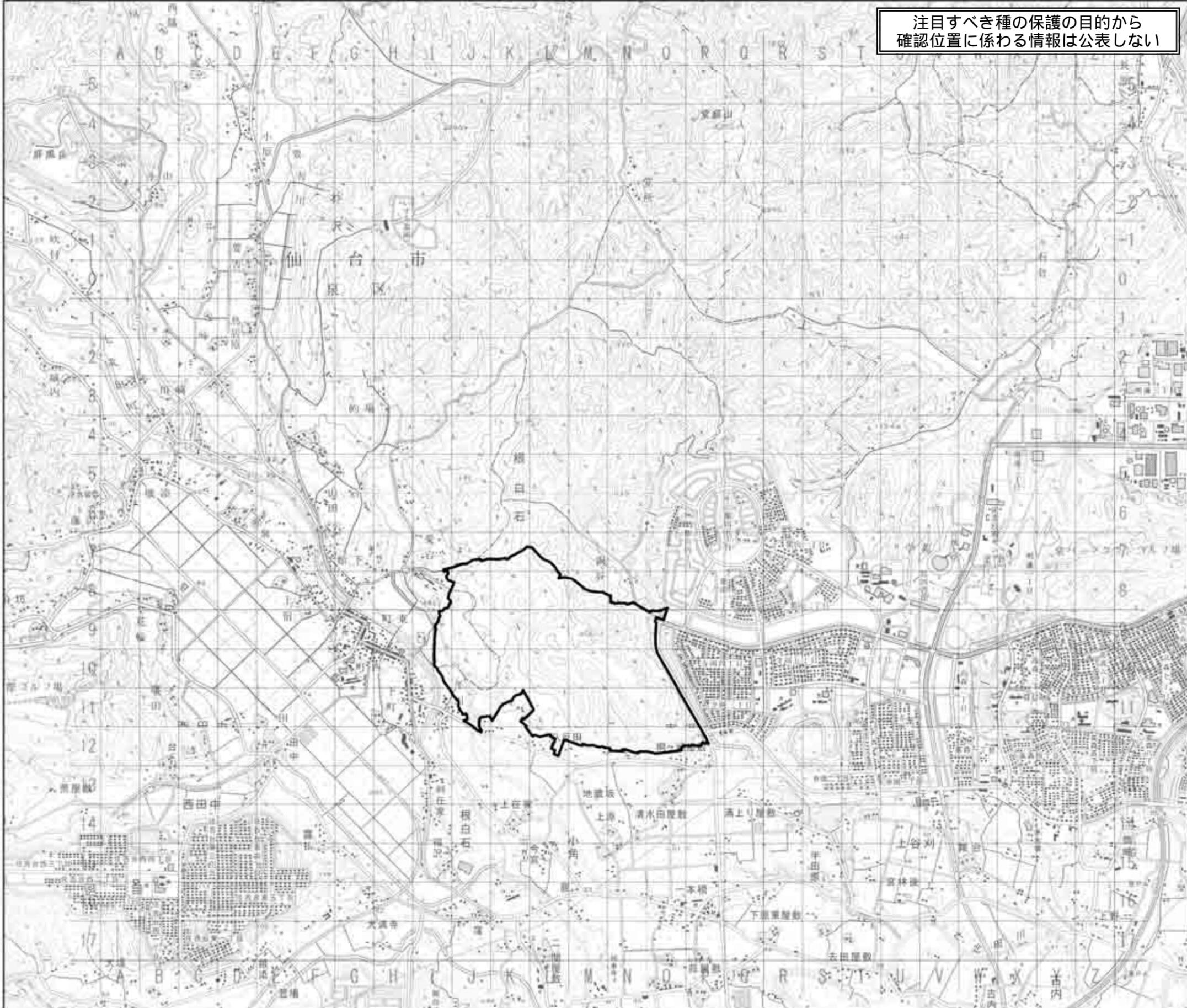
- *1: 波状、突っかかりなど、単発的に行われるディスプレイ。
- *2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に行われるディスプレイ。
- *3: 巣の名称の付け方は下記のとおり。
「最初の確認年-確認番号・確認種
(オオタカのみN+通算番号)」
(例: 「H19-5 オオタカ, N2」は平成19年に初めて確認した5番めの猛禽類の巣で、オオタカの巣としては通算2番目に確認した巣であることを示す。Fは古巣を示す)

凡 例	
	H20. 3~H21. 7確認の飛翔
	H19. 4~H19. 8確認の飛翔
	ミサゴ

図 6.1-54 ミサゴ飛翔確認位置図



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

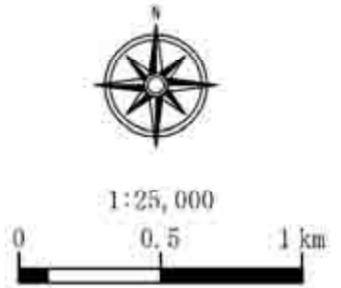


凡 例	
	飛翔
	飛翔からとまりで確認終了
	とまり
	旋回
	旋回上昇
	急降下
	狩り(直接攻撃)
	探餌飛翔
	停空飛翔
	ディスプレイ ¹⁾
	ディスプレイ ²⁾
	攻撃・モビング
	被攻撃・被モビング
	餌運搬
	巣材運搬
	交尾
	鳴き声のみ
	巣(利用確認)
	古巣(消失)
	調査地点
	対象事業計画地

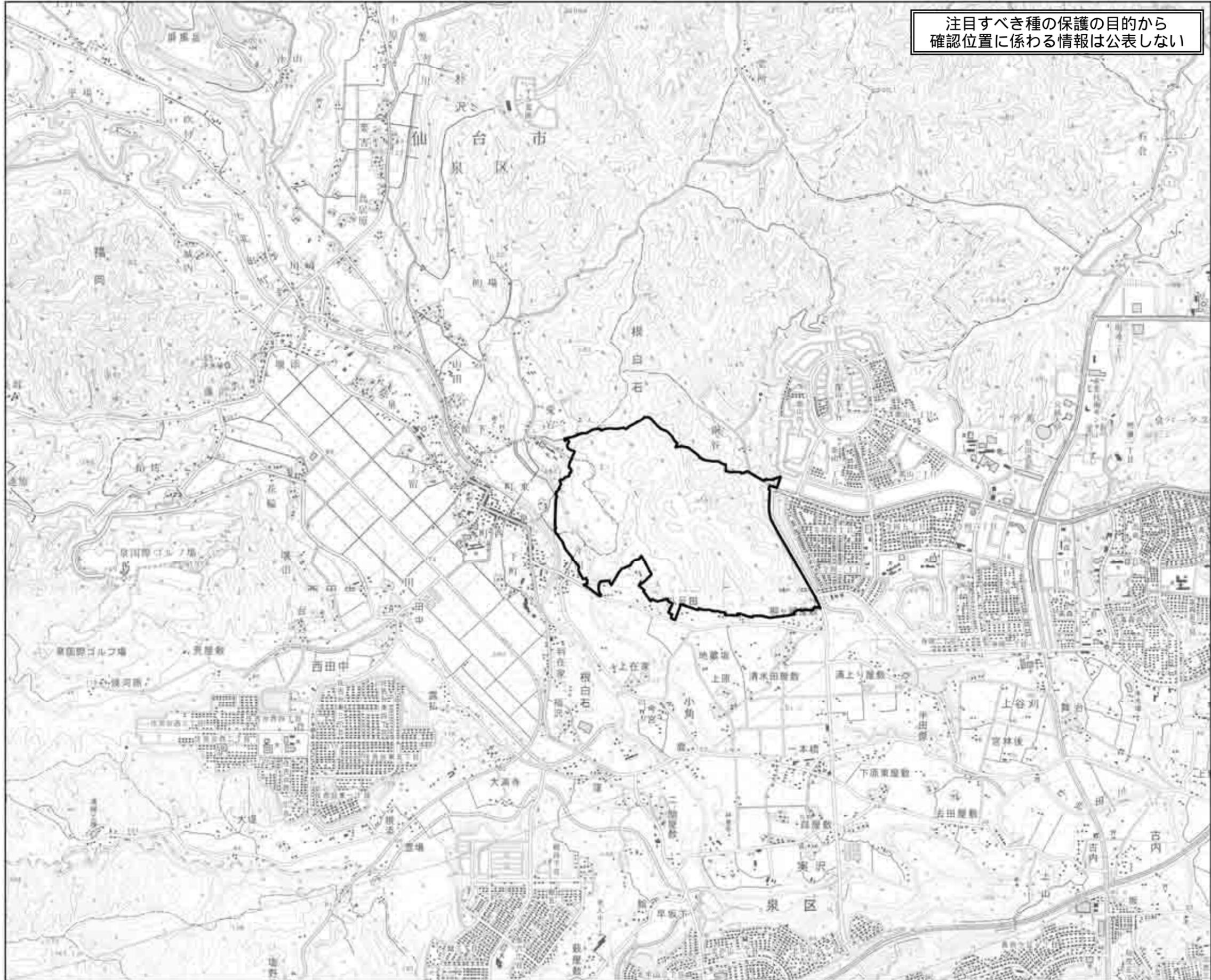
- *1: 波状、突っかかり、重なりなど、単発的に行われるディスプレイ。
- *2: 連れ立ち、相互旋回など、連続的に行われるディスプレイ。
- *3: 巣の名称の付け方は下記のとおり。
「最初の確認年-確認番号: 確認種
(オオタカのみN+通算番号)」
(例: 「H19-5: オオタカ, N2」は平成19年に初めて確認した5番めの猛禽類の巣で、オオタカの巣としては通算2番目に確認した巣であることを示す。Fは古巣を示す)

凡 例	
	H20. 3~H21. 7確認の飛翔
	H19. 4~H19. 8確認の飛翔
	チュウヒ

図 6.1-55 チュウヒ飛翔確認位置図



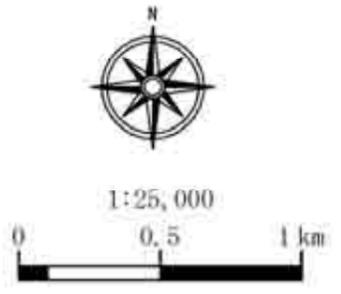
注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない



凡 例	
☆	オオタカ繁殖巣
色凡例	現存巣
	落巣
○	オオタカを除く猛禽類
色凡例	現存巣
	落巣
▼	H24の調査対象外の巣
○	対象事業計画地

※巣の名称のつけ方は、下記のとおり。
「最初の確認年-確認番号
(オオタカのみN+通算番号)」
(例: 「H19-5(N2)」は平成19年に初めて確認した5番目の猛禽類の巣で、オオタカの巣としては通算2番目に確認した巣であることを示す。「F」は古巣を示す。)
巣の位置は、平成19年度以降に事業者が自主的に実施した猛禽類調査に基づくものである。
※平成24年12月時点の情報である。

図 6.1-56
平成19年～平成24年に
確認された巣の位置図



イ 動物生息地として重要な地域

a) 文献調査

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）では、表 6.1-107 に示す選定基準により動物生息地として重要な地域を選定している。調査範囲では、表 6.1-126 及び図 6.1-57 に示す動物生息地として重要な地域が存在している。なお、対象事業計画地は「泉ヶ岳から根白石への緑の回廊」の地域内に位置している。

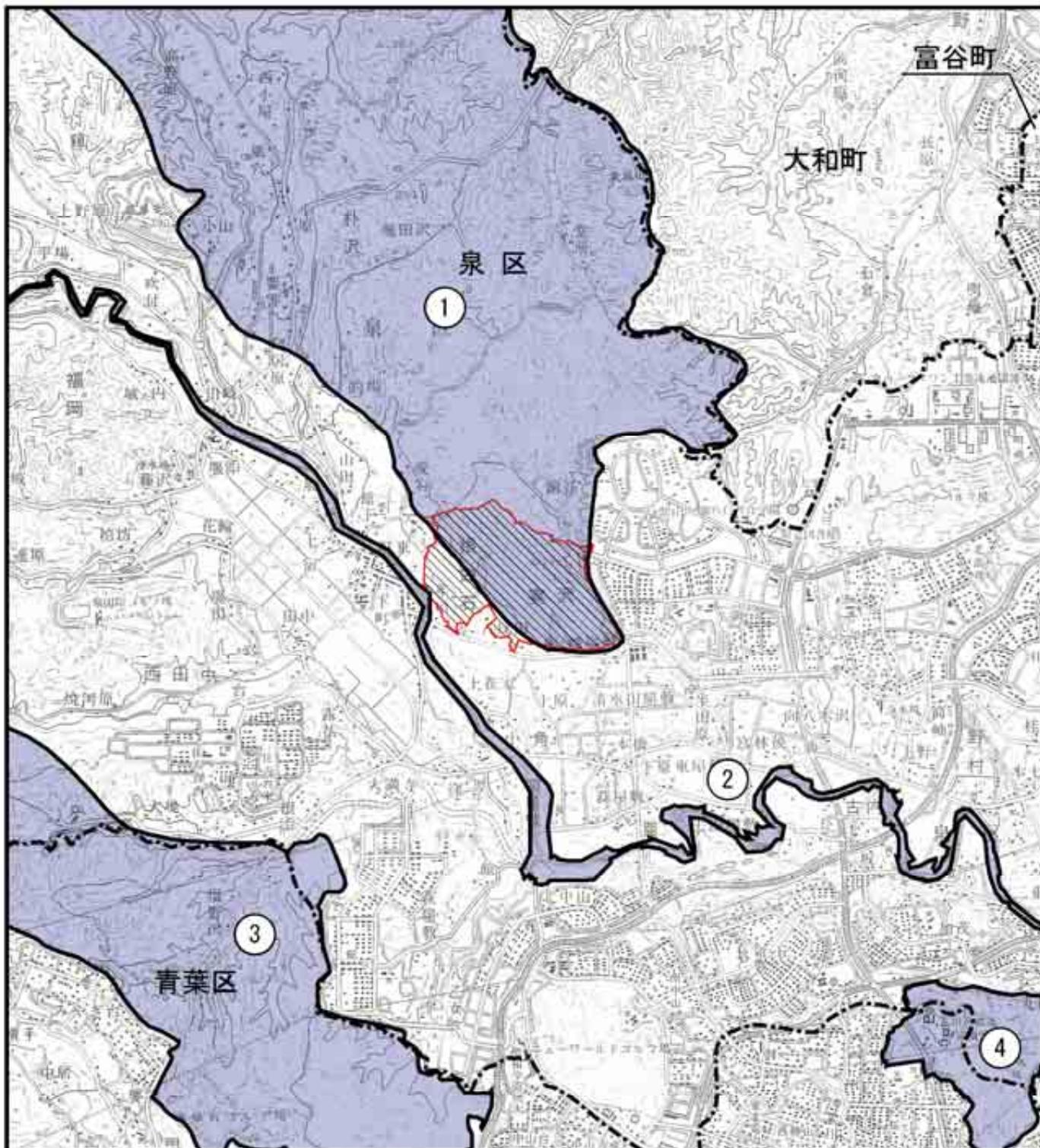
表 6.1-126 動物生息地として重要な地域

NO.	件名	備考	判断理由
①	泉ヶ岳から根白石への緑の回廊	・ 市域北部の動物生息環境，移動路として重要。植物及び動物の生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。	2, 8
②	七北田川（中流域～河口）	・ 川に接する地域の環境変化が著しく，動物の生息環境・移動経路としての重要性がとて大きくなっている。	2, 8
③	奥羽山脈から大倉・芋沢丘陵地域への緑の回廊	・ 市域中央部の動物生息環境，移動路として重要。植物及び動物の生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。	2, 8
④	丸田沢緑地（水の森公園）	・ 市街地に残された池沼を含む緑地・公園である。市街地に残された動物の生息地，環境学習のフィールドとして重要である。	6, 7

出典：「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）

注：表中の NO. は図 6.1-57 の番号に対応する。

判断理由は表 6.1-107 に対応する。



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 動物生息地として重要な地域
-  : 市区町境界線



S=1:50,000

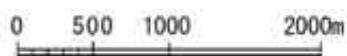


図 6.1-57
動物生息地として
重要な地域

出典：「平成22年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」
(平成23年3月 仙台市)

ウ 動物からみた対象事業計画地の位置づけ及び保全上の留意点

対象事業計画地は北側から連続する丘陵地の南端部にあたり、南側は七北田川によって形成された段丘平野が広がっている。丘陵地の植生は、コナラ二次林やスギ・アカマツ植林によって大部分が占められる。また、西側には耕作放棄地が広がり里地・里山的な植生となっている。

対象事業計画地は山地地域と市街地地域のバッファゾーン（緩衝帯）として、本市の生物多様性の連続性を支える重要地域であることから、既往の調査結果で確認された注目すべき種を念頭に現地調査を実施して保全対策を検討する。

(3) 生態系

既往調査結果である「泉パークタウン住宅開発（第6期に係る環境影響評価書）」（平成12年3月）の調査結果から、調査範囲の生態系について整理した。

ア 対象事業計画地周辺の生態系の特性

対象事業計画地は、七北田川が東西方向から南北方向に屈曲する上流域の左岸側に位置する。地形的には標高100m～150mの山地～丘陵地帯であり、台地状の河岸段丘が発達している。

河岸段丘のうち、七北田川沿いの低位段丘は水田・畑作耕作地として利用されている。また、周辺の丘陵地は、宅地開発やゴルフ場開発が進んでいる。

丘陵地の植生は、コナラ二次林中に、スギ植林、アカマツ植林がモザイク状に発達している。

自然環境類型は、コナラ群落、スギ植林、アカマツ植林から構成される山地・丘陵地形と、水田雑草群落で構成される台地・段丘及び河岸平野に大別できる。その状況を図6.1-59に示した。

また、対象事業計画地周辺の主要な生息種について食物連鎖図（図6.1-58）として整理した。

<類型区分>

- 山地・丘陵－コナラ群落
- 山地・丘陵－スギ植林
- 山地・丘陵－アカマツ植林
- 山地・丘陵－シバ群落
- 台地・段丘－コナラ群落
- 台地・段丘－水田雑草群落
- 河岸平野・谷底平地－水田雑草群落

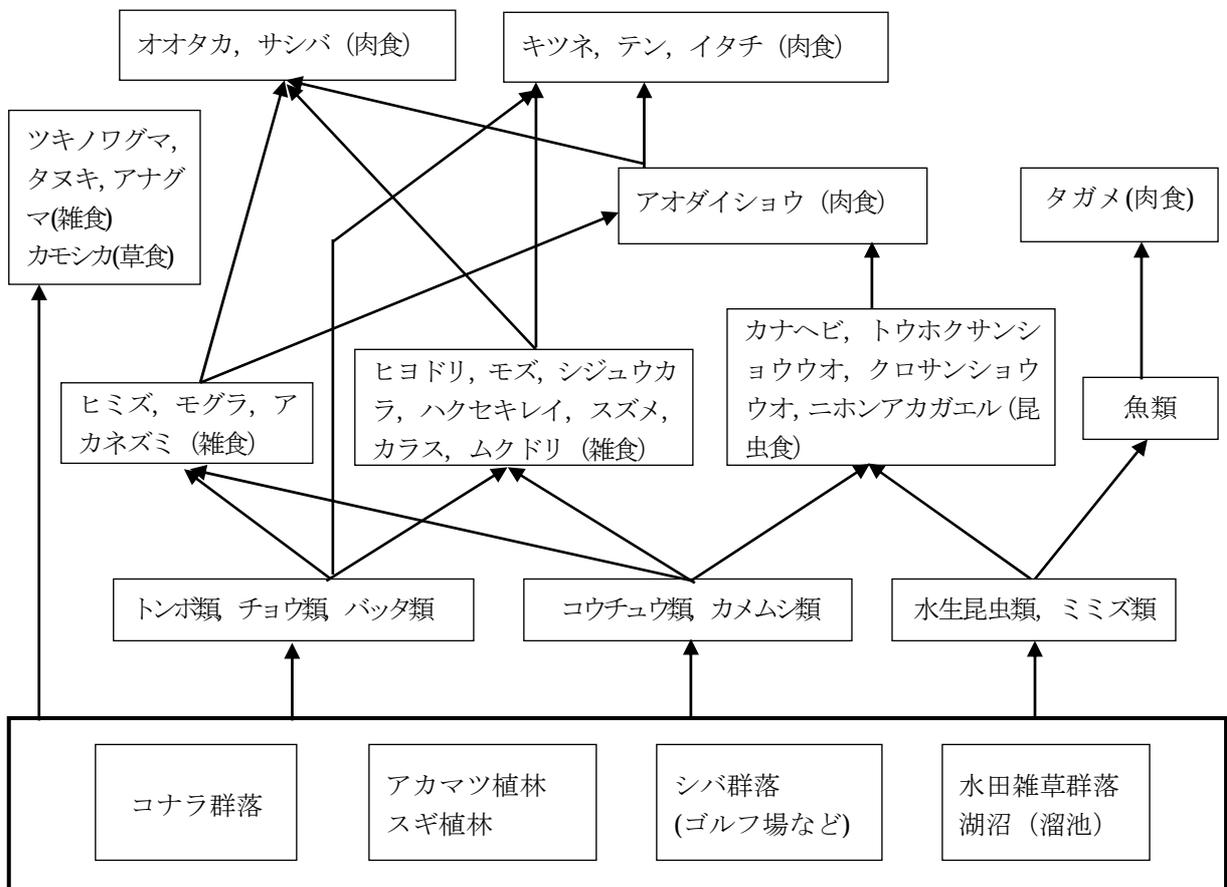
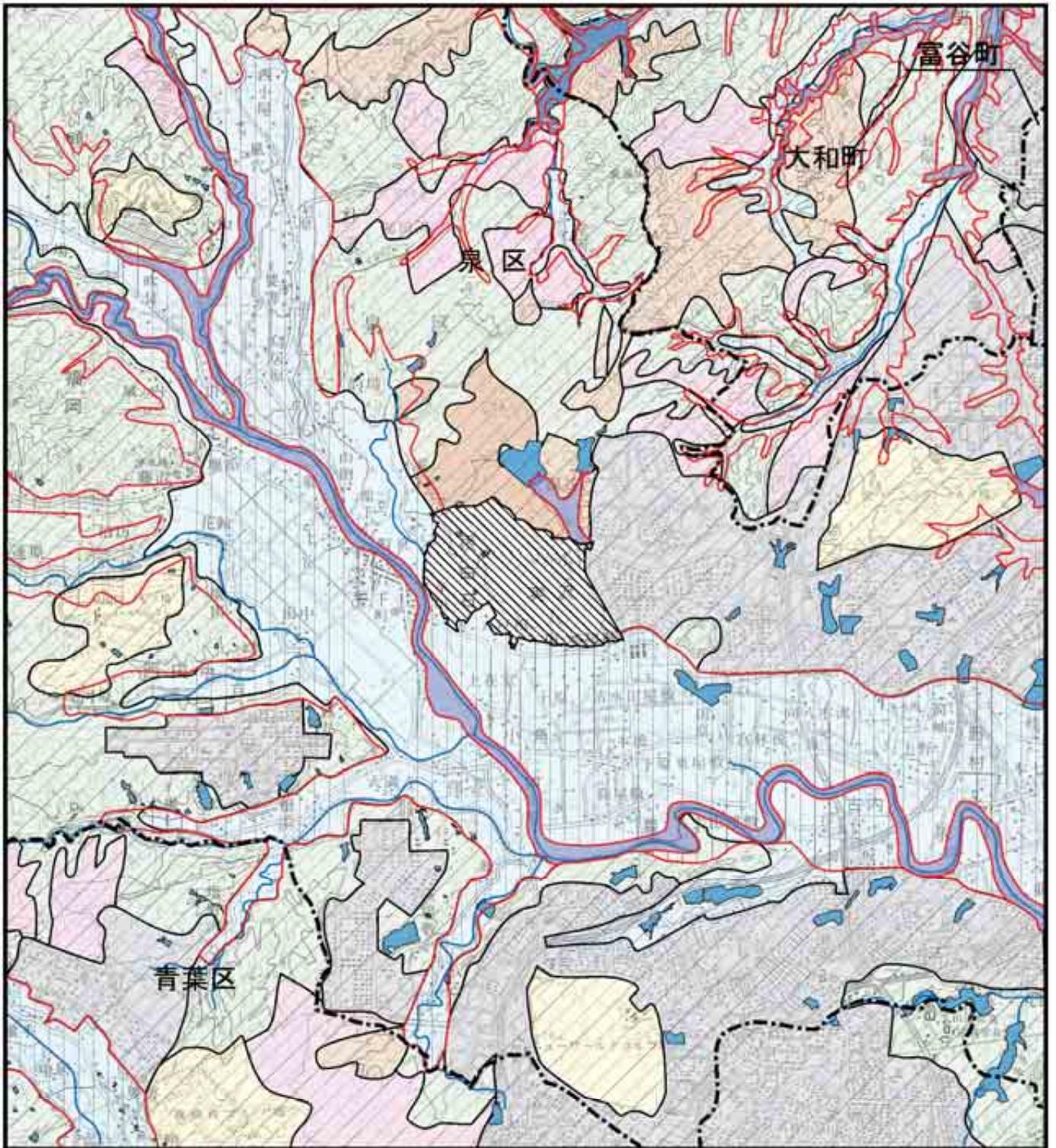


図 6.1-58 対象事業計画地周辺の食物連鎖図



凡例

- | | | |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> : 対象事業計画地 : 市区町境界線 —植生区分— : コナラ群落 : アカマツ植林 | <ul style="list-style-type: none"> : スギ植林 : 水田雑草群落 : シバ群落 (ゴルフ場など) : 市街地 : 湖沼・ため池 | <p>—地形区分—</p> <ul style="list-style-type: none"> : 山地・丘陵地 : 台地・段丘 : 河岸平野・谷底平地 |
|--|---|---|



S=1:50,000

0 500 1000 2000m

出典：現存植生図「吉岡」（昭和61年 環境庁）「仙台」（昭和59年 環境庁）
 地形分類図「吉岡」（昭和55年3月 宮城県）、「仙台」（昭和42年3月 経済企画庁）
 「宮城県河川・海岸図」（平成25年3月 宮城県）
 「平成22年度 自然環境に関する基礎調査業務報告書」（平成23年3月 仙台市）

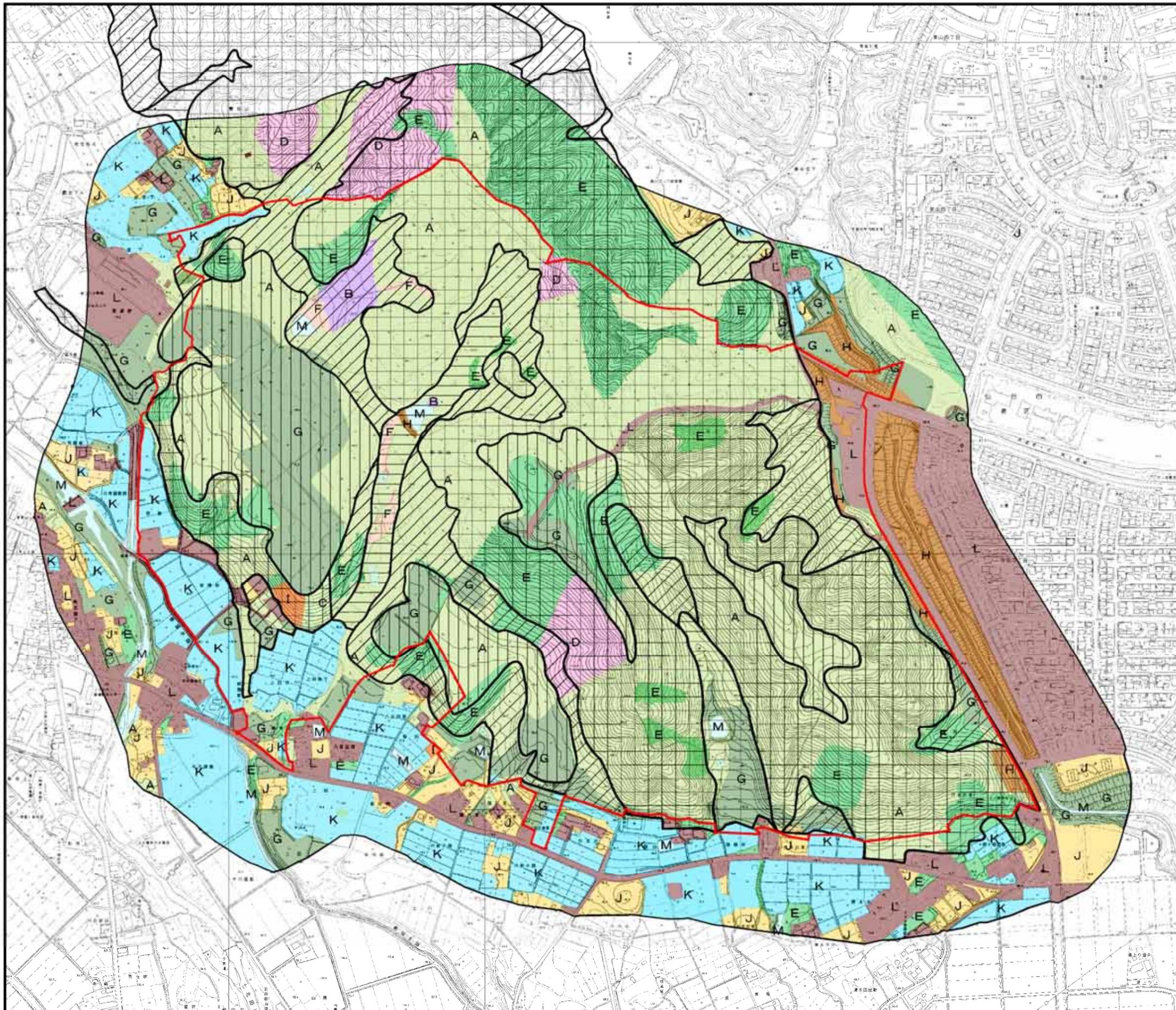
図 6.1-59
 自然環境類型図

イ 対象事業計画地における生態系の特性

対象事業計画地での生息・生育基盤の状況として、表 6.1-127 に生態系類型区分の概要を示す。また、対象事業計画地における類型区分の状況は図 6.1-60 に示すとおりである。

表 6.1-127 生態系類型区分の概要

類型区分	主な植生	概要
丘陵地・段丘 －落葉広葉樹林	コナラ林	計画地の丘陵地や段丘面に発達した二次林により占められる。林床にササ群落の被度が高い箇所と、チゴユリや██████など多様な草本が生育する箇所がある。
	ハンノキ林	計画地北西部の緩傾斜地（水田跡地）に成立した落葉高木林である。
丘陵地・段丘 －常緑針葉樹林	スギ植林	調査地内及び周辺の丘陵地や段丘面にパッチ状に植林されている。林床は██████やチヂミザサの被度が高い。
	アカマツ植林	計画地内及び周辺の丘陵地の一部に植林されている。林床にはチゴユリ、██████などが生育している。
丘陵地・段丘・谷底 －高茎草本群落	ススキ群落	計画地内の段丘面（耕作跡地）や谷底低地に発達する草本群落。
丘陵地・谷底 －湿生植物群落	湿生植物群落	谷底や湿潤な耕作放棄地にみられる。██████，オモダカなどの抽水性植物のほか、イヌホタルイ，アゼナなどが生育する。
人工改変地 －水田・畑作雑草群落	畑作雑草群落	計画地の南～西側に広がる水田耕作地を中心とする人工改変地。
	水田雑草群落	
開放水域	開放水面（池沼）	計画地内及び周辺のため池に相当する。██████，██████，██████などの沈水性，抽水性植物がみられる。
人工改変地 －住宅・道路等	住宅・道路・公園など	計画地の東側（寺岡地区）のほか，南～西側に点在する。



凡例

- : 対象事業計画地
- A : コナラ林(植生自然度 7)
- B : ハンノキ林(植生自然度 7)
- C : 竹林(植生自然度 7)
- D : アカマツ植林(植生自然度 6)
- E : スギ植林(植生自然度 6)
- F : 湿性植物群落(植生自然度 5)
- G : ススキ群落(植生自然度 5)
- H : 法面雑草群落(植生自然度 5)
- I : 果樹園(植生自然度 3)
- J : 畑地雑草群落(植生自然度 2)
- K : 水田雑草群落(植生自然度 2)
- L : 建物・道路など(植生自然度 1)
- M : 開放水面(植生自然度 1)

類型区分図

- : 丘陵地(急勾配)
- : 丘陵地(緩勾配)
- : 段丘平坦面
- : 谷底平地
- : 人工改変地

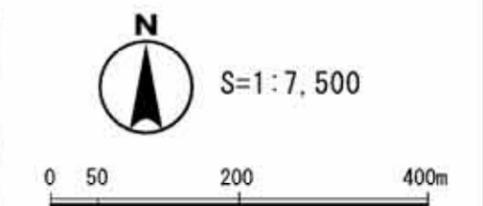


図 6.1-60
類型区分図(1/7,500)

ウ 注目種の概要

生態系における注目種（上位性，典型性，特殊性）の考え方を表 6.1-128 に示す。

表 6.1-128 生態系における注目種（上位性，典型性，特殊性）の考え方

区分	考え方	選定上の留意点
上位性	生態系の上位に位置する種。その種の存在を保障することが、おのずと多数の種の存在を確保することを意味する。	調査地域全体または代表的環境を含む、比較的広い範囲にまたがって成立する食物連鎖や、栄養段階数のより大きな食物連鎖に着目する。
典型性	当該地域の生態系の特徴をよく表す種、環境指標種（種群）、キーストーン種等。貴重種ではないありふれた種に着目する。	対象地域において、生物間の相互作用や生態系の機能に重要な役割を担う種等、生物群集の多様性を特徴づける種や生態遷移を特徴づける種等を対象とし、環境変動などの影響を受けやすい種等を選定する。
特殊性	特異な立地環境を指標する種、生活の重要部分を他の生物に依存する種等。	対象地域において占有面積が比較的小規模で、周囲には見られない環境に着目し、これらの環境要素や環境条件に生息が強く規定される種等を選定する。

エ 生態系を保全する上での留意点

対象事業計画地は北側から連続する丘陵地の南端部にあたり、南側は七北田川によって形成された段丘平野が広がっている。また、丘陵地の植生はコナラ二次林やスギ・アカマツ植林によって大部分が占められるほか、西側には耕作放棄地が広がっている。

対象事業計画地は山地地域と市街地地域のバッファゾーン（緩衝帯）として、本市の生物多様性の連続性を支える重要地域であることから、既往の調査結果で確認された生態系の注目種を念頭に現地調査を実施して保全対策を検討する。

6.1.5. 景観等

(1) 景観

対象事業計画地周辺における景観は、主に丘陵地の住宅地及び山林、田園地帯、遠方の山地で構成されている。

ア 自然的景観資源及び歴史的景観資源の状況

a) 文献調査

調査範囲内における主要な自然的景観資源及び歴史的景観資源は表 6.1-129、景観資源分布図は図 6.1-61 に示すとおりである。

調査範囲内における自然的景観資源は権現森緑地環境保全地域、丸田沢緑地環境保全地域等 6 箇所あり、歴史的景観資源はいぐねと古民家、賀茂神社の 2 箇所がある。

表 6.1-129 調査範囲内における景観資源

【自然的景観資源】

No.	名称	文献*					
		①	②	③	④	⑤	⑥
1	根白石七北田川中流（河成段丘）	○					
2	権現森緑地環境保全地域			○			
3	丸田沢緑地環境保全地域			○			
4	県立自然公園船形連峰			○			
5	屏風岳				○		
6	大森・太田高原				○		
自然的景観資源数計		1	0	3	2	0	0

【歴史的景観資源】

No.	名称	文献*					
		①	②	③	④	⑤	⑥
7	いぐねと古民家					○	
8	賀茂神社						○
歴史的景観資源数計		0	0	0	0	1	1

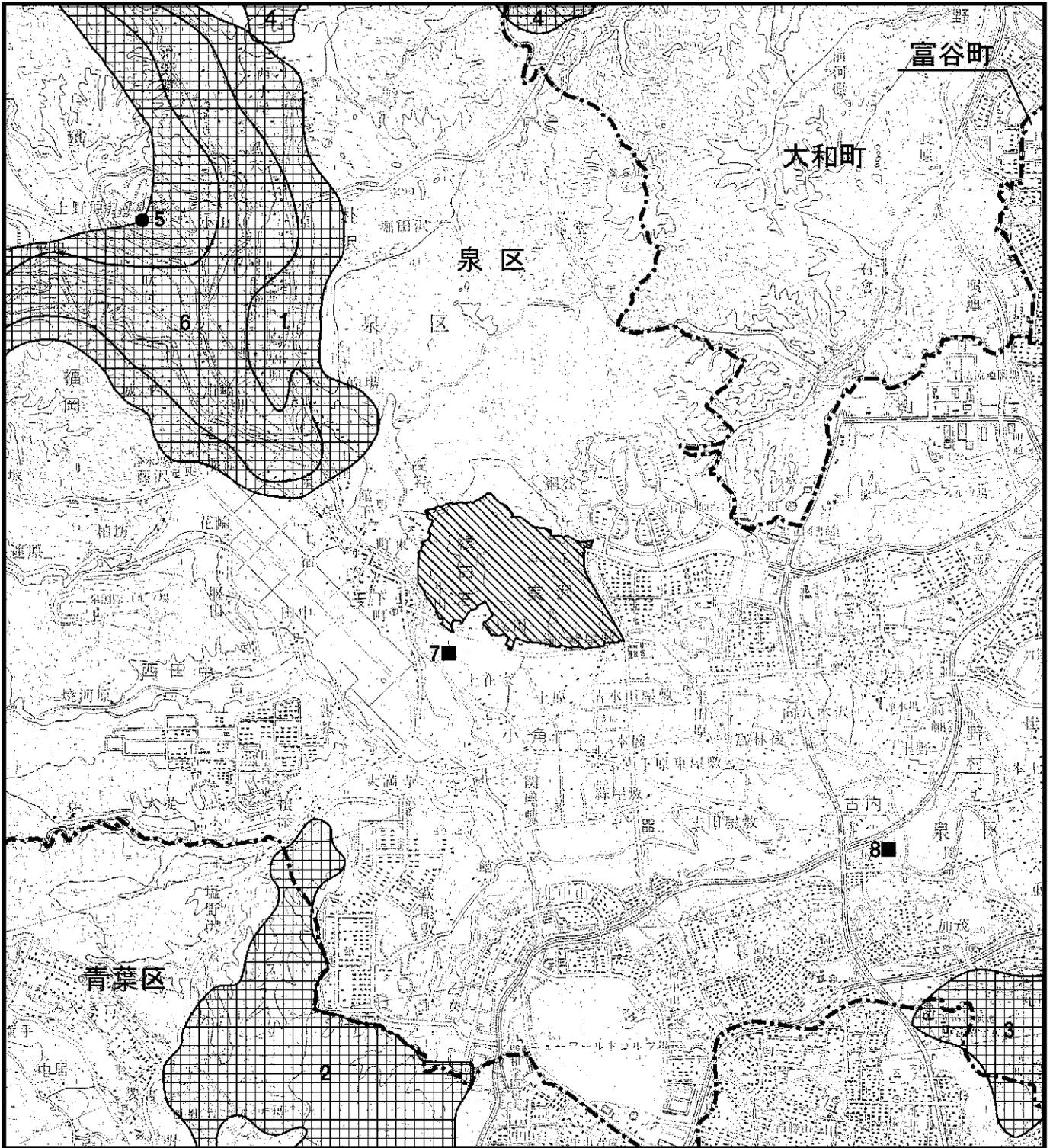
※1：文献は以下のとおりである。

- ① 「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）
- ② 「大和町環境基礎調査」（平成 15 年 3 月 大和町）
- ③ 「仙台市公園・緑地等配置図」（平成 23 年 4 月 仙台市）
- ④ 「第 3 回自然環境保全基礎調査 宮城県自然環境情報図」（平成元年 環境庁）
- ⑤ 「みやぎ・身近な景観百選」（平成 24 年 9 月 宮城県）
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/tosikei/keikan-100sen-kekka.html>
- ⑥ 「みやぎ伊達な観光マップ」 <http://www.datenamap.com/>

※2：表中の NO. は図 6.1-61 の番号に対応する。

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書において、自然的景観資源及び歴史的景観資源の調査は行われていない。



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線
-  : 自然的景観資源 (図中番号: 1~6)
-  : 歴史的景観資源 (図中番号: 7~8)



S=1:50,000

0 500 1000 2000m

- 出典: 1. 「平成22年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」
(平成23年3月 仙台市)
2. 「大和町環境基礎調査」 (平成15年3月 大和町)
3. 「仙台市公園・緑地等配置図」 (平成23年4月 仙台市)
4. 「第3回自然環境保全基礎調査 宮城県自然環境情報図」 (平成元年 環境庁)
5. 「みやぎ・身近な景観百選」 (平成24年9月 宮城県)
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/tosikei/keikan-100sen-kekka.html>
6. 「みやぎ伊達な観光マップ」 <http://www.datenamap.com/>

図 6.1-61
対象事業計画地周辺の
景観資源分布図
(文献調査)

イ 対象事業計画地の景観の状況

対象事業計画地はコナラ林等の落葉広葉樹林、スギ・ヒノキ植林、アカマツ林の針葉樹林等から構成される森林に覆われた丘陵地景観を呈しており、遠方の山地地域と近傍の住宅地や田畑等を繋ぐ役割を担っている。奥羽山脈の東端にあつて、広がる定高性の七北田丘陵に属しており、対象事業計画地の標高は100～150mの小起伏丘陵地になっている。

眺望地点は、表 6.1-130 に示すとおりである。主要な眺望地点としては、愛宕地区、寺岡地区等が挙げられる。

表 6.1-130 調査範囲内における眺望地点

No.	名称	標高 (m)	対象事業 計画地 までの 距離 (km)	景観の 種類 ^{※1}		眺望の概要	可視性	
							可・ 不可 ^{※2}	不可視 要因
1	愛宕地区	90	0.4	シ ーン 景 観	近 景	主稜線は眺望できない。手前の樹林や建物に遮蔽され、対象事業計画地の斜面の一部しか眺望できない。また調査範囲の農地が眺望できる。	△	樹林 建物
2	寺岡地区	85	0.1			対象事業計画地を南北に伸びる主尾根の稜線及び斜面が眺望できる。	○	
3	根白石地区	61	0.05			対象事業計画地の北西斜面の森林、水田が間近に眺望できる。	○	
4	清水田 屋敷地区	60	0.6			対象事業計画地内を南東に伸びる主尾根先端部の稜線及び斜面、他稜線の一部を眺望できる。	○	
5	西田中地区	69	1.2		中 景	対象事業計画地の主尾根稜線及び稜線を含んだ丘陵地帯が一望できる良好な眺望景観を呈している。	○	
6	露払地区	68	1.1			対象事業計画地の主尾根稜線及び稜線を含んだ丘陵地帯が一望できる良好な眺望景観を呈している。	○	
7	対象事業 計画地 北側の道路	180	1.7			遠 景	広い範囲で主稜線から伸びる斜面が眺望できる。この地点からの眺望は、手前に広がる森林によって構成され、対象事業計画地を含む丘陵地帯が眺望できる。	○
8	屏風岳	212	3.5		対象事業計画地内を南東に伸びる主尾根先端部の稜線及び斜面の一部を眺望できる。		△	地形
9	泉塩釜線	53	1.0	シ ーク エ ン ス 景 観	手前の樹木に遮られ対象事業計画地の稜線の一部を眺望することができる。また周辺地域の農地も眺望できる。		△	地形 樹木
10	泉塩釜線	33	3.0		遠方からの眺望であり、手前の樹木等に遮られ対象事業計画地を眺望できない。	×	地形 樹木	
11	国道 457 号	80	3.8		手前の丘陵地先端部に遮られるため、対象事業計画地の主稜線の一部しか眺望できない。	△	地形	

※1：景観の種類

シーン景観：ある地点に視点を定めて、そこから得られる景観

シークエンス景観：視点の移動（道路を歩く、車で走るなどの行動）によって得られる景観

近景：近距離景（対象事業計画地周辺）

中景：中距離景（対象事業計画地から1～1.5km以内）

遠景：遠距離景（対象事業計画地から1.5km超）

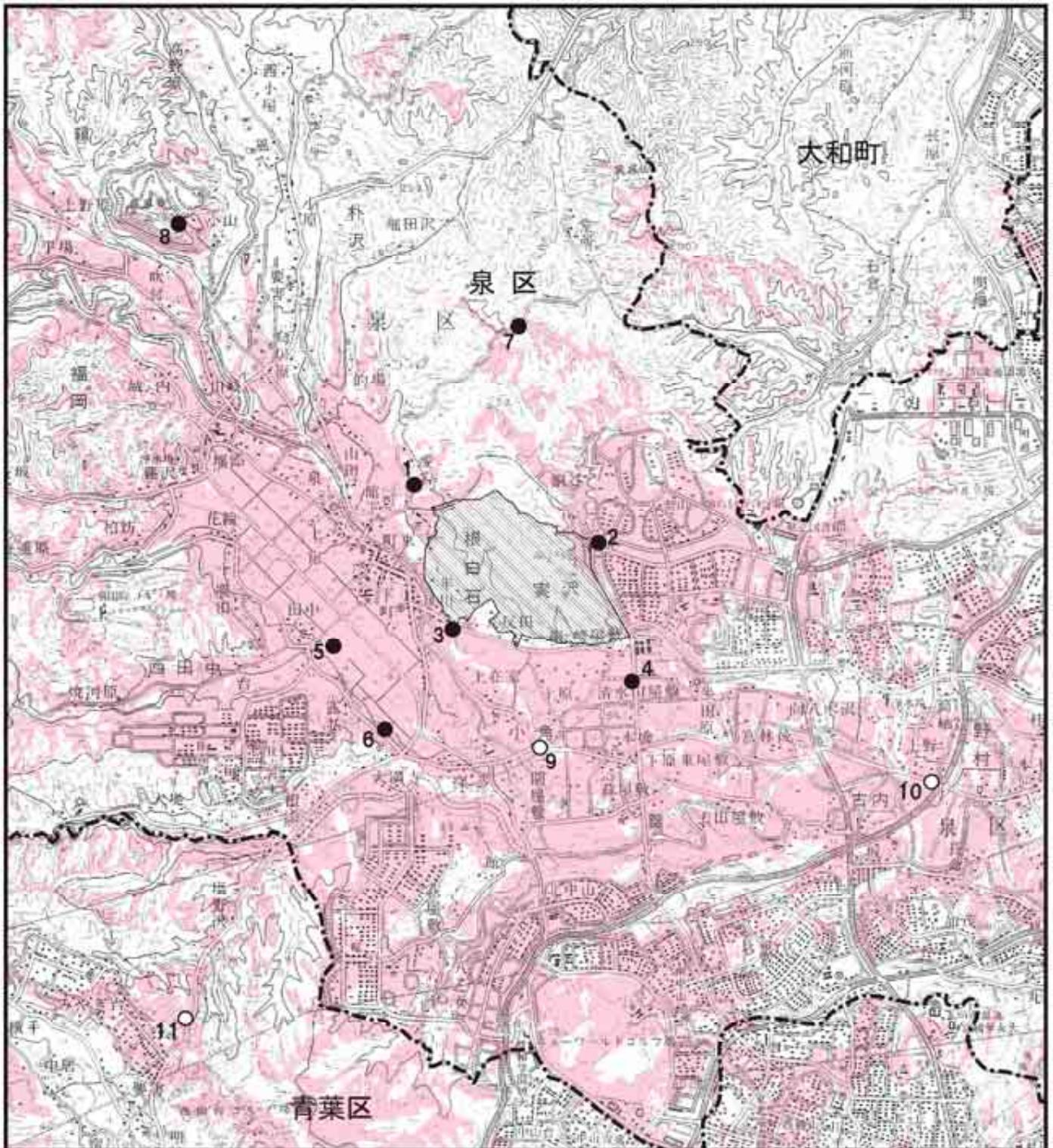
※2：可視性

○：可視部分が多い、△：可視部分が少ない、×：可視できない

（「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」（平成12年3月 三菱地所株式会社）

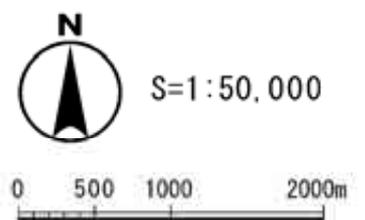
ウ 景観保全上の留意点

対象事業計画地及び周辺は、宮城県の代表的な里山景観を形成している。また、対象事業計画地東側には既成市街地が、南側には水田が広がっている。積極的な森林の残置や造成法面の緑化により、周辺の里山景観、市街地景観、田園景観との調和に留意する。



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線
-  : シーン景観調査地点 (図中番号: 1~8)
-  : シークエンス景観調査地点 (図中番号: 9~11)
-  : 可視領域
※標高データより対象事業計画地の一部を視認できる箇所



※出典:「泉パークタウン住宅開発(第6期)に係る環境影響評価書」
(平成12年3月 三菱地所株式会社)

図 6.1-62
対象事業計画地の可視領域
と設定した眺望地点

(2) 自然との触れ合いの場

ア 自然との触れ合いの場の状況

a) 文献調査

対象事業計画地が位置する泉区は、七北田川や泉ヶ岳をはじめとした様々な水と緑がある。この対象事業計画地周辺には自然豊かな里山が残っており、新興住宅地は公園の緑や街路樹に彩られている。

七北田川の両岸は河岸段丘となっており、川は田より低いところを流れている。そのため、昔の人々は上流に堰や堤を造り、潜穴（くぐりあな）などの工夫を重ねて米を作り続けてきた。この堰や堤、用水路は今も地元の人々によって大切に管理されている。また、根白石、朴沢、福岡地区には、強風や寒さを防ぐ屋敷林（居久根）がたくさん残っている。

根白石地区では、泉の城跡及び史跡めぐり等の活動を通して豊かな自然や歴史と触れ合うことができるようになってきている（表 6.1-131 参照）。また、中学校では、七北田川で水生動物の調査を総合学習の一環として実施するなど、河川を中心に自然と触れ合う機会をもっている（表 6.1-132 参照）。

調査範囲における主要な自然との触れ合いの場は表 6.1-133、自然との触れ合いの場分布図は図 6.1-63 に示すとおりである。

調査範囲には、水の森公園、長命館跡等の公園、賀茂神社等の寺社、七北田川等の河川などの自然との触れ合いの場が 21 箇所ある。

表 6.1-131 根白石市民センターにおける活動（平成 25 年 3 月～平成 26 年 2 月）

活動名称	活動日	年度	活動内容
泉の城跡めぐり (根白石探検隊主催)	4/5, 12, 19, 26 5/10, 17 (全 6 回)	H25	泉区内の城跡探訪。
さくらコンサート	4/21	H25	さくらを愛でながら歌う。
根白石探検隊 ～ぶらっと根白石～	8/30, 9/6, 13, 20, 27 10/4 (全 6 回)	H25	根白石地域の史跡・みちしるべ ・神社・寺院等の探訪。
根白石探検隊 「みちしるべと定義の道」	11/1, 8, 15, 22, 29 12/6 (全 6 回)	H25	朴沢高野原～定義まで、みちしるべを辿りながら定義街道三つのコースを歩く。

出典：根白石市民センターだより（平成 25 年 3 月号～平成 26 年 2 月号）

表 6.1-132 根白石中学校における自然との触れ合い活動

活動項目	活動内容
水生動物調査	仙台市環境局と一緒に、七北田川（鼻毛橋、馬橋周辺）で毎年夏休みに総合学習の一環として水生動物の調査を実施している。
天体観測	中学校のグラウンドは、周囲に明かりとなるものが少なく、見晴らしも良いため、天体観測ポイントとなっている。授業の一環で不定期に実施している。
ホテル観察会	山田川のゲンジボタル群生地で観察会を実施している。
たたら製鉄の再現	平成 5 年～10 年頃にかけて、七北田川から原料となる砂鉄を採取するなど、日本に昔から伝わる鉄を作る技術を体験していた。歴史的な文化を学ぶ体験活動として、今後実施する可能性がある。

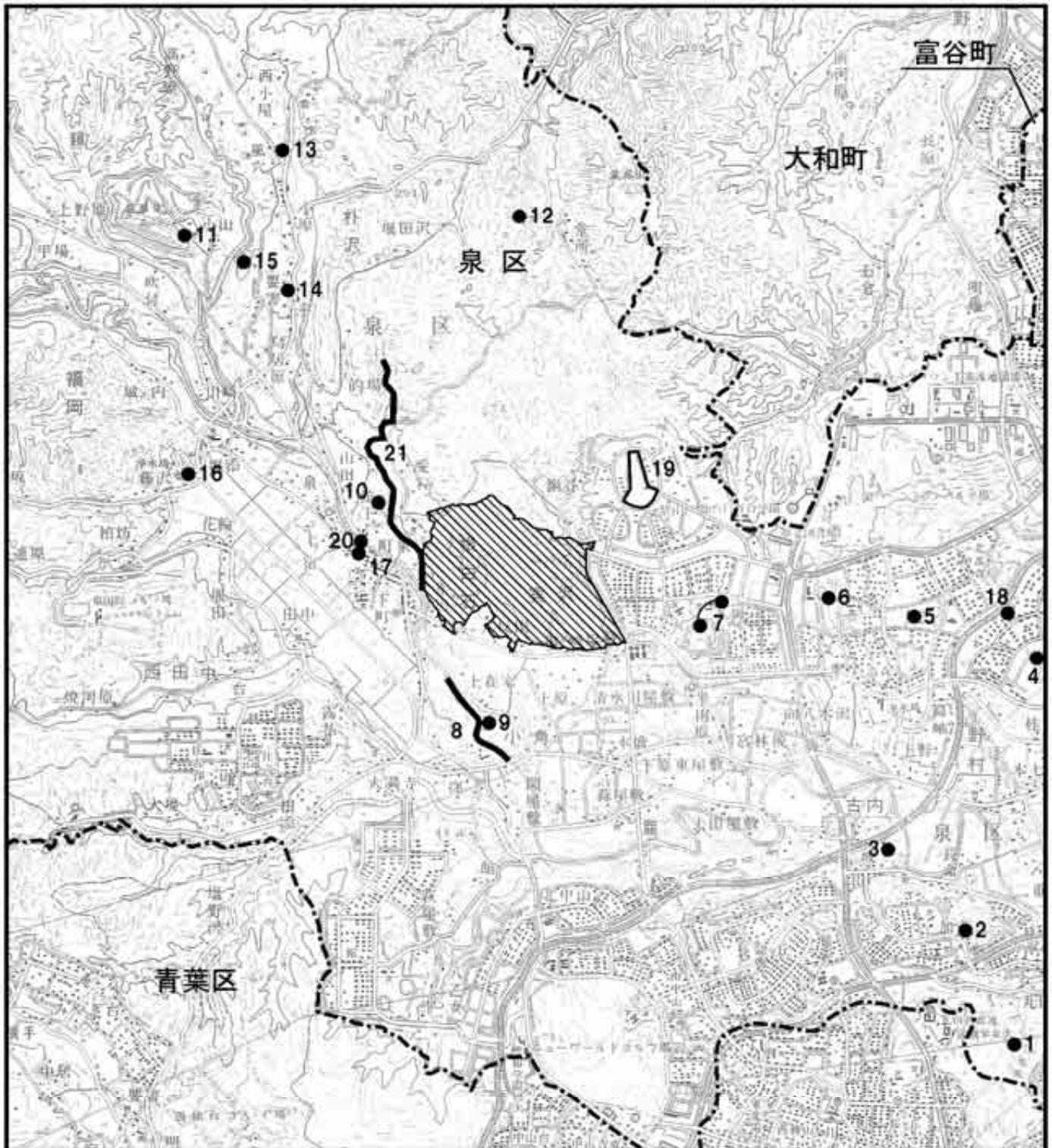
出典：根白石中学校ヒアリング（平成 21 年 10 月 22 日）

表 6.1-133 自然との触れ合いの場の概要

No.	名 称	所在地	文献※		
			①	②	③
1	水の森公園	青葉区水の森四丁目他	○	○	
2	長命館跡【長命館公園（風の子公園）】	泉区加茂二丁目	○	○	
3	賀茂神社	泉区古内字糺 1	○	○	
4	桂島緑地	泉区桂一丁目	○	○	
5	高森東公園	泉区高森六丁目	○	○	
6	高森公園（高森自然公園）	泉区高森二丁目	○	○	
7	寺岡山と高森寺岡公園（寺岡中央公園）	泉区寺岡二丁目	○	○	
8	七北田川（鼻毛橋～今宮堰付近）	泉区小角～根白石	○	○	
9	貴船神社	泉区根白石字明神	○		
10	白石城跡	泉区根白石字館下	○	○	
11	鷺倉神社（境内，姥杉）	泉区福岡字小山 117	○	○	
12	堂所付近	泉区根白石字堂所	○	○	
13	モミの木と亀の子石	泉区朴沢字壇の原	○	○	
14	興禅院の大イチョウ	泉区朴沢字南		○	
15	朴沢八幡神社	泉区朴沢字八幡下		○	
16	雷神社	泉区福岡字台		○	
17	満興寺	泉区根白石字町西上		○	
18	桂中央公園	泉区桂 2 丁目		○	
19	紫山公園	泉区紫山五丁目		○	
20	七北田川（馬橋付近）	泉区根白石字町頭			○
21	山田川	泉区根白石字広表中			○

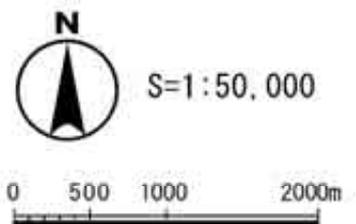
※：文献は以下のとおりである。

- ①「杜の都・仙台 わがまち緑の名所 100 選 ガイドブック」（平成 14 年 3 月 仙台市）
- ②「いずみの水と緑・続『み～つけた』」（平成 24 年 9 月 泉区まちづくり推進協議会）
- ③「根白石中学校ヒアリング」（平成 21 年 10 月 22 日）



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線
-  : 自然との触れ合いの場 (図中番号: 1~21)



出典:「杜の都・仙台 わがまち緑の名所100選 ガイドブック」(平成14年3月 仙台市)
 「いずみの水と緑・続『みつけた』」
 (平成24年9月 泉区まちづくり推進協議会)
 「根白石中学校ヒアリング」(平成21年10月22日)

図 6.1-63
 対象事業計画地周辺の
 自然との触れ合いの場
 分布図(文献調査)

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書において、自然との触れ合いの場の調査は行われていない。

イ 自然との触れ合いの場に対する保全上の留意点

自然との触れ合いの場は直接改変されるものではないが、自然との触れ合いの場の利便性に影響を及ぼすことが想定されるため、資材等の運搬や重機の稼動等に留意する。

(3) 文化財
 ア 文化財等の状況
 a) 文献調査

調査範囲には歴史のある寺社が残っており、建造物とともに古木や石碑などが現在も地域の人々に大切に守られている。また、この地域では古い伝統を受け継いで、わらで作った馬やわらじ等を飾る、七夕の原点を思わせる祭りが残っている。調査範囲における歴史的・文化的資源は表 6.1-134 に示すとおりである。

表 6.1-134 歴史的・文化的資源

名称	場所	概要
亀の子石	泉区朴沢字壇ノ原	亀の甲羅の形をした大きな石。昔、地蔵を作ろうとして何度も彫ってみたものの、元の亀の形に戻るため作るのをやめたという伝説が残っている。
朴沢八幡	泉区朴沢字八幡下	朴沢地区中央にある、旧朴沢村の一村鎮守。社の森には、見事なスギ、モミ、ヒノキ、ブナ、サクラ等がある。
笈分阿弥陀	泉区福岡字川崎	高さ 98.8cm の木造阿弥陀如来の立像。快慶の作と言われている。
根白石小学校	泉区根白石字杉下前	昭和 5 年に完成した貴賓室、講堂、地下道等を備えた洋風の木造校舎。仙台市内最古の木造建築の小学校で、サクラやイチョウ等の古木とともに、地域の人たちの誇りとなっている。
白石城跡	泉区根白石字館下	河岸段丘を利用した平山城。城跡には、宇佐八幡神社、兎口神社、市の指定文化財に指定されている裁松院の墓、三十三所観音などがある。
満興寺	根白石字町西上	1382 年開山と言われる寺。屋根は改修されたが、門柱や桁は昔のままとなっている。また、「満興寺七不思議」として民謡「願人節」で唄われている。
根白石の石	根白石字判在家	村名の起源を残すため 1728 年に造られた石碑。源頼朝が七ツ森で巻狩りをした際、家臣が大鹿に矢を放ち、近づいて見ると、鹿ではなく根元の白い石だったため、この辺りを根白石と呼ぶようになったと言われている。
七夕祭り	根白石地区	七夕の原点を思わせる祭り。家族みんなで願いを込め、鉢植えの笹竹に、わらで作った馬やわらじ等を飾っている。

出典：根白石歴史マップ（平成 21 年 6 月 根白石市民センター，図 6.1-64 参照）
 いずみの水と緑・続『み～つけた』（平成 24 年 9 月 泉区まちづくり推進協議会）



図 6.1-64 根白石歴史マップ

調査範囲における指定文化財等のうち、建造物、史跡及び天然記念物の分布状況は表 6.1-135～表 6.1-140、指定文化財等分布図は図 6.1-65 に示すとおりである。

調査範囲には、文化財として県指定の賀茂神社本殿、鷲倉神社の姥杉等がある。対象事業計画地から西側 500m には市指定の栽松院墓所がある。

表 6.1-135 指定文化財の状況（国指定）

【国指定文化財】					
No.	名称	員数	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
有形文化財（歴史資料）					
1	坤輿萬国全図（版本） 附 坤輿萬国全図（着色）	6 幅	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H2. 6. 29
特別天然記念物					
2	ニホンカモシカ	（不定）	—	—	S30. 2. 15

出典：「仙台市の文化財（指定文化財及び登録文化財）の種類と数」（平成 23 年 11 月 仙台市教育局文化財課）

<http://www.city.sendai.jp/manabu/bunkazai/sendai/1303.html>

「宮城県の指定文化財」（宮城県文化財保護課）<http://www.pref.miyagi.jp/site/sitei/>

表 6.1-136 指定文化財の状況（国登録）

【国登録文化財】					
No.	名称	員数	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
有形文化財（歴史資料）					
3	紙芝居資料	5,652 点	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H18. 3. 31

出典：「仙台市の文化財（指定文化財及び登録文化財）の種類と数」（平成 23 年 11 月 仙台市教育局文化財課）

<http://www.city.sendai.jp/manabu/bunkazai/sendai/1303.html>

「宮城県の指定文化財」（宮城県文化財保護課）<http://www.pref.miyagi.jp/site/sitei/>

表 6.1-137 指定文化財の状況（県指定）（1/3）

【県指定文化財】					
No.	名称	員数	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
有形文化財（建造物）					
4	賀茂神社本殿 附 棟札 2 枚	2 棟	仙台市泉区古内字糺 1	賀茂神社	S39. 9. 4
有形文化財（彫刻）					
5	木造阿弥陀如来立像	1 軀	仙台市泉区福岡字	個人	S40. 5. 18
6	木造十一面観音立像	1 軀	仙台市泉区高森	個人	S51. 3. 29

出典：「仙台市の文化財（指定文化財及び登録文化財）の種類と数」（平成 23 年 11 月 仙台市教育局文化財課）

<http://www.city.sendai.jp/manabu/bunkazai/sendai/1303.html>

「宮城県の指定文化財」（宮城県文化財保護課）<http://www.pref.miyagi.jp/site/sitei/>

表 6.1-138 指定文化財の状況(県指定)(2/3)

【県指定文化財】					
No.	名称	員数	所在地	所有者(管理者)	指定年月日
有形文化財(書籍典籍)					
7	観文禽譜(稿本) 禽譜(稿本)	12冊 11帖	仙台市泉区紫山1-1-1	宮城県図書館	H15.1.31
8	魚蟲譜(写本)	7巻	仙台市泉区紫山1-1-1	宮城県図書館	H15.1.31
9	關算四傳書(写本)	507冊	仙台市泉区紫山1-1-1	宮城県図書館	H15.1.31
10	貞観政要(伏見版)	8冊	仙台市泉区紫山1-1-1	宮城県図書館	H15.1.31
11	光悦謡本一百番(特製本)	99冊	仙台市泉区紫山1-1-1	宮城県図書館	H15.1.31
12	生計纂要(稿本)	88冊	仙台市泉区紫山1-1-1	宮城県図書館	H15.1.31
13	三航蝦夷日誌(稿本)	35冊	仙台市泉区紫山1-1-1	宮城県図書館	H15.1.31
14	北海道風土記(稿本) 附図10枚 附 北海道風土記(草稿) 附 琉球新誌 附図1枚 附 小笠原島新誌 附図1枚	27冊 6冊 1冊 1冊	仙台市泉区紫山1-1-1	宮城県図書館	H15.1.31
15	言海(稿本)	32冊	仙台市泉区紫山1-1-1	宮城県図書館	H15.1.31
16	皇国地誌	26冊 附図 495舗	仙台市泉区紫山1-1-1	宮城県図書館	H15.7.1
17	朝鮮古刊本	46部 262冊	仙台市泉区紫山1-1-1	宮城県図書館	H16.6.29
18	環海異聞(写本)	16冊	仙台市泉区紫山1-1-1	宮城県図書館	H17.7.26
19	金城秘韞(写本)	2冊	仙台市泉区紫山1-1-1	宮城県図書館	H17.7.26
20	英文翻訳彼理日本紀行(稿本)	10冊	仙台市泉区紫山1-1-1	宮城県図書館	H17.7.26
21	奥州名所図会(自筆稿本)	4冊	仙台市泉区紫山1-1-1	宮城県図書館	H17.7.26
22	熟語本位英和大辞典(自筆原稿)	1本	仙台市泉区紫山1-1-1	宮城県図書館	H17.7.26
23	宮城県漁具図解及び略解	2帖	仙台市泉区紫山1-1-1	宮城県図書館	H19.2.16
24	奥羽観蹟聞老志	20冊	仙台市泉区紫山1-1-1	宮城県図書館	H19.10.26
25	風土記御用書出	66冊	仙台市泉区紫山1-1-1	宮城県図書館	H19.10.26

出典:「仙台市の文化財(指定文化財及び登録文化財)の種類と数」(平成23年11月 仙台市教育局文化財課)

<http://www.city.sendai.jp/manabu/bunkazai/sendai/1303.html>

「宮城県の指定文化財」(宮城県文化財保護課) <http://www.pref.miyagi.jp/site/sitei/>

表 6.1-139 指定文化財の状況(県指定)(3/3)

【県指定文化財】					
No.	名称	員数	所在地	所有者(管理者)	指定年月日
有形文化財(歴史資料)					
26	国絵図	52 舗 1 軸 関係文書 10	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 7. 1
27	仙台北城下絵図	13 舗	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 7. 1
28	仙台北城絵図	13 舗 1 帖 1 冊	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 7. 1
29	仙台北別業・江戸屋敷等絵図	13 舗 7 枚 2 幅 2 冊	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 7. 1
30	城・要害・在郷屋敷絵図 附 関係文書 1 通	109 舗	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 7. 1
31	領内図	116 舗 24 枚 4 冊	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 7. 1
32	飛地領絵図 附 関係文書 5 件	18 舗	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 7. 1
33	蝦夷地関係絵図	14 舗 16 枚 1 冊	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 7. 1
34	境絵図	21 舗	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 7. 1
35	伊能図(中図) 附 北極出地度里程測量 3 冊	5 軸	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H15. 7. 1
36	仙台北祭絵関係資料	1 帖 1 巻	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H17. 7. 26
無形民俗文化財					
37	芋沢の田植踊	(不定)	仙台市青葉区芋沢	芋沢の田植踊 保存会	S35. 4. 23
38	福岡の鹿踊・剣舞	(不定)	仙台市泉区福岡	福岡の鹿踊 ・剣舞保存会	H3. 8. 30
39	上谷刈の鹿踊・剣舞	(不定)	仙台市泉区上谷刈	上谷刈の鹿踊 ・剣舞保存会	H11. 10. 29
天然記念物					
40	鷲倉神社の姥杉	1 本	仙台市泉区福岡字 小山 19-2	鷲倉神社	H10. 1. 16
41	賀茂神社のイロハモミジ	2 本	仙台市泉区古内字糺 1	賀茂神社	H11. 7. 2
42	賀茂神社のタラヨウ	1 本	仙台市泉区古内字糺 1	賀茂神社	H11. 7. 2

出典:「仙台市の文化財(指定文化財及び登録文化財)の種類と数」(平成 23 年 11 月 仙台市教育局文化財課)

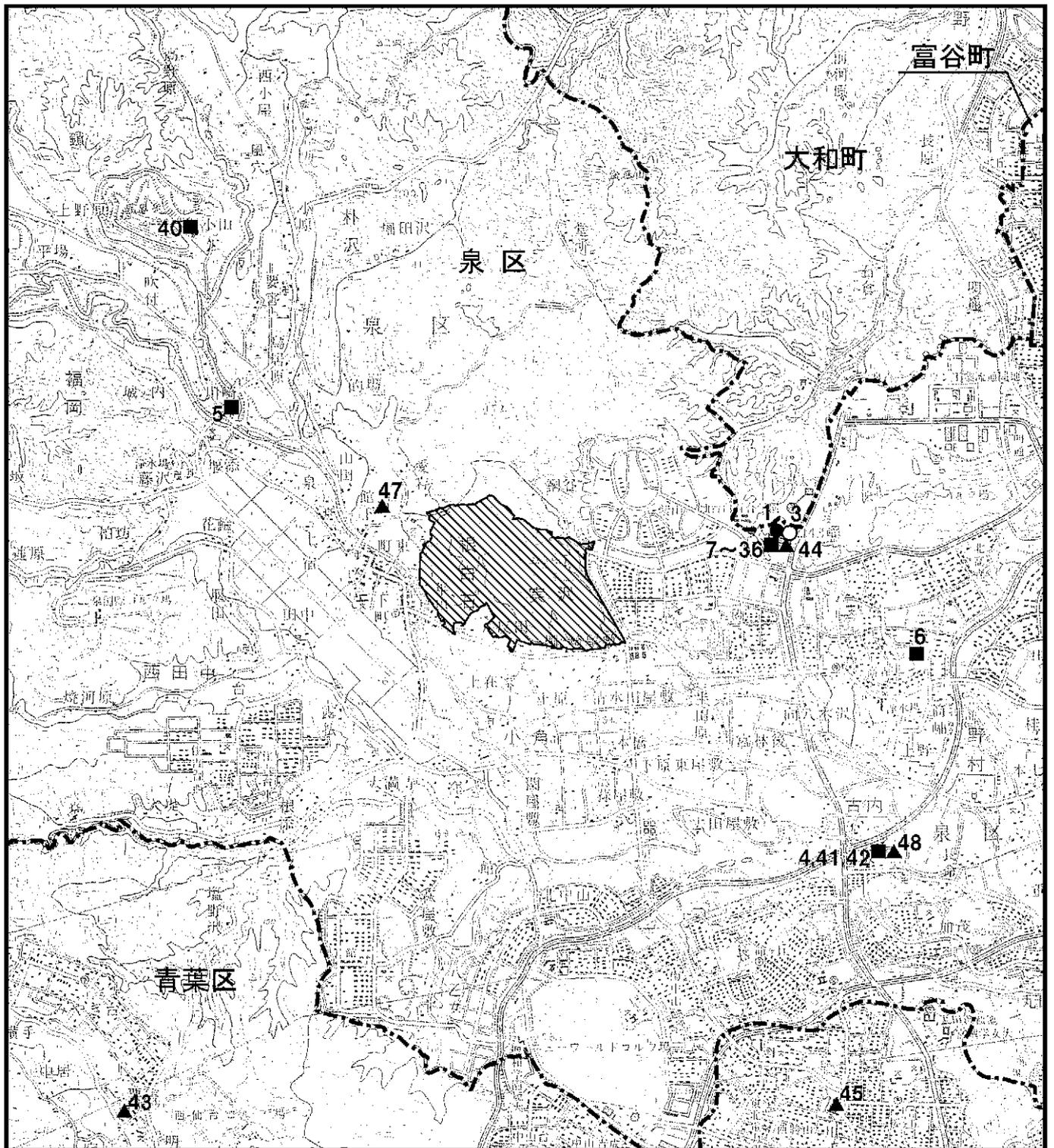
<http://www.city.sendai.jp/manabu/bunkazai/sendai/1303.html>

「宮城県の指定文化財」(宮城県文化財保護課) <http://www.pref.miyagi.jp/site/sitei/>

表 6.1-140 指定文化財の状況(市指定)

【市指定文化財】					
No.	名称	員数	所在地	所有者(管理者)	指定年月日
有形文化財(建造物)					
43	宇那禰神社本殿 附 棟札 5 枚	1 棟	仙台市青葉区芋沢字 明神 12	宇那禰神社	S47. 12. 27
有形文化財(歴史資料)					
44	仙台藩修復帳 御修復帳	1 冊 1 冊	仙台市泉区紫山 1-1-1	宮城県図書館	H12. 4. 28
45	朴沢学園裁縫教育資料	一括	仙台市青葉区 川平二丁目 26-1	学校法人 朴沢学園	H23. 7. 1
無形民俗文化財					
46	大沢の田植踊	(不定)	仙台市泉区泉ヶ丘	大沢の田植踊 保存会	S62. 8. 1
史跡					
47	栽松院墓所	(不定)	仙台市泉区根白石字 館下	満興寺	S43. 3. 1
天然記念物					
48	賀茂神社のアラカシ	2 本	泉区古内字糺 1	賀茂神社	S60. 4. 25

出典：「仙台市の文化財(指定文化財及び登録文化財)の種類と数」(平成 23 年 11 月 仙台市教育局文化財課)
<http://www.city.sendai.jp/manabu/bunkazai/sendai/1303.html>
「宮城県の指定文化財」(宮城県文化財保護課) <http://www.pref.miyagi.jp/site/sitei/>

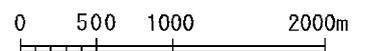


凡 例

- | | |
|---|--|
|  : 対象事業計画地 |  : 県指定文化財
(図中番号 : 4~36, 40~42) |
|  : 市区町境界線 |  : 市指定文化財
(図中番号 : 43~45, 47, 48) |
|  : 国指定文化財 (図中番号 : 1) |  : 国登録文化財 (図中番号 : 3) |



S=1:50,000



※No. 2のカモシカの分布域は出典に記載されていないため図示していない。
No. 37~39及びNo. 46は無形民俗文化財であるため図示していない。

出典: 「仙台市の文化財(指定文化財及び登録文化財)の種類と数」
(平成23年11月 仙台市教育局文化財課)
<http://www.city.sendai.jp/manabu/bunkazai/sendai/1303.html>
「宮城県の指定文化財」(宮城県文化財保護課)
<http://www.pref.miyagi.jp/site/sitei>

図 6.1-65
対象事業計画地周辺の
指定文化財等分布図
(文献調査)

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書において、指定文化財等の調査は行われていない。

イ 埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の状況

a) 文献調査

調査範囲の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）は表 6.1-141 及び表 6.1-142、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）分布図は図 6.1-66 に示すとおりである。

対象事業計画地内及び近傍には、青笹山遺跡、養賢堂遺跡、針生山遺跡がある。これらの遺跡の調査結果は表 6.1-143 に示すとおりである。平成 4 年及び平成 9 年に試掘確認調査が実施されており、青笹山遺跡、養賢堂遺跡については、仙台市教育委員会により『本調査は必要なく、工事着手は差し支えない』との判断がなされている。一方、針生山遺跡については、『開発地域内で遺構・遺物包含層が発見される可能性が高く、本調査を行う必要がある』とされている。

針生山遺跡の位置を土地利用計画図と重ね合わせた結果は、図 6.1-67 に示すとおりである。針生山遺跡は、対象事業計画地内の中央付近に残置する予定の森林と、造成により発生する切土法面を跨いだ位置となっている。

表 6.1-141 埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の状況（1/2）

No.	名称	所在地
仙台市泉区		
1	泥畑遺跡	泉区福岡字泥畑
2	西上野原遺跡	泉区福岡字西上野原
3	西上野原 B 遺跡	泉区福岡字西上野原
4	高野原 A 遺跡	泉区朴沢字高野原
5	高野原 B 遺跡	泉区朴沢字高野原
6	畑中遺跡	泉区朴沢字畑中・畑中前
7	西小屋遺跡	泉区朴沢字西小屋
8	檀の原遺跡	泉区朴沢字檀の原
9	檀の原小塚	泉区朴沢字檀の原
10	西脇西遺跡	泉区朴沢字西脇西
11	亀ノ子小塚	泉区朴沢字檀の原
12	新田遺跡	泉区朴沢字新田
13	鷲倉神社板碑（小山板 A 碑群）	泉区福岡字小山
14	松岩寺板碑（小山板碑 B 群）	泉区福岡字小山
15	中在家遺跡	泉区朴沢字中在家
16	朴沢新城跡	泉区朴沢字要害
17	南遺跡	泉区朴沢字南
18	原遺跡	泉区朴沢字原
19	山下遺跡	泉区朴沢字山下
20	上鳥居原遺跡	泉区朴沢字上鳥居原
21	鳥居原遺跡	泉区朴沢字鳥居原
22	堰添 A 遺跡	泉区福岡字堰添
23	堰添 B 遺跡	泉区福岡字堰添
24	刑部塚	泉区福岡字中在家
25	福岡館跡	泉区福岡字城ノ内
26	慶得庵の碑	泉区福岡字城ノ内裏
27	柏坊遺跡	泉区福岡字柏坊
28	花輪山遺跡	泉区根白石字花輪山
29	成田山館遺跡	泉区住吉台西三・四丁目
30	東泉板碑群	泉区福岡字東泉
31	弘安の碑	泉区根白石字君ヶ代

出典：「宮城県遺跡地図」（平成 25 年 8 月 宮城県文化財保護課）<http://www.pref.miyagi.jp/bunkazai/webgis.htm>

表 6.1-142 埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の状況（2/2）

No.	名称	所在地
仙台市泉区		
32	柿屋敷板碑	泉区西田中字柿屋敷
33	館陰遺跡	泉区根白石字館陰
34	宇佐八幡宮板碑群（館下板碑B群）	泉区根白石字館下
35	白石城跡	泉区根白石字館下
36	館下板碑群	泉区根白石字館下
37	青笹山遺跡	泉区根白石字青笹山
38	新坂下板碑群	泉区根白石字新坂下
39	養賢堂遺跡	泉区根白石字養賢堂
40	針生山遺跡	泉区根白石字針生山
41	銅谷遺跡	泉区根白石字銅谷
42	紫山遺跡	泉区寺岡三丁目
43	寺岡廃寺	泉区寺岡二丁目
44	福沢城跡	泉区根白石字福沢館下
45	小岳館跡	泉区小角字館・広畑
46	ドウコン塚	泉区実沢字十文字
47	八乙女館跡	泉区実沢字道祖神
48	山野内館跡	泉区実沢字六堂屋敷
49	戸平鍛冶跡	泉区実沢字戸平
50	関の上遺跡	泉区古内字関の上
51	宮下遺跡	泉区古内字宮下
52	長命館跡	泉区加茂二丁目
53	堂所山遺跡	泉区根白石字堂所山
54	宮床山遺跡	泉区朴沢字宮床山
55	堂庭廃寺跡	泉区根白石字堂庭山
仙台市青葉区		
56	荒神館跡	青葉区芋沢字荒神
57	宇那弥神社跡	青葉区芋沢字明神
58	黒森山遺跡	青葉区中山台四丁目
大和町		
59	長原窯跡	大和町小野字長原
60	長原C遺跡	大和町小野字黒木
61	長原上遺跡	大和町小野字後藤
62	赤坂遺跡	大和町小野字赤坂
63	摺萩遺跡	大和町宮床字摺萩

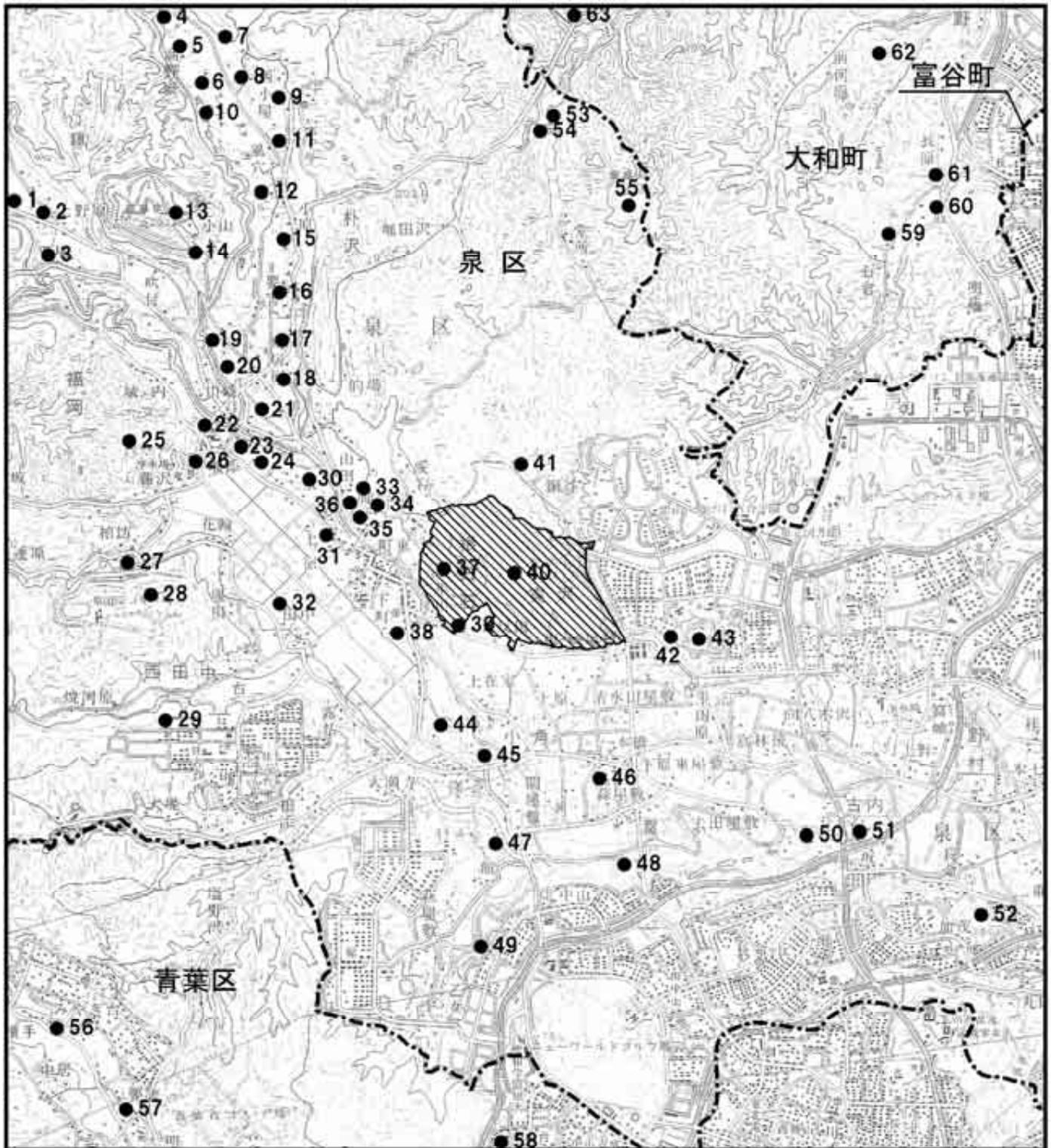
出典：「宮城県遺跡地図」（平成25年8月 宮城県文化財保護課）<http://www.pref.miyagi.jp/bunkazai/webgis.htm>

表 6.1-143 埋蔵文化財包蔵地（遺跡）調査結果一覧表

NO.	文化財番号・名称	試掘調査月日	調査結果	備考
37	19029 青笹山遺跡 （アオササヤマ）	平成4年11月9日	本調査不要 （工事着手差支えなし）	旧石器・縄文 散布地※
38	19018 養賢堂遺跡 （ヨウケンドウ）	平成9年10月28日	本調査不要 （工事着手差支えなし）	縄文 散布地※
40	19088 針生山遺跡 （ハリウヤマ）	平成9年10月29日～31日	本調査必要	縄文 散布地※

※散布地：単に日常生活で使われていた土器や石器などが散布または土中に包含している遺跡で、集落跡である場合が多い。

出典：聞き取り・資料調査による（平成21年6月9日 仙台市教育委員会生涯学習部文化財課より）



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線
-  : 埋蔵文化財包蔵地 (图中番号: 1~63)



S=1:50,000

0 500 1000 2000m

図 6.1-66
対象事業計画地周辺の
埋蔵文化財包蔵地 (遺跡)
分布図 (文献調査)

出典:「宮城県遺跡地図」(平成25年8月 宮城県文化財保護課)
<http://www.pref.miyagi.jp/bunkazai/webgis.htm>

b) 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書において、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の調査は行われていない。

ウ 埋蔵文化財包蔵地（遺跡）に対する保全上の留意点

対象事業計画地内に位置する針生山遺跡については、「開発地域内で遺構・遺物包含層が発見される可能性が高く、本調査を行う必要がある」とされている。針生山遺跡の一部には造成により発生する切土法面が位置しているため、当該法面を造成する前に本調査を実施することで、工事による遺構・遺物を損傷しないように留意する。